商情講義

2010年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名　クラス　講義区分		
キャリア教育科目－キャリアデザインⅡ		
中　山　一　郎 中　山　一　郎 野　口　由輝子 前　川　　明	01＜通期＞ 02＜通期＞ 03＜通期＞ 04＜通期＞	4単位

【講義概要】
春学期では、夏休みのフィールドワーク（働く社会人へのキャリアインタビュー）に向け、より実践的に、社会との接点を意識した取組を行います。また秋学期では、3年生の秋からスタートする本格的な就職活動に向けて、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを学び、自分に合った進路や就職の選択ができるよう、準備をしていきます。キャリアデザインⅠで学んだ内容をより深堀し、自分の言葉で自分自身を語れるようにしていきましょう。

【学習目標】
キャリアデザインⅡでは、フィールドワーク（企業訪問）や、グループディスカッション、プレゼンテーション、企業が求める人材を知ることにより、「社会で求められる基本的スキル（情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力）」を身につけていきます。表面的な就職活動のハウツーを伝授するものではなく、社会で本当に必要とされる力を学び、大学生活を通じてこれらの力を獲得していきます。

【講義計画】
第1回　キャリアデザインⅡとは
第2回　自分について考えよう（振り返り）
第3回　社会で生きる
第4回　社会で求める人材
第5回　会社・組織研究
第6回　企業研究
第7回　ビジネスマナー基本
第8回　ビジネスマナー応用
第9回　社会人の心構え
第10回　夏休みのフィールドワークについて①
第11回　夏休みのフィールドワークについて②
第12回　夏休みのフィールドワークについて③
第13回　夏休みのフィールドワークについて④
第14回　夏休みのフィールドワークについて（まとめ）
第15回　モチベーションアップと夏休みまでの振り返り
第16回　フィールドワークの報告会①
第17回　フィールドワークの報告会②
第18回　履修科目と社会のつながり
第19回　就職活動を意識した4つの力と3つの行動
第20回　情報収集力を身につける
第21回　思考力を身につける
第22回　遂行力を身につける
第23回　コミュニケーション力を身につける
第24回　キャリアアプローチ
第25回　働く社会人（OBOG）からのお話（予定）
第26回　インターンシップに向けての心構え
第27回　先輩からの学びとエントリシート（キャリアアプローチの結果を活用します）
第28回　目標に向かってチャレンジ（キャリアアプローチの結果を活用します）

【成績評価の方法】
出席率・講義への参加度・レポート等による総合評価で判断します。
特に夏休みのフィールドワークの参加は評価において大きなウェートを占めます。

【教科書】
㈱ベネッセコーポレーション　マイキャリアノートⅠ　㈱ベネッセコーポレーション

【参考文献】
講義中に適宜指示します

【備考】
自己プログレスレポート（キャリアデザインⅠ講義内で実施したアセスメント）
必要に応じてプリント配布
受講条件：キャリアデザインⅠを受講済の方
・09生対象

科目名　クラス　講義区分	
キャリア教育科目－業界・職種研究入門　01＜春＞ キャリア教育科目－業界・職種研究入門　02＜秋＞	
鈴　木　富　久	2単位

【講義概要】
本講義の目的は、業界（業種）・職種に関する生きた情報を提供し、学生諸君の業界（業種）・職種選択に資することにある。講義は、メーカー、商社、情報通信、マスコミ、運輸通信、流通、小売、金融、等々の各業界・各職種の現役職業人によって行われる。卒業後の職業的進路として、企業への就職を考えている学生諸君の積極的履修を望む。

【学習目標】
自らのキャリアデザインを作成するために必要な業界（業種）・職種に関する生きた知識を吸収すること、また講義で紹介されるもの以外の情報についても、自ら調査・研究する方法について学習すること。

【講義計画】
第1回　講義ガイダンス
第2回　業界（業種）と職種について考える（概論）
第3回　業界（業種）と職種①
第4回　業界（業種）と職種②
第5回　業界（業種）と職種③
第6回　業界（業種）と職種④
第7回　業界（業種）と職種⑤
第8回　業界（業種）と職種⑥
第9回　業界（業種）と職種⑦
第10回　業界（業種）と職種⑧
第11回　業界（業種）と職種⑨
第12回　業界（業種）と職種⑩
第13回　業界（業種）と職種⑪
第14回　まとめ
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　40%　出席　20%
毎回、レポートを提出してもらう。

【備考】
【準備学習の指示】
日常的に業界・職種への関心を拡げることに努め、毎回の受講では講義内容を整理しておくこと。
レポートを提出する際には、写しを保存しておくこと。
・インテグレーション科目
・09生は01クラスのみ履修可
・10生は02クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
キャリア教育科目－職業を考える　01<春> キャリア教育科目－職業を考える　02<秋>	
中　井　紀　明	２単位

【講義概要】
皆さんは卒業後の就職のことを考えていますか。しっかりとした目標を持っている人、よくわからないけれどそろそろ考えないといけないと思っている人、大学生活が楽しくて就職なんて考えられない人、悩んで迷っている人、いろいろな状況の人がいると思います。しかし、ほとんどの人の場合、卒業・就職後の時間の多くは働くということに関わってきます。すなわち「職業を考える」ことは、これからの生き方を考えることにつながるということです。
　本講義では、本学の卒業生を含めて、いくつかの業界の現役の職業人の方に講師として来ていただき、業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性など、さまざまな体験を講義していただきます。

【学習目標】
講義を通して、働くことの意味やその実態について学び、自分自身のライフプランやキャリアプランを考えてもらうことを学習目標とします。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の進め方を説明するとともに、授業を効果的に進めるために受講生が守らなければならないルールを説明します。）
第２回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（１）
第３回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（２）
第４回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（３）
第５回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（４）
第６回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（５）
第７回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（６）
第８回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（７）
第９回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（８）
第10回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（９）
第11回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（10）
第12回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（11）
第13回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（12）
第14回　業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性（公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など）（13）
第15回　全体のまとめ（　講義を通して、どのようなことを理解し、どのようなことを考えるようになったか、ということをまとめます。）

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%
出席、レポート、期末試験の総合評価。なお、期末試験として最後にノートを提出してもらいます（コピー不可）ので、毎回講義内容を整理しておくことが求められます。

【教科書】
必要に応じて提示する。

【備考】
【準備学習の指示】
各業界の注目すべき動向を新聞などで調べておくこと。
・インテグレーション科目
・08生は01クラスのみ履修可
・09生は02クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
キャリア教育科目－生活設計　01<春> キャリア教育科目－生活設計　02<秋>	
松　下　直　子	２単位

【講義概要】
・様々な環境変化の中、ビジネス社会においても、組織側から社員への「押し着せの能力開発」の時代から、「自己責任と自律のキャリア開発」を個々人が意識することが必要になっています。
・職業人となってから、私たちが自身の生活設計を具現化するために、必要な力、とはなんでしょうか。専門知識だけでは、ビジネス社会を渡っていけるものではありません。職業人となってからは、大学で学んだ知識に加え、生活や仕事に不可欠な各種スキルや知識、智恵を、各自で習得していかねばなりません。自らが意識的、意欲的にスキルを吸収し続ける努力が必要です。仕事を中心とした自身の人生を、自らが自立・自律して描くために、学生のうちから「育つ」意識と行動を持つことが非常に重要な重要になってきています。
・学生諸君が社会に巣立った後、「自分の人生を自分らしく、自分で選択して生きる」ために必要な様々な知識やスキル、考え方を、演習型式も取り入れながらで楽しく分かりやすく学びます。

【学習目標】
・ビジネス社会が抱える課題や、そこで働く職業人の喜怒哀楽を知り、学生から職業人になる心の準備を行ないます。
・ビジネス社会がどのように成り立っているのか、組織はどのようにして限られた経営資源から付加価値を生み出しているのか、職業人に必要な職務遂行能力とは何か。だからこそ、どのような人材を求め、輩出しようとしているのか、を考察します。
・公私共に充実した豊かな人生を主体的に創るために必要な考え方や知識、智恵とは何か。大学卒業後の自身の人生を、より具体的に前向きに検討するきっかけを掴んでいただきます。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション／生活と仕事の関連・調和
第２回　特別講義／学生生活と就職活動
第３回　自己認識と自己受容／私のタイプ、価値観、スキルを知る
第４回　職業人に必要なスキルを知る①／業務遂行能力、スキルとは何か
第５回　職業人に必要なスキルを知る②／対人力を向上させる
第６回　職業人に必要なスキルを知る③／思考力を向上させる
第７回　組織の人事ルールを知る／労働法と組織倫理
第８回　組織の人事システムを知る①／評価制度と育成制度
第９回　組織の人事システムを知る②／給与とその仕組み
第10回　行政の社会保障施策を知る①／労働保険（労災保険、雇用保険）
第11回　行政の社会保障施策を知る②／社会保険（年金、健康保険）と私的保険
第12回　行政の税制施策を知る／租税（所得税、住民税、法人税）と徴収の仕組み
第13回　生活設計と経済プラン／人生に必要な収入と支出
第14回　総括／期間外試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　０%　出席　50%
単位取得のみが目的の、学ぶ意欲なき学生の参加はお断りします。

【教科書】
毎回、レジメをコピーして配布予定

【備考】
【準備学習の指示】
・下記の問いに応えられるようにした上で受講して下さい。
　「あなたは、大学に何を学ぶために進学しましたか。それは現在、実践できていますか」
　「あなたが、大学時代に‘熱心に取り組んだ’と言えるものは何ですか。もしくは何に取り組みたいですか」
・08生は01クラスのみ履修可
・09～10生は02クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
キャリア教育科目－働くことと法知識　01＜春＞ キャリア教育科目－働くことと法知識　02＜秋＞	
平　井　信　夫	２単位

【講義概要】
「雇用社会の25の疑問」(大内伸哉　著)をテキストとして使用し、労働に関すして発生する身近な問題点に焦点を当てて、裁判の実情などの具体例とともに説明することなどを通じて問題意識を喚起する。(第２話、５話、11話、12話、14話、19話、22話の７つのテーマは割愛する)

【学習目標】
講義を通じて、問題点の発掘と、紛争当事者の各立場における考え方の相違などを実感してもらえれば良い。そのことから社会生活に役立つであろう法的センスの涵養につながれば幸いである。

【講義計画】
第１回　憲法から始まる全体的な法体系の説明と、労働法関係の位置づけなどの説明などを行なう。
第２回　第13話「労働法は誰に適用されるか」
第３回　第24話「会社は誰のものか」
第４回　第20話「誰が『強い』労働者か」、第６話「労働者にはどうしてストライキ権があるのか」
第５回　第21話「労働者が自己決定することは許されないのか」
第６回　第１話「どうして、社員は就業規則に従わなければならないのか」
第７回　第３話「社員は、会社の転勤命令に、どこまで従わなければならないのか」、レポート要求
第８回　第７話「女子アナは、裏方業務への異動命令に従わなければならないのか」、第４話「女性社員は、夜にキャバクラでアルバイトをしてよいか」、レポート提出
第９回　レポート返却、解説
第10回　第８話「会社は美人だけを採用してはダメなのであろうか」、第23話「雇用における男女差別は、本当に法律で禁止すべきことなのであろうか」
第11回　第18話「定年制は、年齢による差別といえるであろうか」、第10話「会社は、どんな社員なら辞めさせることができるか」
第12回　第９話「会社は、試用期間において、本当に雇用を試すことができるか」
第13回　第17話「正社員とパートとの賃金格差は、あってならないものか」、第15話「成果主義賃金は、公正な賃金システムであろうか」
第14回　第16話「公務員には、ほんとうに身分保障があるのか」、第25話「ニートは、何が問題なのか」

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%
授業中に話した内容(キーワード)が、答案などに反映されていれば、高く評価する。

【教科書】
大内伸哉 雇用社会の25の疑問(労働法再入門) 弘文堂
講義の準備としては、本テキストの目次部分を読んで、どのようなことがテーマとなっているか俯瞰しておいて下さい。

【備考】
・08～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
教育学概論　01＜春＞ 教育学概論　02＜秋＞	
竹　中　暉　雄	２単位

【講義概要】
教育について考えるには、人間について考える必要がある。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのか。その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、その際においても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。教育の理念を実現するためには、それに相応しい教育課程が必要であり、教育課程は教育理念の違いに応じて異なってくる。「学習指導要領」の変遷の裏にも、教育理念の変化が存在している。

【学習目標】
教育の本質：なぜ人間だけに教育が必要であり、また可能であるのか、なぜ人間だけに生涯学習が必要であり、また可能なのか、その理由を論理的に説明できるようになること。
教育理念の歴史：　「合自然」という近代教育思想の原理が生まれてきた理由、「合自然」に反対する教育思想が生まれてきた理由、「合自然」「反合自然」の双方を批判する教育思想の根拠を論理的に説明できるようになること。
教育課程の意義・編成：　教育理念の実現方法としての教育課程の意義、教育理念と教育課程との間の相即関係について理解し、かつ日本の「学習指導要領」に反映されてきた教育理念について説明できるようになること。
教育学における教育理念とは異なる教育理念について説明できるようになること。

【講義計画】
第１回　教育の一般的定義と教育の困難性
第２回　人間の教育必要性と教育可能性
第３回　人間の想像性・創造性
第４回　遺伝×環境×？
第５回　生涯学習の可能性と必要性
第６回　教育上の人間関係
第７回　近代教育の原理「合自然」
第８回　ルソーによる「子どもの発見」
第９回　「合自然」の流れと反「合自然」
第10回　児童中心主義とデューイ教育学
第11回　連続の教育と非連続の教育
第12回　教育理念の実現方法としての教育課程
第13回　教育課程の編成方法と「学習指導要領」
第14回　「権力作用」としての教育
第15回　まとめ・試験

【成績評価の方法】
試験　100%
論述試験。講義の前半、後半からそれぞれ２問出題、それぞれから１問、計２問選択。設問に対応した内容になっているかどうか、論理的に説明できているかどうかという観点から評価する。講義内容を「利用」しながら、各自独自の答案を書き上げてほしい。

【参考文献】
竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』(改訂版) ナカニシヤ出版、2003年

【備考】
質問や意見は、E-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、オフィス・アワーなどで受け付ける。なお毎回、参考書に対応したレジュメを配布するので、聴講しながらそれを補完すること。但し特段の理由のない遅刻者には、授業終了まで配布しない。
準備学習等について：　毎回、メモをとったレジュメをもとに講義内容を自分の頭のなかで再現すること。できれば受講生同士で授業のし合いをしてほしい。そのことが最善の復習となり、次回受講への準備となる。

科目名　クラス　講義区分	
教育課程論　01＜春＞ 教育課程論　02＜秋＞	
大　野　順　子	2単位

【講義概要】
本講義では日本の小学校、中学校、高等学校における教育課程の制度と内容（学校で何を教えるかについての制度と内容）について学び、児童・青年の発達課題に応える教育課程改革のあり方について講義する。

【学習目標】
受講生は、日本の学校の教育課程が直面している諸課題について知ることと（特に学力との関係から）、自己の大学入学までの学習をふりかえり、基礎的・発展的な学力形成のために教育課程はどのように編成されるべきかについて考えることができるようになることが到達目標となる。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業開き）
　　＜重要＞グループ分けや講義全体に関する重要な資料を配布する予定ですので必ず出席すること。欠席者には「特別課題」を与えます。
第２回　教育課程を編成するとは
第３回　学習指導要領と教育課程編成
第４回　学習指導要領と教科書の関係
第５回　日本の入試制度の特徴と教育課程
第６回　子ども・青年の発達段階と教育課程
第７回　子ども・青年の学力の実態と教育課程
第８回　「教育内容の基礎・基本」と教育課程
第９回　「総合的な学習の時間」の位置づけと教育課程
第10回　学校の「特色づくり」と教育課程
第11回　国際理解教育の課題と教育課程
第12回　情報教育の課題と教育課程
第13回　環境教育の課題と教育課程
第14回　職業・労働に関する教育の課題と教育課程
第15回　まとめ・試験

【成績評価の方法】
①出席（12回／全15回、以上出席のこと。これに満たない者は評価しない）
②課題レポート（半期中、最低４回程度出します。締切厳守。期日後の提出はいかなる場合も認めない）
③期末試験・テスト（特に重視する）
※①②が満たせた上で、③試験結果を重視します。
その他、詳細については第一回目の授業でレジュメを配布する。
＜重要＞第一回目の授業は必ず出席することが大原則です。

【教科書】
特に指定しないが、授業内で指示する。
テーマに沿ったレジュメを配布する。

【参考文献】
田中耕治他著『新しい時代の教育課程』有斐閣　2009
梶田叡一『教育評価』有斐閣双書　2001
安彦忠彦編『新版カリキュラム研究入門』勁草書房　1999
田中耕治『教育評価』岩波書店　2008

【備考】
【準備学習の指示】
参考文献、及び、その他「教育課程」に関する書物を各自購入あるいは図書館等で借りて講義前までに目を通しておき、重要な語句等については十分に理解したうえで講義に挑むこと。
また、本科目は他の教職科目と同様、教員になるうえで重要な科目ですので、復習や予習を必ず各自で行うこと。これを怠った場合は非常に単位取得が難しくなりますので、この点をしっかりと理解して履修してください。
・08～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
教育実習Ⅰ　01＜春＞ 教育実習Ⅰ　02＜春＞ 教育実習Ⅰ　03＜春＞ 教育実習Ⅰ　04＜春＞	松　岡　敬　興 冷　水　啓　子 竹　中　暉　雄 島　田　勝　正
3単位	

【講義概要】
「教育実習Ⅰ」は、教職課程で履修してきた学習内容を、現実の教育現場に立って体験する実習校での実地実習とその前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」で定められている３単位となる。この科目は、中学校教諭普通免許状、高等学校教諭普通免許状取得に共通する必修科目である。中学校教諭普通免許状取得のためには、別に「教育実習Ⅱ」も登録しなければならない。

学内の事前実習では、模擬授業と相互批評を繰り越し、十分な準備を行う。実地実習では、実際の学校現場で、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを体験する。教育実習では教員としての社会的責任が求められる。このことが自覚できない場合、あるいは、教員に必要な要件が満たせない場合、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価を拒否されることもある。学校長をはじめ各教員による指導にしたがい、真摯な態度で臨むことが必要である。学内の事後実習では、自分の実習経験を発表し合ったり、本学の卒業教員の講話を聞いたりするなかで、実地実習の総括反省を行う。

なお、この「教育実習Ⅰ」では、病気または事故などの正当な理由がない限り、遅刻・早退、欠席は認められないので留意すること。

【学習目標】
中学校・高等学校における授業参観、教育活動への参加、実地の授業実践などを通じて、大学で修得した専門的知識や教職に関する理論を体験的に確認し、教師としての実践的指導力を培う。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　事前実習：模擬授業（１）
第３回　事前実習：模擬授業（２）
第４回　事前実習：模擬授業（３）
第５回　事前実習：模擬授業（４）
第６回　事前実習：模擬授業（５）
第７回　事前実習：模擬授業（６）
第８回　実地実習（１）
第９回　実地実習（２）
第10回　事後実習：実習体験報告（１）
第11回　事後実習：実習体験報告（２）
第12回　事後実習：実習体験報告（３）
第13回　事後実習：実習体験報告（４）
第14回　事後実習：卒業生教員の講話
第15回　総括・反省

【成績評価の方法】
教育実習評価表（実習校による評価）、教育実習ノート（実習の記録）、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

【教科書】
テキストは使わないが、授業で紹介する参考文献などは積極的に読んで、知識の習得に努めてほしい。

【参考文献】
・桃山学院大学教職課程委員会（編）『教職をめざして－教職課程履修ガイド〔2008年度改訂版〕－』
・池田・酒井・野里・宇井（編著）『教育実習総説 第２版』（学文社）
・寺崎・黒澤・別府（編著）『教育実習64の質問』（学文社）

【備考】
【準備学習の指示】
・学内実習における模擬授業では、事前に綿密な教材研究や資料収集を行って授業案を作成する。そして、授業前日までに、教材プリントや授業案を必要部数印刷しておくこと。
・実地実習に行くまでに、学校インターンシップ、学校ボランティア、本学における学外研修（地域連携教育活動）などに積極的に参加し、学校現場での教育活動を実際に体験しておくことが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
教育実習Ⅱ　＜秋＞	
冷　水　啓　子	２単位

【講義概要】
「教育実習Ⅱ」は「教育実習Ⅰ」とともに、中学校教諭普通免許状取得のための必修科目である。「教育実習Ⅰ」と合わせて「教育職員免許法施行規則」で定められている５単位となる。この「教育実習Ⅱ」では、教職課程で学んできた内容のうち、とりわけ生徒指導や特別活動など、教科外での活動や指導について、現実の学校現場において実地に体験することを主たる目的としている。

「教育実習Ⅱ」の実施形態には、春学期の「教育実習Ⅰ」（学内実習を除いて２週間）と連続してさらに２単位相当時間（一般に＋１週間）実施するものと、「教育実習Ⅰ」とは別に、本学の地域連携実習協力校において、年間を通して２単位相当時間を実施するものとがある。どちらになるかは、実習校が内諾した期間（２週間あるいは３週間）によって決まるので（２週間の場合は後者となる）、３年次の実習依頼時に中学校（場合によっては高等学校）側とよく相談しておく必要がある。いずれの形態をとる場合でも、中学校教諭普通免許状取得希望者は、４年次春学期に行なう履修登録では、必ず「教育実習Ⅱ」の登録をしておかねばならない。

実地実習においては、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを体験するが、それには当然のこととして教員としての社会的責任の自覚が要求される。その自覚のない場合には、実習を途中で打ち切られたり、評価を拒否されたりすることもある。校長をはじめ各教員の指導によく従い、真摯な態度で臨む必要がある。

なお、この「教育実習Ⅱ」では、病気または事故などの正当な理由がない限り、遅刻・早退、欠席は認められないので留意すること。

【学習目標】
中学校における授業参観、教育活動への参加、実地の授業実践などを通じて、大学で修得した専門的知識や教職に関する理論を体験的に確認し、教師としての実践的指導力を培う。

【講義計画】
最初のガイダンス、終了時の総括・反省以外、すべて学校現場での実施実習

【成績評価の方法】
教育実習評価表（実習校による評価）、教育実習ノート（実習の記録）、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

【教科書】
テキストは使わないが、授業で紹介する参考文献などは積極的に読んで、知識の習得に努めてほしい。

【参考文献】
・桃山学院大学教職課程委員会（編）『教職をめざして－教職課程履修ガイド〔2008年度改訂版〕－』
・池田・酒井・野里・宇井（編著）『教育実習総説 第２版』（学文社）
・寺崎・黒澤・別府（編著）『教育実習64の質問』（学文社）

【備考】
【準備学習の指示】
実地実習に行くまでに、学校インターンシップ、学校ボランティア、本学における学外研修（地域連携教育活動）などに積極的に参加し、学校現場での教育活動を実際に体験しておくことが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
教育社会学　＜通期＞	
山　内　乾　史	４単位

【講義概要】
本講義は、教育の世界で起きる諸問題を社会学的視点から据えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。
また、発展途上国の教育問題もアジア、特にインドを中心にわたってお話しします。

【学習目標】
教育を社会学的にとらえるとはどういうことなのかというものの考え方を習得することを本講義は目標とします。そのために、さまざまな諸外国の教育を取り上げ、比較することによって、日本社会の普遍性と特殊性について考えることを講義の中心にしています。講義は多人数になることが予想されますし、海外の教育について語る機会が多いため、ビデオによる資料提示が多くなることと思います。
細かい点については、詳しいシラバスを第１回授業時に配布して説明します。

【講義計画】
第１回　イントロダクション－教育社会学とは何か－
第２回　教育社会学とは何か：日英米を比較検討していく基本的枠組みについて
第３回　日本における学歴社会論（１）
第４回　日本における学歴社会論（２）
第５回　日本における学歴社会論（３）
第６回　日本における学歴社会論（４）
第７回　アメリカ合衆国の教育と社会（１）－スプートニク・ショックと公民権運動－
第８回　アメリカ合衆国の教育と社会（２）－ヘッド・スタート・プロジェクトと多文化教育－
第９回　アメリカ合衆国の教育と社会（３）－ビル・クリントン政権下のチャーター・スクール－
第10回　アメリカ合衆国の教育と社会（４）－ジョージ・ブッシュ政権下のチャーター・スクール－
第11回　大学・大学生と社会
第12回　教師の問題（１）
第13回　教師の問題（２）
第14回　教師の問題（３）
第15回　教師の問題（４）＋小テスト
第16回　前期試験返却と解説・イギリスの教育と社会（１）－地域・民族・階級－
第17回　イギリスの教育と社会（２）－トニー・ブレア政権下の教育改革（１）－
第18回　イギリスの教育と社会（３）－トニー・ブレア政権下の教育改革（２）－
第19回　イギリスの教育と社会（４）－トニー・ブレア政権下の教育改革（３）－
第20回　イギリスの教育と社会（５）－トニー・ブレア政権下の教育改革（４）－
第21回　イギリスの教育と社会（６）－パブリック・スクール－
第22回　イギリスの教育と社会（７）－オックスフォード大学とケンブリッジ大学－
第23回　インドの教育と社会（１）－ITの発達と貧困からの脱出－
第24回　インドの教育と社会（２）－貧困層への教育－
第25回　アフガニスタン・バングラデシュの教育と社会
第26回　アフリカの子ども兵
第27回　日本の教育と社会（１）－教育特区－
第28回　日本の教育と社会（２）－奨学金政策－
第29回　日本の教育と社会（３－学力問題－
第30回　後期試験

【成績評価の方法】
試験　75％　レポート　０％　出席　25％
成績評価は定期試験（前期の小テスト＋後期の本テスト）によります。具体的な方法については講義の時に指示しますが、論述式です。ただし、前期、後期ともに全授業回の２/３以上の出席を求めます。

すなわち前期11回以上、後期11回以上の出席を求めます。各期10回以下の学生には受験資格を認めません。もちろん、理由があって休む場合は考慮します。たとえば、就職活動、各種実習、課外活動、身内の不幸、自身の病気など。毎回授業終了後にショート・レポートを書いてもらい、それをもとに評価します。

【教科書】
麻生誠・山内乾史(編) 21世紀のエリート像 学文社
必ず購入すること

【参考文献】
原清治・山内乾史編『「使い捨てられる若者たち」は格差社会の象徴か』ミネルヴァ書房、2009年
山内乾史・原清治編『論集　日本の学力問題（上・下)』日本図書センター、2010年

【備考】
【準備学習の指示】授業時に配付する資料に、テキスト中の該当箇所と参考文献を毎回あげてあるので、目を通しておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
教育心理学　01＜春＞ 教育心理学　02＜秋＞	
冷　水　啓　子	２単位

【講義概要】
・テーマ：乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達及び学習の過程、並びに各発達段階における発達障害や心理障害のある子どもに対する教育臨床的援助について

・授業の概要：教育現場において、子どもたちへの適切な学習指導や生活指導を行うために必要とされる、教育心理学的な基礎理論について講義する。講義を通じて、乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達及び学習の過程に関する理論を学ぶとともに、発達障害や心理障害のある子どもたちへの教育臨床的援助（特別支援教育を含む）について理解を深める。講義中心の授業となるが、学外研修（地域連携教育活動Ⅰ・Ⅱ）などに積極的に参加し、授業で習得した知識を実践的に確認してほしい。授業に関連する補足資料は、スライド（パワーポイント)、インターネット、ビデオ、印刷物などを通じて提供する。

【学習目標】
・授業の到達目標：この授業では、生涯発達の観点から、乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達と障害及び学習の過程に関する理論を学び、教育現場での実践的指導力を身につけるための基礎作りをめざす。

【講義計画】
第１回　授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて)
第２回　発達の原理(１)：人間発達の一般的特徴
第３回　発達の原理(２)：遺伝と環境
第４回　発達段階理論(１)：フロイトとエリクソンの人格発達理論
第５回　発達段階理論(２)：ピアジェの認知発達理論
第６回　乳幼児期における心身の発達と学習
第７回　発達障害とその教育臨床的援助(１)：知的障害、学習障害、広汎性発達障害などの特徴
第８回　発達障害とその教育臨床的援助(２)：ある知的障害児の発達記録（ビデオ視聴)
第９回　特別支援教育の特徴とその実際：軽度発達障害の子どもへの学習指導（ビデオ視聴)
第10回　児童期・思春期における心身の発達と学習
第11回　児童期・思春期における心理障害とその教育臨床的援助
第12回　児童期・思春期の問題行動に対する生徒指導上の諸問題
第13回　青年期における心理発達と学習
第14回　青年期における心理障害と教育臨床的援助
第15回　まとめと試験

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　30%
主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。授業時には必要に応じてコメント・カードの提出を求める。学期中にレポート課題を与え、学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】
テキストは使わないが、スライド（パワーポイント)、インターネット、ビデオ、印刷物などを通じて資料を提供する。

【参考文献】
・大村彰道（編)『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』（東京大学出版会)
・鎌原雅彦・竹綱誠一郎（著)『改訂版　やさしい教育心理学』(有斐閣)
・下山晴彦（編)『教育心理学Ⅱ―発達と臨床援助の心理学―』（東京大学出版会)

【備考】
【準備学習の指示】
・参考文献欄にある大村彰道（編)『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編)『教育心理学Ⅱ』を予習・復習の際に利用すること。
・共用のネットワークドライブ「″Nile１″のLesson(S:)」上にある「kshimizu」フォルダー内で公開している教材スライドや授業情報は、授業の前後で必ず確認し、予習・復習や自習のために役立てること。

科目名　クラス　講義区分	
教育相談　01＜春＞ 教育相談　02＜秋＞	
松　岡　敬　興	２単位

【講義概要】
いじめ・不登校など学校教育における生徒に関する課題の深刻化により、スクールカウンセラー（以下SCと記す）が配置され、SCと教員との連携の重要性が増している。[①生徒と教員との信頼関係の構築、②生徒理解の進め方、③学校カウンセリングの具体化、④教員とSCとの協働的な介入のあり方] の４点に着目し、それぞれのテーマについて、実践事例をもとに理論と実践の両面から追求する。

【学習目標】
学校教育相談について、基礎的な知識及び具体的な技能の習得をめざし、諸課題の解決に向けた力量を身につける。生徒への援助における基本姿勢とされる学校教育相談の基礎理論を、ロールプレイ等を用いた体験的学習を通して学ぶ。

【講義計画】
第１回　ガイダンス（本授業の目的・内容・進め方・評価、など）
第２回　学校教育相談の目的と意義
第３回　生徒の問題行動の実際
第４回　生徒の精神衛生の実際
第５回　教育現場における課題と教育相談へのニーズ
第６回　生徒理解と支援のポイント
第７回　教育相談に生かせるカウンセリングの基本理論と技法
第８回　学校教育相談の実際①（事例研究）
第９回　学校教育相談の実際②（体験的学習）
第10回　校内組織におけるSCと教員との連携のあり方
第11回　カウンセリングと心理検査
第12回　保護者との連携、コンサルテーションのあり方
第13回　支援活動に生かせるネットワークづくり
第14回　まとめ
第15回　試験（60分）およびその解説

【成績評価の方法】
・授業参加評価：授業態度及び講義中に出された課題への回答（レポート）による。
・試験評価：講義内容についての確認を図る。
以上を総合し、評価を出す。

【参考文献】
・吉田圭吾『教師のための教育相談の技術』金子書房、2007年
・日本学校教育相談学会『学校教育相談学ハンドブック』ほんの森出版、2006年
・トマス・ゴードン『親業』大和書房、1998年
・大野精一『学校教育相談－理論化の試み－』ほんの森出版、1997年
・大野精一『学校教育相談－具体化の試み－』ほんの森出版、1997年

【備考】
・テキストは使用しません。授業毎に資料を配付します。
・参考文献は、適宜授業中に紹介します。
【準備学習の指示】
適宜、事例研究の課題を出します。講義内容や参考文献をもとに、受講生のみなさんが具体的な対応について考察を加え、小レポートにまとめて提出する。授業ではその解説および意見交換を通して、教育相談の本質に迫ります。適宜、みなさんにも発表をお願いします。必ず、事例研究に取り組むとともに、講義内容について十分復習をしてから、授業に臨みましょう。また、日頃から人と人とのかかわりに着目し、自己理解・他者理解を深めるような取組を心がけ、各自が独自性を生かした教育相談のスタイルを確立できるように努めてください。

科目名　クラス　講義区分	
教育法規　01＜春＞ 教育法規　02＜秋＞	
竹　中　暉　雄	２単位

【講義概要】
教育とは本来、年長者と年少者、親と子との間で展開される私事的な営みであり、国家や公権力が関与すべき性質のものではなかった。しかし近代公教育制度が成立するに伴い、教育は公的に、つまり制度的、国家的に行なわれるようになり、ここにそれを運用するための教育法規が不可欠となってきた。法令というのは体系的なものなので、その学習も体系的・逐条的にすべきであるが、この講義では単調さを避けるために、主として、さまざまな教育問題にどのような法令が関係しているのか、という視点から論じていく。

【学習目標】
制度としての教育は法令に基づいて運営されていることを理解すること。
各種の教育問題にどのような法令が関係しているのか認識すること。
それぞれの法令が作られた理由、その効果、現段階での問題点などについて、論理的に説明できるようになること。

【講義計画】
第１回　教育法規の種類および憲法の教育条項
第２回　教育基本法・１（制定の意義・前文～４条）
第３回　教育基本法・２（第５条～第18条）
第４回　義務教育をめぐる諸問題・１（不登校・家庭就学）
第５回　義務教育をめぐる諸問題・２（再生策・進級卒業）
第６回　学校の教育課程と学習指導要領
第７回　指導要録の作成目的
第８回　教育法規と教師・１（免許制度・採用・研修）
第９回　教育法規と教師・２（経済的待遇・諸義務・懲戒）
第10回　教育法規と教師・３（部活動指導・体罰禁止）
第11回　教科書と教育法規
第12回　学校保健・給食と教育法規
第13回　情報公開・国際化と教育
第14回　勅令主義・法律主義をめぐる問題
第15回　まとめ・試験

【成績評価の方法】
試験　100％
基本的知識を問う穴埋め問題・40点、６問中３問選択の論述問題・60点。
穴埋め問題用の事例集は事前に配布する。
論述問題は、設問に対応した内容になっているかどうか、論理的に説明できているかどうかという観点から評価する。

【備考】
質問や意見は、E-mail（takenaka@andrew.ac.jp）、オフィス・アワーなどで受け付ける。なお毎回レジュメを配布するので、聴講しながらそれを補完すること。但し特段の理由のない遅刻者には、授業終了まで配布しない。
準備学習等について：　毎回受講後、メモを記入したレジュメをもとに講義内容を自分の頭のなかで再現すること。できれば受講生同士で授業のし合いをしてほしい。そのことが最善の復習となり、次回受講への準備となる。

科目名　クラス　講義区分	
教育方法学　01＜春＞ 教育方法学　02＜秋＞	
冷　水　啓　子	２単位

【講義概要】
・テーマ：「わかる授業」と「確かな学力」の育成をめざした「教育の方法及び技術」について
・授業の概要：第１に、教室の内外で行われる教授・学習活動に関する基礎的理論を概観し、子どもの学習意欲をかき立てる効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴について学ぶ。第２に、子どもの年齢や個性に即した学習活動を支援するコンピュータの教育利用を取り上げ、その方法や利用に際する問題点についてコンピュータ実習を通じ体験的に理解する。第３に、教育測定・学習評価に関する基礎的理論を概観し、教育現場での諸問題を検討する。授業に関連する補足資料は、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ、印刷物などを通じて提供する。

【学習目標】
・授業の到達目標：この授業では、反復練習に基づく学習とともに、知的好奇心や探求心に導かれながら主体的に学び、学ぶ楽しさ・充足感を味わうことのできる学習とはなにかを考える。そのうえで、子どもが「わかる授業」の実施や「確かな学力」の育成に効果が期待できる、さまざまな教育メディアを活用した「教育の方法及び技術」に関する理論とその実際を学ぶ。さらに、コンピュータ実習を通じ、情報活用能力と情報機器活用スキルの習得をめざす。

【講義計画】
第１回　授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
第２回　学習とは何か：教室の内外での学び
第３回　学習の基礎理論（１）：条件づけと行動療法
第４回　学習の基礎理論（２）：認知理論と観察学習
第５回　学習と認知：情報処理と記憶のメカニズム
第６回　学習への動機づけと学習意欲：知的好奇心と内発的動機づけ
第７回　授業における教授・学習過程
第８回　個人差と学習指導
第９回　情報メディアの活用：コンピュータの教育利用に関する理論と技法
第10回　コンピュータ実習（１）：インターネットの教育利用に際する諸問題
第11回　コンピュータ実習（２）：教室でのコンピュータの活用方法
第12回　教育測定と学習評価
第13回　さまざまな心理テストの利用
第14回　「わかる授業」と「確かな学力」の育成をめざして
第15回　まとめと試験

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　30%
主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。授業時には必要に応じてコメント・カードの提出を求める。学期中にレポート課題を与え、学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】
テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ、印刷物などを通じて資料を提供する。

【参考文献】
・市川伸一　『学ぶ意欲とスキルを育てる―いま求められる学力向上策―』（小学館）
・桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2010年度版）
・大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』（東京大学出版会）
・多鹿秀継（著）『教育心理学―「生きる力」を身につけるために―』（サイエンス社）

【備考】
【準備学習の指示】
共用のネットワークドライブ「"Nile１"のLesson(S:)」上にある「kshimizu」フォルダー内で公開している教材スライドや授業情報は、授業の前後で必ず確認し、予習・復習や自習のために役立てること。

科目名　クラス　講義区分	
教職演習　01＜秋＞ 教職演習　02＜秋＞ 教職演習　03＜秋＞ 教職演習　04＜秋＞	松　岡　敬　興 冷　水　啓　子 竹　中　暉　雄 島　田　勝　正
２単位	

【講義概要】
この演習の大テーマは、「人類に共通する地球的課題および我が国社会全体に関わる課題とは何か」ということであるが、個別テーマとしては、人間尊重・人権尊重の精神を基礎に、①「異文化理解」（国際理解、国内異文化理解、民族対立、地域紛争と難民など）②「環境問題」（ゴミ、電磁波、化学物質、人口と食料など）③「人権・福祉」（男女共同参画、少子化、高齢化、障害者理解と共生、家庭のあり方など）④「情報社会」（携帯電話、インターネット、個人情報保護など）等がある。

受講生はいずれかの個別課題を選択したうえでグループに分かれ、各グループ内で検討した内容をミニ研究発表として発表し、それらの知見に基づき授業案を作成し、最後に研究授業を行なう。

【学習目標】
本授業の到達目標は、世界市民を目指す本学の学生、とりわけ、教職を目指し、時代を担う児童・生徒の育成に携わろうとする者に対して、世界の人々の日常生活が国境を越えて多様に影響し合っている国際化時代を背景に起因するグローバルな課題について広い視野から認識させ、国際社会と関わり合っていく感性と行動力を育成するとともに、それらの内容を適切に指導しうる能力を養うことである。

【講義計画】
第１回　ガイダンス（個別テーマの決定とグループ分け）
第２回　個別テーマ関連ビデオの視聴と討議
第３回　各グループのテーマに関するミニ研究発表のための資料収集および討議（１）
第４回　各グループのテーマに関するミニ研究発表のための資料収集および討議（２）
第５回　「異文化理解」に関するミニ研究発表
第６回　「環境問題」に関するミニ研究発表
第７回　「人権・福祉」に関するミニ研究発表
第８回　「情報社会」に関するミニ研究発表
第９回　各グループのテーマに関する授業案および教材の作成（１）
第10回　各グループのテーマに関する授業案および教材の作成（２）
第11回　「異文化理解」に関する研究授業
第12回　「環境問題」に関する研究授業
第13回　「人権・福祉」に関する研究授業
第14回　「情報社会」に関する研究授業
第15回　まとめと総括レポートの作成

【成績評価の方法】
出席状況、発表・討議への参加度、授業案、研究授業、最終レポートなどによって総合的に評価する。

【教科書】
テキストは使わないが、授業で紹介する参考文献などは積極的に読んで、知識の習得に努めてほしい。

【参考文献】
必要に応じて紹介する。

【備考】
【準備学習の指示】
グループ活動が中心となるので、授業時間外においてもグループ・メンバー間で連絡を取り合い、協同して作業を進めていくこと。

科目名　クラス　講義区分	
教職概論　01＜春＞ 教職概論　02＜秋＞	
松　岡　敬　興	2単位

【講義概要】
「教職とは何なのか」、「めざす教師像とはどのようなものなのか」について、教育実践事例を取りあげながら概説する。その際、教職課程の意義や、教員の役割とその責務に着目する。学校や教員の現実を見据え、教職に求められる専門性を明らかにしていく。視聴覚教材、グループ・ディスカッション、ロールプレイ等を組み入れた授業形態をとり、生徒の成長を支援できそれに喜びを感じ得る、使命感に満ちた教員のあり方についての自覚を促す。

【学習目標】
教職の意義・教員の役割・職務内容等について、歴史的変遷に沿って理解を深める。また、教職を志向するうえで、その独自性を踏まえながら具現化をめざし、教員として望ましい心構えの育成を図る。

【講義計画】
第１回　ガイダンス（本授業の目的・内容・進め方・評価、など）
第２回　教職とは何か
第３回　教育の現状と課題
第４回　教員の職務
第５回　教員の責務
第６回　教員の専門性
第７回　大学における教職課程と教育実習（学校インターンシップを含む）
第８回　教員の研修
第９回　教育実践事例に学ぶ①（総合的な学習の時間）
第10回　教育実践事例に学ぶ②（道徳・特別活動）
第11回　教員と保護者との連携のあり方（家庭教育への支援）
第12回　地域教育における教員のあり方（社会教育への支援）
第13回　理想の教員をめざして
第14回　まとめ
第15回　試験（60分）およびその解説

【成績評価の方法】
・授業参加評価：授業態度及び講義中に出された課題への回答（レポート）による。
・試験評価：講義内容についての確認を図る。
以上を総合し、評価を出す。

【参考文献】
・佐藤晴雄『教職概論』学陽書房、2007年
・田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』有斐閣、2007年
・柴田義松『新・教育原理』有斐閣、2003年
・田井康雄『教育職の研究』学術図書出版社、2001年
・天野正輝『現代教育実践の探求』晃洋書房、1998年

【備考】
・テキストは使用しません。授業毎に資料を配付します。
・参考文献は、適宜授業中に紹介します。
【準備学習の指示】
適宜、学校教育問題に関わる課題を出します。講義内容や参考文献をもとに、受講生のみなさんが自らの意見や考えを小レポートにまとめて提出する。授業の際それらの紹介および解説を加え、意見交換を通して望ましい教育のあり方に迫ります。必ず、提出課題に取り組むとともに、講義内容について十分復習をしてから、授業に臨みましょう。また、教育に関わる新聞記事などをスクラップしてまとめ、自分の意見をもつことを心がけたい。教員として教育現場に立つことを自覚しながら、授業や多様な課題に取り組んでください。

科目名　クラス　講義区分	
行政法各論　＜秋集＞	
寺　田　友　子	4単位

【講義概要】
多様な内容を持つ行政法中、地方自治法及び公務員法を中心に講義する。両法の解釈を通じて、地方自治体の組織、人的側面について理解を深める。ただし、地方公務員法を理解するためにも、国家公務員法を対比して講義を行う。

【学習目標】
地方自治体の組織法を中心に講義する理由は、地方分権化の動きの中で、地方自治体はその機能を拡大し、その重要性を増しつつある。民主主義の学校と言われる地方自治体の根本規範である「地方自治法」に理解を深めることは、行政法の修得というだけでなく、民主主義的な国民、住民の人格形成にとっても不可欠と考える。
「地方自治法」及び「公務員法」を講義する過程で、「行政法Ｉ」で十分に講義できなかった地方自治体における行政組織及び行政立法について一層理解を深める。地方自治法又は公務員法をめぐって生じる「行政行為」等についても、その学問的概念について改めて理解する。また、「行政法Ｉ」で不十分にしか講義できなかった客観訴訟の１つである機関訴訟・住民訴訟の判例を素材に地方公務員の地位についても理解を深めたい。春学期の「行政法Ｉ」を履修して受講することが望ましい。

【講義計画】
第１回　地方自治の本旨とは、
第２回　地方公共団体の種類と区域（１）
第３回　地方公共団体の種類と区域（２）
第４回　地方公共団体の種類と区域（３）
第５回　地方公共団体の住民（１）
第６回　地方公共団体の住民（２）
第７回　地方公共団体の住民（３）
第８回　住民監査請求・住民訴訟（１）
第９回　住民監査請求・住民訴訟（２）
第10回　普通地方公共団体の事務（１）
第11回　普通地方公共団体の事務（２）
第12回　普通地方公共団体の立法権（１）
第13回　普通地方公共団体の立法権（２）
第14回　普通地方公共団体の議会（１）
第15回　普通地方公共団体の議会（２）
第16回　普通地方公共団体の執行機関（１）
第17回　普通地方公共団体の執行機関（２）
第18回　長と議会との関係
第19回　地方公共団体の財務
第20回　人事行政機関（任命権者と人事委員会・公平委員会）
第21回　公務員の意義
第22回　公務員の種類
第23回　労働基本権の制約
第24回　政治的行為の禁止
第25回　地方公務員法の特例（警察官・消防職員・教員・地方公営企業職員）
第26回　公務員の任用
第27回　公務員の公務員の懲戒処分・分限処分
第28回　公務員の不利益処分に対する争訟制度について

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　10%　出席　10%
毎回チェックペーパーによる出席を採る。

【教科書】
ポケット六法（平成23年版）有斐閣
毎回持参して受講すること。なお、六法以外の講義のテキストは、こちらで用意する。

【参考文献】
講義中に適宜指示する。

【備考】
地方自治体制度は、日本国憲法９章に基礎をおいていますし、行政法は、３権分立についての憲法構造の行政に関わる法ですから、憲法についての理解を前提に講義するので、統治機構を特に学習しておいてほしい。
また、明治憲法についても理解を深めておいてほしい。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
行政法総論　＜春集＞	
天　本　哲　史	4単位

【講義概要】
行政法は、行政活動に対する法的な規律のあり方を研究する学問分野である。「警察行政」「社会保障行政」「環境行政」「消費者行政」などという言葉があることからわかるように、行政活動は我々の生活に深い関連性を有し、生活の様々な場面において身近に存在する。そして、社会情勢の変化や社会の多様化・複雑化する現代においては、行政に期待される役割も増大している。そこで、本講義では、難解とされがちな行政法について、理論だけではなく、実社会とのかかわりを意識しながら学習する。

【学習目標】
本講義は、行政法の基礎的な知識の習得を目標とする。具体的には、①行政法の全体構造についての知識、②行政行為や行政指導などの個別の行為形式に関わる法的問題についての知識、③違法な行政活動に対する救済に関わる法的問題についての知識、のそれぞれの習得である。

【講義計画】
第１回　はじめに
第２回　行政と行政法
第３回　行政法の法源
第４回　法律による行政の原理
第５回　行政組織
第６回　行政立法
第７回　行政行為①
第８回　行政行為②
第９回　行政行為③
第10回　行政行為④
第11回　行政行為⑤
第12回　行政行為⑥
第13回　義務履行強制
第14回　行政上の制裁
第15回　行政指導
第16回　行政計画
第17回　行政契約
第18回　行政手続①
第19回　行政手続②
第20回　行政不服審査①
第21回　行政不服審査②
第22回　行政事件訴訟①
第23回　行政事件訴訟②
第24回　行政事件訴訟③
第25回　国家賠償
第26回　損失補償
第27回　情報公開
第28回　個人情報保護

【成績評価の方法】
試験　100%
成績評価は試験の結果を重視する。但し、任意にレポートが提出された場合には、それも加点の対象とする。

【教科書】
原田尚彦 行政法要論　全訂６版 学陽書房

【参考文献】
六法(最新ものであればよい)
行政判例百選Ⅰ・Ⅱ
これら以外の参考文献については、適宜に紹介する。

【備考】
準備学習等の指示
授業に際しては予習と復習を行なうこと。指定されたテキストを読んでおくこと。講義では、行政法が関係する時事問題についても触れることから、新聞等を読んでおくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
共通教養特別講義－協同社会　＜秋＞	
武　田　久　義	2単位

【講義概要】
人間が社会的動物であることは、誰でも知っている。しかし、人間がどのような社会関係を結び、どのように助け合って来たのかについては、あまり知られていない。人々の関係は、歴史的に大きく変化してきた。これを簡潔に述べるならば、古代社会は強い血縁関係のもとで、人々の結びつきは強かった。しかし、時代を経るに従って、人々の間の絆は徐々に弱くなってきたと言うことができるだろう。そして現在、一つの大きな転換期にある。それは、協同の分岐点とも言えるものである。

【学習目標】
この講義では、人間が歴史的にどのような社会を形成しどのように助け合ってきたのかについて、生活保障制度のあり方を中心に学んでいく。そして、将来、どのような協同を形成するのかについて、一人一人に考えてもらう。

【講義計画】
第１回　主に次のような内容で講義を行う。(順不同)
　　１．競争と協同（自然界における協同を中心に）
第２回　２．人類史上の転換期としての現代(１)
第３回　３．人類史上の転換期としての現代(２)
第４回　４．人類史上の転換期としての現代(３)
第５回　５．協同の歴史(１)
第６回　６．協同の歴史(２)
第７回　７．協同の歴史(３)
第８回　８．共同体の解体
第９回　９．新たな共同体の形成(１)
第10回　10．新たな共同体の形成(２)
第11回　11．助け合う社会(１)
第12回　12．助け合う社会(２)
第13回　13．協同の将来
第14回　14．まとめ

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%
資料を配布する。

科目名　クラス　講義区分	
共通教養特別講義－社会福祉学　＜春＞	
根　本　嘉　昭	2単位

【講義概要】
現在社会福祉は大きな転機を迎えています。2000年に実施された社会福祉基礎構造改革は、わが国社会福祉の到達点と思われましたが、その後の社会福祉をめぐる動きは、少子高齢化のますますの進行、財政問題、市場原理を導入したことによる問題、従事者の養成・確保の問題、そして社会福祉を支える理念・哲学など、いろいろな問題が絡み合い、その将来を展望することを困難にしています。この講義では、社会福祉基礎構造改革の背景・内容とそれに続く課題や問題点を理解し、今後の社会福祉のあるべき方向について考察を加えていきます。

【学習目標】
○戦後社会福祉の変化・発展とその背景について理解すること。
○社会福祉の基礎構造を構成しているものについて理解すること。
○社会福祉基礎構造改革の意義とその内容について理解すること。
○現在の社会福祉の課題について理解し、将来展望を明らかにすること。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　「50年体制」の特徴
第３回　社会福祉の対象の変化（１）（量的側面）
第４回　社会福祉の対象の変化（２）（質的側面　その１）
第５回　社会福祉の対象の変化（３）（質的側面　その２）
第６回　社会福祉の理念
第７回　社会福祉の基礎構造（１）（法律・制度）
第８回　社会福祉の基礎構造（２）（組織・機構　その１）
第９回　社会福祉の基礎構造（３）（組織・機構　その２）
第10回　社会福祉の基礎構造（４）（人的資源）
第11回　社会福祉の基礎構造（５）（財政）
第12回　社会福祉基礎構造改革（１）（改革の背景と理念）
第13回　社会福祉基礎構造改革（２）（改革の内容）
第14回　社会福祉の課題と展望
第15回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％

【教科書】
当面、テキストは使わずに、必要に応じてプリント等準備します。

【参考文献】
授業中、必要に応じて紹介します。

【備考】
【準備学習の指示】
社会福祉の制度は今変革の途次にあります。可能な限り新しいデータを入手することも含めて、十分な予習・復習をするように期待します。

科目名　クラス　講義区分	
共通教養特別講義－生活福祉学　＜秋＞	
根　本　嘉　昭	2単位

【講義概要】
生活福祉学という確立した学問分野があるわけではありません。人が生活するうえで生ずるさまざまな困難を、その人が自ら主体的に克服しようとすることについて、必要な援助・支援を社会福祉的な視点に立って実践していくことを、「生活福祉」の課題・内容と考えます。生活福祉学は、このように人の生活にかかわる多様な問題の解決を目指すものであり、いろいろな側面からアプローチすることが可能ですが、今年度については、人が安心して社会生活を営む上で、最後のセーフティネットとしてその最低生活を保障するシステムである生活保護制度について考察していきます。

【学習目標】
○最低生活やセーフティネットの概念について理解する。
○生活保護制度の歴史について理解する。
○現行生活保護制度の理念について理解する。
○現行生活保護制度の内容について理解する。
○生活保護制度と「自立」の関係について理解する。
○現行生活保護制度の課題・問題点について理解する。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　セーフティネットとは何か
第３回　生活保護制度の歴史（１）（明治ー大正）
第４回　生活保護制度の歴史（２）（昭和①　第二次世界大戦以前）
第５回　生活保護制度の歴史（３）（昭和②　第二次世界大戦以降）
第６回　現行生活保護制度の意義
第７回　生活保護制度の基本原理（１）
第８回　生活保護制度の基本原理（２）
第９回　最低生活の概念と保護基準（１）
第10回　最低生活の概念と保護基準（２）
第11回　最低生活保障の体系
第12回　生活保護制度と「自立」
第13回　貧困の諸相と社会的対応
第14回　生活保護制度の課題
第15回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％

【教科書】
今のところ、テキストは使用せずに、必要に応じてプリント等用意したいと考えています。

【参考文献】
授業中、必要に応じて紹介します。

【備考】
【準備学習の指示】
生活保護制度は相当に複雑・精緻な構造になっています。授業は毎回の講義の理解の積み重ねの上に成立します。予習・復習を十分にするよう期待します。

科目名　クラス　講義区分	
共通教養特別講義－日本語を考える　＜秋＞	
友　沢　昭　江	２単位

【講義概要】
昨今「日本語ブーム」とまで言われるほど、日本語関連の書籍や番組が盛況だ。その理由はさまざまであろうが、空気のように常に「そこにある」と思ってきた日本語についてしっかりと考えてみることは必要なことである。この授業ではテーマを決めて日本語を考察し、新たな発見につなげたい。親しすぎる存在である日本語が材料なので、参加学生にも意見を求めていく予定である。

【学習目標】
全学部の学生を対象とした授業なので、日本語とそれを取り巻く状況についておおまかに流れを捉えられるようになることを目標とする。身近な題材にも分析の視点を持ってみることができるようになることを目指す。関心を高めるために配布資料や映像資料なども積極的に利用するつもりである。

【講義計画】
第１回　世界の言語の中の位置づけ（日本語はどんな言語？）（１）
第２回　世界の言語の中の位置づけ（２）
第３回　日本語の表記について―漢字と仮名（１）
第４回　日本語の表記について―漢字と仮名（２）
第５回　敬語はむずかしい？
第６回　敬語はむずかしい？
第７回　「標準語」と「方言」―大阪「弁」って？（１）
第８回　「標準語」と「方言」―大阪「弁」って？（２）
第９回　男と女の日本語
第10回　男と女の日本語
第11回　日本人は外国語が下手？
第12回　外国人もすなる日本語（１）
第13回　外国人もすなる日本語（２）
第14回　外来語の氾濫について
第15回　多言語社会日本

【成績評価の方法】
試験　80%　出席　20%
受講者が多い場合は出席は取らない可能性がある。その場合は学期末試験を最重要視する。試験は授業に参加していれば解答できるような内容と、自分で考える内容の両方を含むものとなる。

【参考文献】
決まった教科書は使用せず、パワーポイントによる資料提供、DVDなど映像資料を多く使って、分かりやすい授業を行います。関連する参考文献は授業内で示します。

【備考】
受講者が多い授業になると思われるが、私語や途中退出などで他の学生に迷惑をかけるようなことは避けてほしい。慣れ親しんだ日本語についての講義なので、適宜質問や意見を求めることがあるが、積極的に答えてほしい。できれば最近の日本語ブームに乗って出版された日本語に関する新書などを読んでおくことが望ましい。
・10生対象

科目名　クラス　講義区分	
共通教養特別講義－日本の大学制度：歴史・現状・展望　01＜秋＞ 共通教養特別講義－日本の大学制度：歴史・現状・展望　02＜秋＞	
片　岡　信　之	２単位

【講義概要】
日本における大学制度を、明治以後の歴史から辿り、現在に至るまでの間の制度形成史を探る。その上で、現在の大学の抱えている諸課題、現代という時代背景の中での大学の意義と位置づけを考えてみたい。

【学習目標】
大学がそれぞれの時代でになってきた役割を知り、現在の大学に於いて学ぶことの今日的意義を学生が自覚的に捉え直すことを促す助けとしたい。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　日本の大学制度― 戦前の歴史
第３回　日本の大学制度― 戦後の歴史
第４回　日本の大学制度― 大学の現在
第５回　日本の大学制度― 現在の課題１．大衆大学化、学歴主義、平等神話とその崩壊
第６回　日本の大学制度― 現在の課題２．規制緩和・行政改革と国立大学法人化
第７回　日本の大学制度― 現在の課題３．私立大学の抱える諸問題
第８回　日本の大学制度― 現在の課題４．競争激化、格差拡大、学力低下、国際化
第９回　教育格差―学歴分断社会、教育格差、階層社会化する日本
第10回　学力―教養教育、専門教育、基礎学力、学士力、社会人基礎力
第11回　大衆大学時代の大学と大学生活
第12回　大学教育と職業生活
第13回　生涯学習時代の到来と大学
第14回　研究―大学院制度、科学技術時代・知識社会化の中での大学
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　40%

【教科書】
テキストは特に使用しない。

【参考文献】
講義中に、必要に応じて、紹介する。

科目名　クラス　講義区分	
共通教養特別講義－日本文化の諸問題　＜春＞	
梅　山　秀　幸	２単位

【講義概要】
授業担当者がこれまで考えて発表してきたことを再検討しながら話してみたい。平安時代に数多く生まれた物語作品の最初の作品に当たる『竹取物語』はおとぎ話でも風俗小説でもなく、また平安時代を描いたものでもなく、奈良に遷都される前の藤原時代の後宮を描き、当時の宮廷社会を風刺した作品ではなかったか。『源氏物語』の宇治十帖の舞台になった宇治川北岸はまた『古事記』『日本書紀』の別の物語の舞台でもあった。そう考えるとき、『源氏物語』もまた深みをもつ。ヨーロッパの恋愛の古典「トリスタンとイズー」は古い時代に日本に入ってきてはいないか。道成寺の「髪長姫」はその一つのヴァージョンではないか、などなど。お隣の韓国の文化とも対照させながら、考えてみたい。

【学習目標】
日本の古い文化も新たな照明を当てることによって、違った色彩を帯び、深みを増すことを示してみたい。学生諸君の中の好奇心を掘り起こすことをまずは目標とする。

【講義計画】
第１回　かぐや姫の光と影ー物語の初めに隠されたことー（１）
第２回　かぐや姫の光と影ー物語の初めに隠されたことー（２）
第３回　道成寺のもう一つの縁起『髪長姫』（１）
第４回　道成寺のもう一つの縁起『髪長姫』（２）
第５回　『トリスタンとイズー』
第６回　ペルシアの物語『ヴィスとラミン』
第７回　もう一つの宇治の物語ー宇治稚郎子をめぐる人々ー（１）
第８回　もう一つの宇治の物語ー宇治稚郎子をめぐる人々ー（２）
第９回　『当麻曼荼羅』について
第10回　知恩院の『観世音菩薩32応身図』について
第11回　安堅の『夢遊桃源図』について
第12回　ハン（恨）とものあはれー朝鮮王朝実録小説を読むー（１）
第13回　ハン（恨）とものあはれー朝鮮王朝実録小説を読むー（２）
第14回　レヴィ＝ストロースの『源氏物語』論
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　20%　出席　20%

【参考文献】
梅山秀幸著『かぐや姫の光と影』（人文書院）
柳夢寅著・梅山秀幸訳『於于野譚』（作品社）
徐居正著・梅山秀幸訳『大平閑話滑稽伝』（作品社）

【備考】
図書館にある参考文献を読んでもらうといいが、前もってわたしたプリントは目を通しておいて欲しい。
・10生対象

科目名　クラス　講義区分	
共通教養特別講義－表象の問題を考える　＜秋＞	
片　平　　幸	２単位

【講義概要】
「表象」とは「哲学や心理学で、直観的に心に思い浮かべられる外的対象像」と定義されています。本講義では、「表象」という用語を軸に、たくさんの画像や映像を分析の対象として、異文化に対するわたしたちのイメージや世界のなかの日本イメージ、そしてわたし達自身のセルフ・イメージなどは、どのように形成され、あるいは変容していくのか、そしてどのように交錯し互いに作用するのかなどの問題について考えていきます。

【学習目標】
私たちが日常的に目にするさまざまなイメージを、別の角度から捉え直すような、クリティカルな視点を身につけること。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　　授業に必要な文献や授業中の小テスト、そして成績の配分などについて説明するので出席すること。
第２回　表象とは何か　――　議論のポイント
第３回　絵画という媒体
第４回　「子ども」の表象の比較文化
第５回　博物館・美術館の政治学
第６回　舞台芸術における表象（１）
第７回　舞台芸術における表象（２）
第８回　広告と表象（１）－世界のCMのなかの日本
第９回　広告と表象（２）－日本のCMのなかの世界
第10回　イメージとしてのジャパニーズ・ビューティ
第11回　アメリカ映画のなかの「日本」（１）
第12回　アメリカ映画のなかの「日本」（２）
第13回　世界の日本庭園イメージ
第14回　まとめ――表象の問題はわたし達にどのように関わっているのか？
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　20%　出席　20%
試験60%
授業中に行う小テスト20%
出席20%

【参考文献】
吉田憲司『文化の「発見」』岩波書店1999年
他の文献については、講義中に適宜指示する。

【備考】
【準備学習】
上記の参考文献と高山宏『表象の芸術工学』（工作社2009年）を事前に読んでおくと、講義の理解を助けます。
・02～09生対象

か行

科目名　クラス　講義区分	
共通自由特別講義－IT活用の実際　＜春＞	
藤　間　　真	２単位

【講義概要】

IT(Information Technology)とは、コンピュータと通信の技術のことです。よく分からない人は、パソコンとインターネットに象徴されるものだと思っても良いでしょう。(詳細はオリエンテーション時に扱います。)

ITは急速に発展し、私たちの社会に深く根付いてきました。

本講義では、各業種でITを活用している皆さんにおいでいただいて、最先端の活用状況を話していただきます。

また、就職活動を４回生になってから準備したのでは間に合わない一因として、実社会の現状を正しく認識する必要があることを踏まえ、余裕があればどのような人材が実社会で必要なのか、大学でどのような勉強をすることを社会が望むのかについてもお話いただけるようお願いしています。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とします。また、学外の方が多いため、通常の講義より早口の講義が多くなります。日本語の聞き取りに自信のない留学生諸君が受講する場合、かなりの覚悟が必要となります。

受講希望者は第一回目のオリエンテーションに出席のこと。もし第一回目に欠席した場合、履修登録期間中に担当者までメールで相談すること。アドレスはm.tohma[at]andrew.ac.jp([at]を@で置き換えること)

【学習目標】

ITの実際の応用について、最先端の活用状況を、深いレベルで理解し考察することが、本講義の目的です。

副次的な目的として、どのような人材が実社会で必要とされているのか、大学でどのような勉強をすることが実社会で望まれているのかについて、理解を深めることも目的として含んでいます。

【講義計画】

第１回　１回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行います。

２回目以降に関しては講義計画執筆時(2009年12月)現在交渉中です。

参考の為に過去の類似科目の実績を下表に示します（順不同)。

＜題目＞

・ITの時代の個人的情報処理
・IT活用の実際：クリエータの立場から
・コンピュータのホスティングサービス
・全社的セキュリティ対策
・企業経営とIT
・製鉄業とIT
・メデイアにおけるコミュニケーション技術他

＜企業＞

新日鐵、IBM、松下、ダイキン、ダイエー、東洋アルミニウム、ファーストサーバー、武田薬品工業、テレビ大阪、NTTドコモモバイル社会研究所他

尚、講義計画執筆時未定のことについては、担当者のwebサイト(http://rio.andrew.ac.jp/~tohma/)で随時公開します。

第２回　講師・演題調整中(学内の講師を予定)
第３回　講師・演題調整中(学内の講師を予定)
第４回　講師・演題調整中(学内の講師を予定)
第５回　講師・演題調整中(学外の講師を予定)
第６回　講師・演題調整中(学外の講師を予定)
第７回　講師・演題調整中(学外の講師を予定)
第８回　講師・演題調整中(学外の講師を予定)
第９回　講師・演題調整中(学外の講師を予定)
第10回　講師・演題調整中(学外の講師を予定)
第11回　講師・演題調整中(学外の講師を予定)
第12回　講師・演題調整中(学外の講師を予定)
第13回　講師・演題調整中(学外の講師を予定)
第14回　講師・演題調整中(学内の講師を予定)
第15回　まとめ

【成績評価の方法】

出席　100%

出席が100%になっていますが、物理的に出席していれば単位認定するわけではありません。毎回の講義内容を元に執筆するレポートで採点するという意味での「100%」です。

【参考文献】

講義中に指示します。

【備考】

【準備学習】

復習をしっかりとやっていただく関係上、特に準備学習や予習は要求しません

・インテグレーション科目
・04～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
共通自由特別講義－日本社会と社会制度　＜秋＞	
篠　原　千　佳	２単位

【講義概要】
This course is intended to help students gain a basic sociological understanding of Japanese society and social institutions in recent increasing globalization. We will examine the wider social patterns and developments characterizing contemporary Japan through different segments of society and life-courses of the peoples living in Japan. Topics to be covered include socialization, class, ethnicity and diversity, work and family, education, gender issues, community development, aging and death. This course focuses on globalization and diversity as two core elements for sociological studies of Japan.

【学習目標】
To learn a variety of sociological topics and social institutions in contemporary Japan
To understand transforming cultures and structures of Japan in globalization
To comprehend social issues around diverse peoples living in Japan
To develop critical thinking skills and theoretical perspectives on Japanese society

【講義計画】
第１回　Introduction
第２回　Sociology of Japan: Theory and Methods
第３回　Culture and Everyday Life
第４回　Socialization and the Life Course
第５回　Education
第６回　Social Stratification
第７回　Crime and Deviance
第８回　Work, Family, and Gender
第９回　Ethnicity and Race
第10回　Politics and Economy
第11回　Health and Sexuality
第12回　Civil Society and Social Movements
第13回　Conclusion
第14回　Presentations
第15回　Final Exam

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　30%　出席　30%
Attendance and Participation (30%) = your attendance and in-class assignments participation

【教科書】
Sugimoto, Yoshio An Introduction to Japanese Society (2nd Edition) Cambridge Univ. Press
Additional reading materials will be provided in class.

【備考】
・英語による講義
・04～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
共通自由特別講義－上方エンタメの発展史　＜秋＞	
岸　本　喜樹朗	２単位

【講義概要】
この講義は、「上方エンタメ栄枯盛衰――上方エンタメの現在・過去・未来――」というような性格をもったものである。故河合隼雄先生（京都大学名誉教授・元文化庁長官）は関西元気文化圏構想を提唱、「関西から文化力」のロゴの下で、関西の地域力の回復・増進を文化の面から成就させようとする戦略はしたたかそのものであった。その一環として、本講義の主宰者岸本裕一は、2005年「上方の文化・芸術と大阪ブランド」、2006年「食はエンタテイメントだ！！－食の楽しみと食文化の再構築－」シンポジウムを発案・運営することにより、その戦略の一端を担ってきたものである。2005年のあるパーティの折、2005年のシンポジウムの企画書をご覧いただいた上で、「岸本さん、この方向でがんばってくださいね・・・」と河合先生におっしゃっていただいたのが、今も耳に残っているところである。
ところで、上方とは、江戸時代に、関東から見て、都のある京・大坂を中心とする地域を言う名称である。それと、関西というと、やや広く、近畿２府４県に福井県若狭地方を加えた地域となるのだろう。今回の講義を受講することによって、日本のエンターテインメントのルーツとプライドはすべて関西にあるということがわかると思う。日本の歴史をみると、日本人の頭の中には、『東の横綱、西の横綱』の言い方に代表されるように、国土にたえず焦点が２つある楕円的構造でもって発展してきた。古いものから新しいものまで、多種多様な学びを踏まえて、今こそ「関西から文化力」運動の向こうに、関西の再生を見据えたい。そして、東京都に次いで、「関西都」実現を展望しよう。

【学習目標】
幅広い教養と文化への認識を深めていただき、社会人として成長していかれる基礎の１つとしていただきたい。

【講義計画】
第１回　この講義の学びどころ―ねらいと構想―
（この講義はインテグレーション科目である性格上、講師の都合などにより、講義の内容が各回、変更される可能性があることをお含みおき願いたい。）
第２回　Osakan Hot 100 ―FM802の理想と戦略
第３回　人気長寿番組の作り方
第４回　古典芸能　―能楽入門―
第５回　上方演劇―現在・過去・未来―
第６回　上方のギャンブル史―坂田三吉物語―
第７回　ヒット曲にみる関西―歌の三都物語―
第８回　「食は関西にあり」くいだおれ太郎奮闘記―
第９回　「食は関西にあり」くいだおれ太郎奮闘記―
第10回　関西の語り部～桃山の章～
第11回　関西大道芸の現在―あんたにもできますぅ～
第12回　関西をスポーツで元気に
第13回　関西からコンテンツ力を
第14回　（シンポジウム）関西から文化力そして「関西都」を―

【成績評価の方法】
試験　100%
定期テストの成績

【教科書】
適宜、資料を提供します。

【参考文献】
必要があれば、指示します。

【備考】
【準備学習の指示】
関西の経済力を向上させようとする意欲の下で、広範な地域経済に関する新聞・雑誌の記事に絶えず目を向けて、場合によっては、それらをスクラップブックにファイルして持参するというような対応が望まれる。
【講義計画の変更の可能性】
掲載の計画は、2008年のものであり、調整中であり、変更される可能性があることに、留意されたい。
・インテグレーション科目
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
共通自由特別講義－図書館・博物館へのいざない　＜秋＞	
山　本　順　一	２単位

【講義概要】
研究者を含む市民に対して、公立図書館は公刊資料を通じて、博物館は現物もしくは複製（レプリカ）を通じて、また公文書館は歴史資料、行政資料を通じて、知識と情報を提供する社会的機関である。本講義は、それぞれの分野の実務家を招くインテグレーション科目として構成し、全体として司書課程、博物館学芸員課程の対象領域を包含する文化情報学の体系的イメージを紹介しようとするものである。

【学習目標】
図書館情報学、博物館学の全体イメージへの到達と両者に共通する情報組織化、文化政策についての理解を目標とする。

【講義計画】
第１回　はじめに：　文化情報学とは？
第２回　公立図書館の現実　１
第３回　公立図書館の現実　２
第４回　公立図書館の現実　３
第５回　公立図書館をめぐる政策　１
第６回　公立図書館をめぐる政策　２
第７回　公立図書館をめぐる政策　３
第８回　博物館をとりまく状況
第９回　博物館の現実　１
第10回　博物館の現実　２
第11回　博物館の現実　３
第12回　博物館の現実　４
第13回　公文書館の現状と課題　１
第14回　公文書館の現状と課題　２
第15回　むすび：　文化情報学体系イメージの確認

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　40%　出席　10%
公立図書館の現実、公立図書館をめぐる政策、博物館の現実、公文書館の現状と課題の４分野それぞれにつき、レポート提出を求める。

【教科書】
使用しない。適宜関係資料を配布するとともに、講義の中で参考文献を紹介する。

【備考】
準備学習の指示等：最寄りの公立図書館、博物館、公文書館等を事前に見学しておくことが望ましい。
・インテグレーション科目
・04～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
共通自由特別講義－日本の家族と家　＜春＞	
大　野　　啓	２単位

【講義概要】
現在、日本では家族をめぐる環境は大きく変化している。そこで、本講義では伝統的な日本社会の単位である家と家族がいかなるものであるのかについて検討する。

【学習目標】
日本の家と家族について自分なりに考えることを通じて、身近な事象に対して疑問を持つようになってほしい。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　家族とは何か
第３回　夫婦同姓と別姓
第４回　家族は当たり前の存在なのか
第５回　「近代家族」の成立
第６回　内面化される「近代家族」
第７回　日本の家とは何か
第８回　家と家族は同じものなのか
第９回　家族としての家
第10回　経営体としての家
第11回　家は過去のものか
第12回　封建遺制としての家
第13回　現代の家
第14回　家を継承するということ
第15回　予備日

【成績評価の方法】
レポート　100%
講義中に指示するレポートを提出すること。

【備考】
・04～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
キリスト教音楽Ⅰ　＜春＞	
松　原　晴　美	２単位

【講義概要】
本学は英国国教会に属するキリスト教系の大学であるが、実際にキリスト教に触れる機会が少ない。この授業は、ごく身近な音楽を通すことでキリスト教を理解し、実際に体験することで、大学の真髄に触れることを目的とする。
「音楽」の歴史にキリスト教は不可欠である。グレゴリオ聖歌に始まり、今現在までのキリスト教音楽とその歴史の深い関係を紐解き、想像力を養う。

【学習目標】
本学は、建物の名称やチャイム、行事等にキリスト教が密接に関係している。４年間の学び舎と本学の建学の精神をこの授業を通し、理解することを目標とする。
またこの授業は、「音楽」を通してキリスト教を理解することを目的とするため、毎回音楽鑑賞や合唱をする体験学習である。そのため受講にあたっては、楽譜が読めることが望ましい。

【講義計画】
第１回　授業の説明
　　鑑賞～グレゴリオ聖歌オリジナルから現代編曲までの比較～
第２回　東方教会と西方教会
第３回　キリストの生涯
第４回　グレゴリオ聖歌・歴史と楽譜の読み方
第５回　ミサ
第６回　教会暦（受難、イースターとペンテコステ）
第７回　聖書と音楽～ヘンデルのメサイアを中心に～
第８回　オルガンの歴史、構造
第９回　イギリス国教会とその音楽
第10回　ドイツ宗教改革とその音楽
第11回　バッハのカンタータ
第12回　フランス・テゼ共同体
第13回　ゴスペル
第14回　まとめと鑑賞～古典期から近代～
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
毎回コメントカードの提出。

【備考】
・08～09生対象

科目名　クラス　講義区分	
キリスト教音楽Ⅱ　＜秋＞	
松　原　晴　美	２単位

【講義概要】
本学は英国国教会に属するキリスト教系の大学であるが、実際にキリスト教に触れる機会が少ない。この授業は、ごく身近な音楽を通すことでキリスト教を理解し、実際に体験することで、大学の真髄に触れることを目的とする。
「音楽」の歴史にキリスト教は不可欠である。グレゴリオ聖歌に始まり、今現在までのキリスト教音楽とその歴史の深い関係を紐解き、想像力を養う。

【学習目標】
本学は、建物の名称やチャイム、行事等にキリスト教が密接に関係している。４年間の学び舎と本学の建学の精神をこの授業を通し、理解することを目標とする。
また、「音楽」を通してキリスト教を理解することを目的とするため、毎回音楽鑑賞や合唱をする体験学習である。そのため受講にあたっては、楽譜が読めることが望ましい。

【講義計画】
第１回　授業の説明
　　鑑賞～比較・初代教会の音楽から現代まで～
第２回　グレゴリオ聖歌～聖ヨハネ賛歌～
第３回　キリストの生涯
第４回　ミサ（Ⅰ）
第５回　教会暦（クリスマス）
第６回　教会暦～聖書と音楽～
第７回　ミサ（Ⅱ）
第８回　イギリス国教会とその音楽
第９回　奴隷貿易とアメージング・グレース
第10回　ドイツ宗教改革とバッハ
第11回　クリスマスの名曲
第12回　フランス・テゼ共同体
第13回　日本のキリスト教音楽～賛美歌～
第14回　まとめと鑑賞～古典期から近代～
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
毎回コメントカードの提出。

【備考】
・08～09生対象

科目名　クラス　講義区分	
キリスト教学　＜春集＞	
滝　澤　武　人	4単位

【講義概要】
イエスという一人の偉大な人間の生きていた姿を学問的・歴史的に追い求めていくことがこの講義の概要です。私の著書『イエスの現場』に基づき講義する予定です。イエスはまさしく「現場の人」でした。さまざまな現場へと出て行き、さまざまな人々と出会い、さまざまな活動を展開しました。イエスの仲間となったのは、その時代の「貧しい者」「小さい者」「弱い者」「罪ある者」「穢れた者」たち、すなわち、社会の最下層・最底辺で苦しんでいた人々でした。
イエスの有名な言葉のほとんどすべてが、そのような「貧困と差別」「病気と飢餓」「差別と抑圧」という厳しい現場の中で語られたものなのです。現場におけるきわめて現実的な発言であったからこそ、2000年の時を隔ててもなお、驚くほど新鮮で豊かな感動と生命力が宿っているのでしょう。イエスの言葉は現代でも生きているのです

【学習目標】
イエスを学問的に追求するためには、かなり複雑で慎重な手続きをふまえなければなりません。はたしてどれが本当のイエスの言葉なのか、それらがどのような状況の中で誰に向かってどういう意図で語られたものなのか、しっかりと判断しなければなりません。それによって自分自身のイエス像をつくりあげてほしいと思います。そこから「世界の市民」への道にも結びつくでしょう。真面目な学生諸君の熱心でねばり強い受講を大いに期待しています。もちろん、「信仰」の有無とはまったく関係なく、誰でも自由に受講できます。

【講義計画】
第１回　課題と方法
第２回　山上の説教
第３回　ビデオ(１)
第４回　乞食(１)
第５回　〃　(２)
第６回　〃　(３)
第７回　貧困・飢餓・穢れ(１)
第８回　〃　(２)
第９回　病気・障害・悪霊(１)
第10回　〃　(２)
第11回　罪人・悪人・盗賊(１)
第12回　〃　(２)
第13回　徴税人・娼婦・日雇い・奴隷(１)
第14回　〃　(２)
第15回　ビデオ(２)
第16回　異邦人・サマリア人・ガリラヤ人(１)
第17回　〃　(２)
第18回　離縁・姦通・寡婦・子供(１)
第19回　〃　(２)
第20回　神の国・闘い(１)
第21回　〃　(２)
第22回　〃　(３)
第23回　受難物語(１)
第24回　〃　(２)
第25回　復活物語
第26回　誕生物語
第27回　イエスのように！
第28回　ビデオ(３)

【成績評価の方法】
試験　85%　レポート　15%　出席　０%
最初の授業で説明しますので、必ず出席してください。

【教科書】
滝澤武人 イエスの現場～苦しみの共有 世界思想社
ギデオン協会版『新約聖書』をキリスト教センターで配布予定です。

【参考文献】
荒井献『イエスとその時代』(岩波新書)
田川建三『イエスという男』(作品社)

【備考】
【準備学習の指示】余りなじみのないテーマなので、予習・復習が必要である。テキストとして指定した『イエスの現場』と『新約聖書』の該当部分を
必ず読んでおいてほしい。

科目名　クラス　講義区分	
キリスト教史　＜春集＞	
伊　藤　高　章	4単位

【講義概要】
キリスト教を担っていた人間の歴史を、現代の我々の生活や価値観との関わりの視点から概観する。本学の創立母体である英国教会の特徴を学び、建学の理念についての理解を深める。

【学習目標】
1）キリスト教の大きな流れを理解する。
2）キリスト教を事例として、人間の宗教性について理解する。
3）キリスト教徒の関連で展開している人類文化についての理解を深める。

【講義計画】
第１回　授業の進め方：課題、評価基準、用語
第２回　歴史の学びかた１
第３回　歴史の学びかた２
第４回　歴史の学びかた３
第５回　イエス１
第６回　イエス２
第７回　初代教会１：信仰
第８回　初代教会２：礼拝
第９回　キリスト教の国教化
第10回　西ローマ帝国の宣教
第11回　ヨーロッパ社会のキリスト教
第12回　中世のキリスト教
第13回　神秘主義
第14回　ルネサンス
第15回　宗教改革１
第16回　宗教改革２
第17回　英国教会
第18回　英国教会と産業革命
第19回　英国教会と海外宣教
第20回　宗教と現実社会
第21回　諸宗教とキリスト教：ユダヤ教
第22回　諸宗教とキリスト教：イスラーム
第23回　諸宗教とキリスト教：仏教
第24回　宗教とスピリチュアリティ１
第25回　宗教とスピリチュアリティ２
第26回　キリスト教の国家観とその歴史
第27回　キリスト教の福祉観とその歴史
第28回　キリスト教の戦争観とその歴史
第29回　質疑
第30回　総合ディスカッション

【成績評価の方法】
レポート　100%
「欠席 make up report 」を含め、20回以上の出席が成績評価条件。学期中３回のブックレポートの評価によって最終評価を行う。

【教科書】
共同訳聖書実行委員会 聖書

【備考】
【準備学習の指示】
授業前半の内容への興味を深めるために、ダン・ブラウン著『ダ・ヴィンチ・コード』を通読すること。この小説の中で言及される歴史事項について、各自ノートにまとめることを強く勧める。

科目名　クラス　講義区分	
銀行論　＜春集＞	
中　野　瑞　彦	4単位

【講義概要】

銀行の基本的な機能を理解したうえで、経済社会における銀行の役割を歴史的かつ実証的に学習する。規制金利体系下の銀行行動と金融自由化後の銀行行動の比較を通して、実際の銀行機能を理解する。また、バブル崩壊後の金融危機時における銀行機能の麻痺状況について、金融行政の対応を中心に学習する。なお、近年の金融市場におけるリスクに対する認識の高まりに鑑み、金融におけるリスクについても学習する。

更に、今後の金融システムを展望すべく、銀行を取り巻くさまざまな問題について学習する。具体的には、金融コングロマリット化の問題、地域金融問題、中小企業金融問題などについて学習する。また、最近のグローバル金融危機についてその原因、各国政府の対応、金融規制のあり方を学習する。

【学習目標】

受講者の学習目標として、以下の三点を設定している。金融機能の中核として銀行が社会の中でどのような位置づけを占めているのかを理解してほしい。

①銀行の基本的な機能の理解
②銀行が経済社会とのつながりと経済社会で果たしている役割の理解
③時代の変化と銀行機能の変化の理解

【講義計画】

第１回　1.銀行論の概要（金融論と銀行論の相違点）
第２回　2.通貨、マネーの意味
第３回　3.日本の銀行制度（銀行法）
第４回　4.日本の金融市場と銀行の組織
第５回　5.受信業務（預金の受け入れ）
第６回　6.決済・為替業務（手形・小切手）
第７回　7.与信業務
第８回　8.国際業務
第９回　9.金融自由化以前の銀行システム
第10回　10.金融自由化の意味（目的、狙い）
第11回　11.金融自由化後の銀行システム（不良債権の発生）
第12回　12.金融商品のリスクの考え方
第13回　13.金融商品のリスクとは何か
第14回　14.金融商品の価値
第15回　15.キャッシュフロー・モデル
第16回　16.リスク・マネジメント
第17回　17.バランス・シート問題
第18回　18.不良債権問題の発生
第19回　19.銀行破綻の経緯
第20回　20.自己資本比率規制
第21回　21.金融監督行政の変化と自己査定制度
第22回　22.金融改革プログラムの目的と銀行の対応
第23回　23.地域金融機関の経営問題（リレーションシップ・バンキング）
第24回　24.産業再生－金融と事業再生の関わり
第25回　25.市場型間接金融への移行と新しい金融手法
第26回　26.他業態（証券・保険・その他金融ビジネス）
第27回　27.グローバル金融危機①
第28回　28.グローバル金融危機②
第29回　29.期末テスト

【成績評価の方法】

試験　100%　レポート　0%　出席　0%
小テスト　6回　各5点　計30点
期末テスト1回　70点
合計　100点

【教科書】

プリントを配布する

【参考文献】

鹿野　嘉昭「日本の金融制度」（東洋経済新報社）
西村　吉正「日本の金融制度改革」（東洋経済新報社）
津田　和夫「現代銀行論入門」（経済法令研究会）
堀内　昭義「日本経済と金融危機」（岩波書店）

科目名　クラス　講義区分	
金融論　＜通期＞	
清　田　　匡	4単位

【講義概要】

（1）前半部分では、主に金融全般についての基礎的な理解のための講義が中心となります。（2）後半部分では、より現実的な動きや、金融政策や金融行政の仕組みや役割の理解につとめます。（1）の基礎的な理解の講義は、金融という複合的な事態の理解のために、三つの観点から区別して金融を考えます。顧客の観点、制度全体を見る鳥瞰的な観点、そして、金融機関の観点からの三つです。（2）後半部分では、とりわけ近年、世間の耳目をたあつめている金融政策や金融行政、そして、それらの変化を題材に、金融の現実への理解を促します。

テキストは使用しません。毎回、資料を配布します。

【学習目標】

複合的で、抽象的な金融現象を、解析し、理解するための、基礎的な観点を獲得し、現実の金融の動きを自身で理解する力を獲得し、向上させることを目標とします。

【講義計画】

第１回　はじめに・序章(補論:「金融から離れた金融機関(1)店舗網」)
第２回　個人向け金融商品・サービス(補論:「金融から離れた金融機関(2)金融機関のCI」)
第３回　企業向け金融商品・サービス(補論:「金融から離れた金融機関(3)採用と初任給」)
第４回　日本の金融制度と制度改革(補論:「金融から離れた金融機関(3)店舗内部」)
第５回　金融市場の構造(補論:「金融サービスのクオリティ(1)サービスの特徴と分類」)
第６回　通貨制度の歴史(補論:「金融サービスのクオリティ(2)ブループリンティング」他)
第７回　決済業務と貨幣のシステム(補論:「金融サービスのクオリティ(3)SERVQUAL」)
第８回　銀行の預金業務と貨幣需要(補論:「利鞘計算(1)プール法」)
第９回　銀行の融資業務と貨幣供給(補論:「利鞘計算(2)階層貸借対照表法」)
第10回　証券業務(補論:「利鞘計算(3)市場金利法1」)
第11回　保険(補論:「統合リスク/収益管理(1)市場金利法2」)
第12回　21世紀の金融業(補論:「統合リスク/収益管理(2)期間プレミアム」)
第13回　金融商品取引法、バーゼルIIについて(補論:「統合リスク/収益管理(3)VaR」)
第14回　前半のまとめ(ポイント、用語、例題のまとめ)
第15回　金融政策と金融行政
第16回　金融行政の歴史の1(経済の変化と規制の変化)
第17回　金融行政の歴史の2(バーゼルIからバーゼルIIへ)
第18回　金融行政の内容の1(バーゼルIIの内容)
第19回　金融行政の内容の2(国内での規制の実装)
第20回　金融行政の内容の3(バーゼルIIの問題点)
第21回　経済の変化と金融行政
第22回　金融政策の歴史
第23回　金融政策と金融制度
第24回　金融政策の内容の1(金融政策手段)
第25回　金融政策の内容の2(金融調節の構造)
第26回　金融政策の内容の3(新しい金融政策手段)
第27回　経済の変化と金融政策
第28回　実物経済と金融経済
第29回　試験・まとめ
第30回　試験・まとめ

【成績評価の方法】

試験　100%
学期末試験(毎回、例題を出して答案作成練習を行いますが、この練習答案は成績には直接反映しません)

【参考文献】

大阪市立大学商学部編『ビジネス・エッセンシャルズ④ 金融』(有斐閣)、
白川方明『現代の金融政策』日本経済新聞社、2008年3月、
佐藤隆文編著『バーゼルIIと銀行監督 --- 新しい自己資本比率規制』東洋経済新報社、2007年3月。

【備考】

【準備学習の指示】毎回の配布資料は、別サーバにアップロードする予定なので、事前にダウンロード、印刷し、一読して準備学習しておくこと。アップロード先については、第1回の講義で指示する。

科目名　クラス　講義区分	
ケアマネジメント　＜秋＞	
川　井　太加子	２単位

【講義概要】
利用者の自立支援に向けた目標指向型プランについて、要介護等高齢者の機関、在宅で活用されているチャートを利用して、ケアマネジメントの手法や過程を、講義･演習を交えて学習する。事例については、実践現場で活躍されている専門職を招いて具体的なケアマネジメントについて学ぶ。

【学習目標】
ケアを必要とする人々のニーズと利用できる社会資源とを結びつけるケアマネジメントの理念と基礎知識について理解する。
ケアマネジメントの具体的な展開方法について理解する。
ケアマネジメントに必要な保健・医療・福祉職間の連携のあり方について理解する。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　　ケアマネジメントとは
第２回　ケアマネジメントの概要（１）
第３回　ケアマネジメントの概要（２）
第４回　ケアマネジメントの概要（３）
第５回　ケアマネジメントとニーズ
第６回　ケアマネジメントと社会資源
第７回　ケアマネジメントと多職種連携（１）
第８回　ケアマネジメントと多職種連携（２）
第９回　ケア会議の持ち方
第10回　ケアマネジメントとソーシャルワーク
第11回　介護保険とケアマネジメント（１）
第12回　介護保険とケアマネジメント（２）
第13回　介護保険とケアマネジメント（３）
第14回　振り返り
第15回　テスト

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　30%　出席　40%
授業への参加度、出席、テストにより総合的に評価する。

【備考】
【準備学習の指示】
社会福祉援助技術の講義や演習および社会保障論や医療福祉論などこれまで学んだ知識や技術を活用しますので、すでに履修している人は復習をして臨むことを勧めます。また、授業はグループディスカッションやワークを取り入れるので、積極的に参加してください。
・02～08SW生対象

科目名　クラス　講義区分	
経営学　01＜春集＞	
谷　　武　幸	４単位

【講義概要】
企業とは何か、経営学とは何かを大筋で説明したのちに、経営学の主要領域を概説します。

【学習目標】
皆さんは経営学を学ぶのは初めてです。しかし、企業を抜きにしては経済社会を語れませんので、本講義では企業とその経営を知る上で最低限の知識の習得を目指します。

【講義計画】
第１回　企業経営の全体像（１）
第２回　企業経営の全体像（２）
第３回　経営学の全体像
第４回　株式会社の仕組み（１）
第５回　株式会社の仕組み（２）
第６回　日本の雇用制度の仕組み（１）
第７回　日本の雇用制度の仕組み（２）
第８回　経営理念と経営哲学
第９回　競争戦略のマネジメント（１）
第10回　競争戦略のマネジメント（２）
第11回　多角化戦略のマネジメント
第12回　Ｍ ＆ Ａのマネジメント
第13回　組織構造のマネジメント（１）
第14回　組織構造のマネジメント（２）
第15回　PDCAサイクルのマネジメント
第16回　長期経営計画
第17回　戦略マップ
第18回　国際化のマネジメント（１）
第19回　国際化のマネジメント（２）
第20回　モチベーションのマネジメント（１）
第21回　モチベーションのマネジメント（２）
第22回　キャリアデザイン（１）
第23回　キャリアデザイン（２）
第24回　情報システムと事業の仕組み（１）
第25回　情報システムと事業の仕組み（２）
第26回　コーポレートファイナンス（１）
第27回　コーポレートファイナンス（２）
第28回　コーポレートファイナンス（３）

【教科書】
加護野忠男・吉村典久　１からの経営学　碩学舎

【備考】
準備学習の指示
　履修にあたっては、講義前に教科書をあらかじめ読んでおくこと。また、講義内容の要点をプリントして配布するので、この資料にしたがって復習を行うこと。

科目名　クラス　講義区分	
経営学　02＜秋集＞	
信　夫　千佳子	4単位

【講義概要】
経済学が経済のマクロ現象を扱うのに対して、経営学は経済を構成する個別経済単位である企業を対象としている。企業は、物財またはサービス財を生産する経済単位をなし、営利を目的とする独立的なものであるが、近年は、非営利組織も経営学の対象とされている。
経営は、一定の目的を達成しようとする合目的な意思決定過程という主体的要素、人間の意志決定を制約する経営構造からなっている。この内部構造は、経営の基礎的分野として扱い、その管理は、意思決定の過程や構造を対象とするものである。

【学習目標】
企業の仕組みや運営について理解し、将来社会人として活躍するための基礎知識として修得することを目標としている。
講義では、企業経営の全体像を説明した後に、経営戦略、組織構造、人事管理、経営情報システムなどの個別分野の経営理論を紹介しながら、必要に応じて企業経営に関する事例を取り上げて考察する。

【講義計画】
第１回　授業の進め方
第２回　経営学とは何か
第３回　企業の仕組み（１）
第４回　企業の仕組み（２）
第５回　日本的経営（１）
第６回　日本的経営（２）
第７回　モチベーション（１）
第８回　モチベーション（２）
第９回　キャリア・デザイン（１）
第10回　キャリア・デザイン（２）
第11回　経営戦略（１）
第12回　経営戦略（２）
第13回　競争戦略（１）
第14回　競争戦略（２）
第15回　競争戦略（３）
第16回　多角化戦略（１）
第17回　多角化戦略（２）
第18回　国際経営（１）
第19回　国際経営（２）
第20回　組織構造（１）
第21回　組織構造（２）
第22回　組織構造（３）
第23回　経営と情報システム（１）
第24回　経営と情報システム（２）
第25回　非営利組織の経営（１）
第26回　非営利組織の経営（２）
第27回　経営の課題を考察する
第28回　経営の課題を考察する
第29回　経営の課題を考察する
第30回　総括

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　０%　出席　０%

【教科書】
追って指示する

【参考文献】
追って紹介する。

【備考】
準備学習の指示：授業予定の教科書の単元を読んでおくこと。

科目名　クラス　講義区分	
経営学基礎　01＜秋＞ 経営学基礎　02＜秋＞	
野　田　俊　範	2単位

【講義概要】
経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。
そこでこの講義では、経営学部で開設されている諸科目のうち、経営学・商学関係科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、大まかなイメージを持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くのに有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばよいのか、という点についてもガイドします。

【学習目標】
この講義を履修し終わった人が、１年後期（第２セメスター）から自覚をもって、みずからの判断で積極的なキャリア形成（将来めざす仕事に向けた能力・経歴形成）を進めていけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。講義には必ず出席して、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。

【講義計画】
第１回　経営学、商学とはどんな学問か－全体的見取り図（経営学総論、経営学史、経営史、商学の主な内容）
第２回　会社の仕組みはどのようになっているのか－企業論
第３回　会社や組織はどのようにして運営されているのか－経営管理論
第４回　ヒトをどのように雇い・使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいか－経営労務論
第５回　会社ではどのようにしてモノを作っているのか－生産管理論
第６回　商品流通の仕組みと販売について－流通論、マーケティング論
第７回　会社はおカネをどう集め・どのように運用しているのか－経営財務論
第８回　金融制度・保険制度・証券市場の仕組みと銀行業・保険業・証券業について－銀行論、保険論、証券論
第９回　国際化時代の会社はどう変わってきているか－国際経営論、異文化間コミュニケーション論
第10回　中小企業の直面する問題と起業家について－中小企業論
第11回　組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方について－組織倫理学
第12回　大学院レベルの高度な授業に挑戦しよう－環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
第13回　就職活動、キャリア形成は入学時から始まっている－経営学部卒が有利な職業の紹介、学科目履修との関連づけ、キャリアセンター職員の話を聴く
第14回　自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
①期末テストの結果
②講義中に随時指示する提出レポート
などによる総合評価とします。

【教科書】
テキストは使用しませんが、補助テキストとして本学経営学部において開設されているいくつかの科目の概要をまとめた資料がありますので、最初の時間にそれを配付します。

【参考文献】
適宜指示します。
なお、特に指定はしませんが、ポータブルな（携帯できる小さな）経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを薦めます。授業のときに必要に応じてひいてみるほか、常日頃から隙間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んでください。

【備考】
【準備学習の指示】
適宜指示します。

科目名　クラス　講義区分	
経営学史Ａ　＜春＞	
野　田　俊　範	２単位

【講義概要】

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問であり、これら両国および日本において、今日までめざましい発展を遂げてきた。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたのである。

本講義では、そのドイツ経営経済学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。経営経済学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

【学習目標】

１．　ドイツ経営経済学の生成・展開の歴史を学ぶ。
２．　ドイツ経営経済学の今後の発展の方向について考える。
３．　学説と、その学説の歴史的・社会的背景との関連に注目する。

【講義計画】

第１回　私経済学の成立（１）
第２回　私経済学の成立（２）
第３回　私経済学の成立（３）
第４回　経営経済学の確立（１）
第５回　経営経済学の確立（２）
第６回　経営経済学の確立（３）
第７回　経営経済学の展開（１）
第８回　経営経済学の展開（２）
第９回　転換期の経営経済学（１）
第10回　転換期の経営経済学（２）
第11回　転換期の経営経済学（３）
第12回　現代の経営経済学（１）
第13回　現代の経営経済学（２）
第14回　現代の経営経済学（３）

【成績評価の方法】

学期末試験により評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005年。
海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社、1994年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

【備考】

【準備学習の指示】
適宜指示します。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学史Ｂ　＜秋＞	
野　田　俊　範	２単位

【講義概要】

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問であり、これら両国および日本において、今日までめざましい発展を遂げてきた。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたのである。

本講義では、そのドイツ経営学のなかでも特に経営社会学と呼ばれる学問の、生成・展開の歴史を概観する。あわせて、経営における人間過程に関する具体的現実としての経営社会政策についても取り上げる。

ドイツ経営社会学・経営社会政策の歴史を学ぶことを通じて、経営共同体の理念を中心概念とするドイツ的な経営思想の意義や可能性について考えてほしい。

【学習目標】

１．　経営社会学の歴史を学ぶ。
２．　経営社会政策の歴史を学ぶ。
３．　ドイツ的経営思想・経営理念について考える。

【講義計画】

第１回　経営社会学の生成
第２回　古典派の経営社会学（１）
第３回　古典派の経営社会学（２）
第４回　古典派の経営社会学（３）
第５回　近代派の経営社会学（１）
第６回　近代派の経営社会学（２）
第７回　近代派の経営社会学（３）
第８回　ドイツ的経営政策と経営理念（１）
第９回　ドイツ的経営政策と経営理念（２）
第10回　共同決定と経営社会学（１）
第11回　共同決定と経営社会学（２）
第12回　共同決定と経営社会学（３）
第13回　労働の人間化と経営社会学（１）
第14回　労働の人間化と経営社会学（２）

【成績評価の方法】

学期末試験により評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005年。
面地豊『経営社会学の生成』千倉書房、1998年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

【備考】

【準備学習の指示】
適宜指示します。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学総論　01＜春集＞	
片　岡　信　之	4単位

【講義概要】
この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。
したがって、本講義の目標もその点におかれることなります。すなわち、経営学全体について、広くサーベイするということです。
経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思っています。経営学の基礎知識をつけるのだという気持ちで臨んで下さい。
　講義内容は必ずノートに取ってください。この講義の目的の一つは、今後４年間に話を聴いて要点を掴み、ノートに取るという訓練を１年生の初めから習慣づけてもらうことを兼ねています。したがって、学年末の試験時にはノートを提出してもらい評価点として加味します。
授業はパワーポイントを使って、速いペースで進められます。ですから、授業中のノート取りは、とりあえず走り書きメモ用のノートでサッサと行い、自宅で別の清書用ノートに整理し直すことが必要です。提出は走り書きノートと清書ノートの両方を提出して下さい。自動的に復習をすることになるという仕組みになっています。
授業中にいきなり清書ノートをつくろうと手抜きをすれば、授業スピードについて行けないはずです。

【学習目標】
経営学の広範な領域について、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思っています。経営学の基礎知識をつけるのが目標の講義です。
真剣に学習する人には、経営学の全貌がつかめ、それなりに確実に基礎力がつくようにします。中途半端な姿勢の人は、良い成果と成績は得られないでしょう。
授業に出てノートを取り、真剣な学習をする習慣をつけることも、もう一つの目標です。下記の成績評価でレポート40%とある内容は、このノート提出と随時課すレポートの２つを合わせて40%という意味です。

【講義計画】
第１回　企業は私達の生活をいかに支えているか１
第２回　企業は私達の生活をいかに支えているか２
第３回　環境の変化と企業経営１
第４回　環境の変化と企業経営２
第５回　現代の企業社会と経営学を学ぶ意義１
第６回　現代の企業社会と経営学を学ぶ意義２
第７回　企業は誰が所有し、経営しているのか１
第８回　企業は誰が所有し、経営しているのか２
第９回　企業は何を目指して活動しているのか１
第10回　企業は何を目指して活動しているのか２
第11回　企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるのか１
第12回　企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるのか２
第13回　企業はどのようにして経営し、組織を作るのか１
第14回　企業はどのようにして経営し、組織を作るのか２
第15回　情報は企業の組織をどのように動かしているのか１
第16回　情報は企業の組織をどのように動かしているのか２
第17回　企業はどのように競争し合い、そして互いに競争しあっているのか１
第18回　企業はどのように競争し合い、そして互いに競争しあっているのか２
第19回　企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか１
第20回　企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか２
第21回　企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか１
第22回　企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか２
第23回　企業はどのようにして資本を調達し、資金を運用するのか１
第24回　企業はどのようにして資本を調達し、資金を運用するのか２
第25回　企業はどのようにして人材を活用するのか１
第26回　企業はどのようにして人材を活用するのか２
第27回　企業はどのようにして文化をはぐくむのか１
第28回　企業はどのようにして文化をはぐくむのか２
第29回　まとめ
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　40%
随時レポートを提出を課します。具体的には講義時に指示します。
また、期末試験終了後に、受講ノートの提出をして下さい(試験修了後の当日中に教務課で受け付けて貰います)。レポートとノートを併せて40%の評価です。ノートは自分が受講して作ったノートに限ります。他人のノートをコピーしたものは、借り手・貸し手ともにそのノートをゼロ評価とします。
出席票による出欠は取りませんが、ノートが平素の出席状況を端的に示すので、出席しない人は単位を取ることは難しいでしょう。清書ノートとともにその基礎となる走り書きノートを提出している人は、授業に出席したことが明らかだからです。

【教科書】
片岡信之・齋藤毅憲・佐々木恒男・高橋由明・渡辺峻　はじめて学ぶ人のための経営学入門　文眞堂

【参考文献】
なし

【備考】
「準備学習の指示」
毎回、授業の進行にあわせて、テキストの該当章を事前に読んでから授業に臨んでください。初心者でもわかりやすいように書いてありますので、理解は出来るはずですが、授業ではさらにわかりやすく、且つ、テキストに書いてないこともたくさん話します。

科目名　クラス　講義区分	
経営学総論　02＜秋集＞	
谷　口　照　三	4単位

【講義概要】

経営学は、「企業が事業を経営すること」を研究の対象としてきた。企業の目的は「利益を追求すること」と言われているが、その実現のためには「事業を効果的に経営すること」が必要である。「事業」とは「提供すべき財やサービス」であり、「効果的に経営する」とは、「その事業を社会や人間生活のニーズ（必要性・欠乏感）に応答するように構想し、実行すること」、さらにそのために「働く人々や他の関係者・関係集団および環境との建設的な諸関係を構築すること」の二点に集約できる。近年、かかる二点に焦点を当て、それを視座として「経営の新しいあり方」が実践的にも、理論的にも探求されている。それは、「CSR（Corporate Social Responsibility)」と呼ばれている。私は、それを「責任経営」と呼んでいる。

本講義では、その主要な内容を第１章から第７章までの第Ⅰ部と、第８章から第10章までの第Ⅱ部から構成し、さらにそれに序論と結論を加え、講義する。序論は、何故に経営学を学ぶ必要があるのかを説明する。第Ⅰ部は、『『責任経営の学』としての経営学への視座とその理論的基盤」を、「責任経営」および「責任経営の学」への歴史的動向を概観し、さらに「責任経営」の考え方やその特徴およびその実現化に向けての条件などを考察していくことを通し、明らかにしている。第Ⅱ部では、経営学を構成する主要な各論、つまり事業論（財・サービスに関する議論）、企業論（資本結合の形態に関する議論）および経営論（生産過程、マーケティング、財務過程、労務過程のそれぞれとそれらの連結を組織的、戦略的に管理することに関する議論）の概要を示し、さらに第Ⅰ部で考察した論点を基礎にそれらの新しい動向を展望する。結論は、以上のまとめであり、「責任経営」やCSRの実践的・理論的探究の射程を展望する。

【学習目標】

本講義を受講する学生諸君には、21世紀という新しい時代の動向を見据え、現在の経営実践や経営学を考え、それらの将来を展望し、また経営学の学習を通じて「新しい社会の可能性」に想いを寄せてもらいたい、と思っている。
そのために理解しておかなければならない多くの用語がある。開講時に「2010年度経営学総論主要用語リスト」を配布する。講義の前後に、各自「用語リスト」を用い、関連する用語が理解出来ているかどうか確認することが肝要であろう。

【講義計画】

第１回　序論―人間生活と社会の発展―
第２回　第　１章　近代という時代と経営学
第３回　第　２章　経営学生成・発展過程における三重の論点移行
第４回　第　２章　経営学生成・発展過程における三重の論点移行
第５回　第　２章　経営学生成・発展過程における三重の論点移行
第６回　第　２章　経営学生成・発展過程における三重の論点移行
第７回　第　２章　経営学生成・発展過程における三重の論点移行
第８回　第　３章　「責任経営の学」への視座（１）―責任概念の再吟味と再構築―
第９回　第　３章　「責任経営の学」への視座（１）―責任概念の再吟味と再構築―
第10回　第　３章　「責任経営の学」への視座（１）―責任概念の再吟味と再構築―
第11回　第　４章　「責任経営の学」への視座（２）―Needs とWants の区別と関連―
第12回　第　４章　「責任経営の学」への視座（２）―Needs とWants の区別と関連―
第13回　第　５章　「責任経営の学」への視座（３）―「経営の公益性」から「公益性の経営」へ―
第14回　第　５章　「責任経営の学」への視座（３）―「経営の公益性」から「公益性の経営」へ―
第15回　第　６章「責任経営の学」の理論的基盤―組織倫理学の構想と展開―
第16回　第　６章「責任経営の学」の理論的基盤―組織倫理学の構想と展開―
第17回　第　６章「責任経営の学」の理論的基盤―組織倫理学の構想と展開―
第18回　第　７章 経営学の組織倫理学的転回―「責任経営の学」としての経営学の可能性―
第19回　第　８章「責任経営の学」としての経営学における事業論
第20回　第　８章「責任経営の学」としての経営学における事業論
第21回　第　８章「責任経営の学」としての経営学における事業論
第22回　第　９章「責任経営の学」としての経営学における企業論
第23回　第　９章「責任経営の学」としての経営学における企業論
第24回　第　９章「責任経営の学」としての経営学における企業論
第25回　第10章「責任経営の学」としての経営学における経営論
第26回　第10章「責任経営の学」としての経営学における経営論
第27回　第10章「責任経営の学」としての経営学における経営論
第28回　結論―「責任経営」としてのCSRと経営学の広がりと深み―

【成績評価の方法】

試験　100％

ただし、毎回「ミニット・ペーパー」（記名式で１分程度の時間で質問やコメントなどを書いてもらうペーパー）を配布し回収する。また、適時、リポートを課す予定。これらは、主体的に勉強してもらいたいために行うものである。

【教科書】

未定。テキストを使用しない場合は、個々のテーマごとレジュメを、また適時資料を配布する。

【参考文献】

適時指示する。

【備考】

事前学習の指示：学習目標のところにも記載しているが、開講時に「2010年度経営学総論主要用語リスト」を配布するので、講義の前後に、各自「用語リスト」を用い、関連する用語が理解出来ているかどうか確認することが肝要であろう。また、テキストは使用しないが、事前に講義に関する原稿・レジュメ・資料など配布するので、予習・復習することは言うまでもなく、受講生にとって当然のことである。

科目名　クラス　講義区分	
経営学特講－英文簿記会計　＜春＞	
中　村　恒　彦	２単位

【講義概要】
ビジネス活動の国際化により、英文による簿記・会計の理解が不可欠となっている。英文簿記会計といっても、単に財務諸表の日本語表記を英語表記に置き換えるだけではなく、国際的な会計基準と日本の会計基準との差異についての理解も必要となる。
国際的な会計スキルを判定するための検定試験が東京商工会議所を中心として実施されており、毎年数多くの受験生を出している。受験者は、学生のみならず、ビジネス関係者の間でも、今後、急増していくものと予想される。本講義では、国際的な会計スキルの前提となる英文簿記を学習する。

【学習目標】
本講義は、このBATIC（国際会計検定）試験に焦点を合わせ、受講生諸君の国際ビジネス能力の向上に寄与することを目的として開講されている。講義を担当するのは、国際的な会計事務所の専門家であり、様々な実務情報も踏まえた内容となっている。毎時間、講義50分、演習20分、解説10分、質疑応答10分を標準として進める予定である。

【講義計画】
第１回　Basic Concept of Bookkeeping, Business Transactions
第２回　The Accounting Cycle and Controlling System, Accounting Structure, Recording Financial Transaction
第３回　Adjusting and Closing Entries, Preparation of the Worksheet, Financial Statements
第４回　Financial Accounting and Reporting , Financial Statements
第５回　Cash, Account Receivable
第６回　Inventories, Property, Plant and Equipment
第７回　Intangible Assets, Investments
第８回　Liabilities, Stockholder's Equity
第９回　Translation of Foreign Currency Statements, Statement of Cash Flows
第10回　Business Combinations
第11回　Interim Financial reporting and Segment Information, Accounting Change and Correction of Errors, Time Value of Money
第12回　exercise①
第13回　exercise②
第14回　exercise③
第15回　Examination

【成績評価の方法】
試験　90%　出席　10%
学期末テストの成績と出席状況を勘案して評価する。

【教科書】
東京商工会議所 国際会計検定 BATIC Subject１　公式テキスト 中央経済社
東京商工会議所 国際会計検定 BATIC Subject１　問題集 中央経済社

【備考】
［準備学習］
簿記についてのある程度の事前知識が必要であるので、「商業簿記」を履修済みであること、ないし日商簿記検定試験３級合格を履修条件としている。国際ビジネスに関心のある学生は、本講義とあいまって、経営学特講（企業情報の開示と税制：日本）を受講することを勧める。
・インテグレーション科目
・02～09E生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学特講－環境ビジネス実践　＜秋＞	
松　尾　順　介	２単位

【講義概要】
本講義は、環境問題に取り組むNPOで、インターンシップを行うことで、その現場の活動を経験します。まず、NPOの担当者から現状や課題について講義を聴いた上で、実習を行います。実習の内容は、①「地峡環境大学」（NPO主催のセミナー）の企画・運営実習、②温暖化など地球環境問題に関する調査・研究、特にデータブック作成、③自然エネルギーに関する調査・研究、特に風力・太陽光発電事業の調査、④イベント等への参加、例えば地域の「エコフェスタ」など、です。実習先のNPOとしては、大阪市内に本部のある「特定非営利活動法人　地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)」に依頼しています。同法人は、国連経済社会理事会(ECOSOC)の登録NGO(ロスター)であり、単に実習先として信頼のおける機関であるというだけでなく、経済社会理事会の召集する会議に参加しており、国際的な活動も行っています。
http://www.bnet.ne.jp/casa/index１.htm
なお、開講時期は、夏休み期間で、３～５日間程度を１クールとして、１クール２名程度を同NPOに派遣します。履修学生は、その期間中、毎日同NPOにおもむき、上記の内容を実習します。また、時期や予算等によっては、同NPOが設立にかかわっている風力発電施設などの現地調査にも参加します。また、履修生は、合計20名以内に限定する予定です。

【学習目標】
本講義は、経営学部の実学教育の一つとして新規に開講するものです。環境問題は、人類すべてに共通する課題であり、その解決なくして人類の存続さえもが危ぶまれる事態になっています。そこで、環境ビジネスは、環境問題を解決するために不可欠の分野です。また、自然エネルギーや環境対策の分野では、日本は国際競争力を持っており、今後日本の成長にも有望な分野とされています。本講義では、環境ビジネスの現場を体験することによって、その現状や課題を理解し、今後の展望を考えることを目的としています。

【講義計画】
第１回　環境問題の現状
第２回　環境問題の展望
第３回　環境ビジネスの現状
第４回　環境ビジネスの課題
第５回　「地峡環境大学」（同NPO主催のセミナー）の企画
第６回　「地峡環境大学」（同NPO主催のセミナー）の運営
第７回　温暖化など地球環境問題に関する調査・研究
第８回　温暖化など地球環境問題に関するデータブック作成
第９回　自然エネルギー事業（特に風力・太陽光発電事業）に関する調査・研究１
第10回　自然エネルギー事業（特に風力・太陽光発電事業）に関する調査・研究２
第11回　自然エネルギー事業（特に風力・太陽光発電事業）に関する調査・研究３
第12回　地域での環境イベント（例「エコフェスタ」）への参加１
第13回　地域での環境イベント（例「エコフェスタ」）への参加２
第14回　地域での環境イベント（例「エコフェスタ」）への参加３
第15回　プレゼンテーション

【成績評価の方法】
試験　０%　レポート　30%　出席　70%
成績評価は、実習参加態度、レポート提出、実習内容のプレゼンテーションによって行います。

【教科書】
使用しない。

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
準備学習の指示：本講義を受講するに際しては、以下の準備学習を行ってください。①地球環境問題への関心を高め、出来るだけ環境問題の知識や用語に慣れ親しんでおくこと、②具体的な環境ビジネス、特に自然エネルギーや環境対策分野の現状について、普段からニュースや新聞記事に目を通し、関連する知識・情報を集めておくこと、③ワード、エクセル、パワーポイントが使えるようにしておいてください（ただし、ごく基本的な操作だけで構いません）。

・夏期集中科目
・02～09E生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学特講－空間情報システム論　＜集中＞	
森　田　孝　彦	２単位

【講義概要】
本講義においては、日米のビジネススクールにおいて「コンピューターシステムの先駆的利用、活用の事例」とされている、日本のコンビニエンスチェーン主宰会社の事例を用いて、その歴史及びコンピューターシステムの役割、及び、店舗運営への活用例を学ばせる。

【学習目標】
①既に社会インフラとなっているコンビニエンスストアのコンピューターシステムの理解
②社会環境の変化に対応できる思考方法の習得
③チーム内の自己の役割認識と新ビジネスへのチャレンジ精神の醸成

【講義計画】

第１回	１日目	１限	本講義の内容、進め方、成績評価について
第２回	１日目	２限	情報システム活用の背景　①日本のコンビニエンスストアの歴史
第３回	１日目	３限	情報システム活用の背景　②フランチャイズチェーンの要点
第４回	１日目	４限	情報システム活用の背景　③通信ネットワークとシステム機器
第５回	２日目	１限	企業の戦略　①店舗展開の地域戦略
第６回	２日目	２限	企業の戦略　②新商品開発の戦略
第７回	２日目	３限	POS（販売時点情報）システムとバーコードの知識
第８回	２日目	４限	販売データを活用した商品発注の考え方
第９回	３日目	１限	販売データ取得以外のバーコードの活用　①公共料金収納業務
第10回	３日目	２限	販売データ取得以外のバーコードの活用　②会計システム
第11回	３日目	３限	社内の情報共有システム
第12回	３日目	４限	店舗経営指導員への情報共有システム
第13回	４日目	１限	コンピューターシステム構築時に考えるべき視点
第14回	４日目	２限	本講義のまとめ及び補足
第15回	４日目	３限	評価試験

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%

【備考】
【準備学習の指示】
大手コンビニエンスストアチェーンの店舗を観察し、「季節毎の陳列商品の変化」、「商品陳列位置の変化」及び「店舗の立地による陳列商品の特徴」を把握しておくこと。
・02～09E生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学特講－国際ビジネス・変化と対応　＜春＞	
北　條　弘　司	２単位

【講義概要】
米国を震源地として2008年に発生した国際金融危機は、国際ビジネスの枠組みを大きく転換させ、国・業界を超えた競合、資本移動の質的な転換、など国際ビジネス環境に大きな変化を起こした。
講義では、海外販路の開拓・販売活動・現法経営など、国際ビジネスの理論やマーケティングの定説が実際のビジネス活動に組込まれている状況を実践的に解説する。

【学習目標】
日本企業は業績の多くを海外に依存している。金融危機によって変化した市場環境への対応のため、地域経済の成長を視野に入れ、新しい市場開拓と新たなビジネス環境で事業推進のできるグローバル人材が求められている。
その様な状況を踏まえ、国際ビジネス推進上の課題対応の視点と対応能力を養い、“国際ビジネスの現場の議論に参画できる国際人の育成”に役立つ講義としたい。

【講義計画】
第１回　１．国際ビジネスの基礎：
　　*なぜ国際ビジネスを学ぶ必要があるか
第２回　*ビジネスリスク（国際金融危機、通貨為替）
第３回　*対外直接投資、日本の貿易相手
第４回　２．異文化への接触と国際経営環境：
　　*文化の違い、コミュニケーション・コンテクスト
第５回　*異文化経営、組織文化、国際企業連携
第６回　*海外拠点の組織、拠点運営
第７回　３．国際ビジネス展開：
　　*グローバル・マーケティング、ブランド構築
第８回　*サービスマーケティング
第９回　*競争戦略１：価格戦略、企業通貨
第10回　*競争戦略２：SWOT分析、PPM、SCM
第11回　４．事例研究：
　　*事例１：家電各社の輸出マーケティング
第12回　*事例２：中国進出した日系企業の事業実態
第13回　５．国際経営資源管理：
　　*予算計画，国際財務連結、財務諸表
第14回　*国際人的資源管理、業績評価、海外駐在員
第15回　*期末試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%
出席は単なる講義への出席でなく、質問などによる授業への参加とする。

【教科書】
使用しない。
講義の際にレジュメを配布する。

【参考文献】
*理論とケースで学ぶ国際ビジネス（新版）江夏健一・桑名義晴/編著　同文舘出版2006/11
*国際ビジネス入門　シリーズ国際ビジネス　江夏健一/太田正孝　中央経済社　2008/12
*国際経営-グローバル・マネジメント　マネジメント基本全集　茂垣広志　学文社　2006/09

【備考】
【準備学習の指示】
国際ビジネスの修学には基本的な用語知識が不可欠である。講義に使用する主なビジネス用語は事前に伝えるので、ネット検索などの方法で意味を理解した上での授業への参加が望ましい。又、一部の主要な国際ビジネス用語は授業の予習を目的とし、成績評価対象のレポートとして提出を求める。

科目名　クラス　講義区分	
経営学特講－証券市場と業界の現状と展望　＜秋＞	
松　尾　順　介	２単位

【講義概要】
本講義は、証券界で活躍中の第一線の実務家を講師に招き、証券市場と証券業界の現状と展望について講義を行う。講師陣には、証券各社、証券取引所、証券関連団体の担当者を招いている。各講師陣は、担当している業務分野の内容や現状を紹介した上で、所属会社の特色や競争優位性を説明し、今後の展望を提示する。さらに、証券市場や投資について、知っておくべき知識や理論についても実務的な観点から解説する。

【学習目標】
本講義の目的は、近年銀行や証券会社など金融系への就職志望者が増加していることを考慮して、金融業界の実情に触れる機会を提供することにある。したがって、金融系志望者にとって、本講義は有益であることは間違いない。また、そうでない学生にとっても、企業の財務担当者や個人投資家として、将来証券市場や証券会社とかかわることが予想されるため、本講義の内容は有益であろう。

【講義計画】
第１回　はじめに
第２回　証券業界の概要
第３回　金融・証券市場の動向
第４回　証券営業
第５回　証券発行業務（株式・社債引受業務
第６回　M＆A関連業務
第７回　プリンシパル投資業務
第８回　証券化業務
第９回　投資ファンド運用業務
第10回　信用取引と証券金融
第11回　デリバティブ取引と取引所
第12回　不公正取引の禁止と取引所の自主規制業務
第13回　金融証券行政の現状と課題
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％
期末テストで評価するが、質問カードの評価を加点する。出席点は一切考慮しない。

【教科書】
使用しない。

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
準備学習の指示：毎回の講義を受講するに際しては、前回の講義内容をよく復習して講義に臨む必要がある。具体的な準備学習は以下である。①この講義では、キーワードとなる専門用語が頻出するので、まずこれらの専門用語の意味や内容をしっかり頭に入れておくこと、②配布資料は、講義をより深く理解するためのものが数多く含まれているので、それらを自分で読み解き、理解を深めておくこと、③普段から証券市場に関するニュースや新聞記事に目を通し、関連する知識・情報を集めておくこと、④前期の「証券論」を予め履修しておくことが望ましい、などである。

・インテグレーション科目
・02～09E生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学特講－地域企業の経営実践を学ぶ　＜秋＞	
坂　手　恭　介	２単位

【講義概要】
この講義は経営学部と泉大津商工会議所との共同企画による講義であり、経営者の後継者や起業家を目指す学生を対象としたキャリア教育を実現する目的で開講する。
経営学を勉強するには、これまで蓄積されてきた理論だけではなく、実際に企業がどのように経営を行っており、どのような課題を持っているのかについて把握することが重要である。また経営実践を知ることは、将来企業に就職する、起業を志す、家業を継ぐなどといったキャリアを考える上で有用である。特に「大学を取り巻く地域にはどのような産業があるのか」「現実の企業経営がどのように行われているのか」「経営者はどのような経営上の悩みや課題を抱えているのか」「将来起業をするにはどのようなことをしなければならないのか」といった問いに興味を持つ学生に受講を薦める。

【学習目標】
本講義では、地域企業の経営者を招聘し、実際に企業においてどのような取り組みや課題を持って業務を行っているのかについて理解するのが目的である。

【講義計画】
第１回　第　１回　イントロダクション
第２回　南大阪地域の産業について
第３回　既存商流崩壊への挑戦①
第４回　既存商流崩壊への挑戦②
第５回　創業百年の毛織物会社、私はこう引き継ぎました。あなたなら①
第６回　創業百年の毛織物会社、私はこう引き継ぎました。あなたなら②
第７回　三現主義(現場・現実・現物)の会社経営シミュレーション①
第８回　三現主義(現場・現実・現物)の会社経営シミュレーション②
第９回　世界の食料事情を背景とした企業アイデンティティの創造戦略①
第10回　世界の食料事情を背景とした企業アイデンティティの創造戦略②
第11回　地域企業の経営実践の事例報告①
第12回　地域企業の経営実践の事例報告②
第13回　地域企業の経営実践の事例報告③
第14回　まとめ
第15回　総合評価

【成績評価の方法】
講義の出席状況および取り組み姿勢により評価する。ただしレポート提出および発表を単位取得条件とする。

【備考】
【注意】第２回から第13回までは外部講師を迎えるので、テーマおよび順序の変更がありえます。秋学期履修登録期間に変更内容を検討したうえで登録手続・変更を行ってください。
【準備学習の指示】新聞・雑誌・ウェブ等で産業動向に関する記事に関心をもってスクラップしておくこと。
・インテグレーション科目
・02～09E生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学特講－地域ビジネス実践　＜秋＞	
牧　野　丹奈子	２単位

【講義概要】
店舗経営のノウハウ（企画、市場調査、広告、仕入れ、販売、在庫管理、組織運営、情報利用など）を実践的に学び、実際に大学で期間限定の店舗を経営します。学生による店舗経営です。扱う商品の中に和泉特産品を扱うことにより、地場産業に関する知識も実践的に修得します。また、地域住民を顧客とした店舗を経営することにより、地域貢献とビジネスの関係を実践的に学びます。また、履修生は、合計20名以内に限定する予定です。

【学習目標】
①企画、広告、販売、在庫管理、組織運営、情報利用などの経営に関する知識を修得すること。
②和泉特産品を扱うことにより、地場産業に関する知識を修得すること。
③地域住民を顧客とした店舗を経営することにより、地域貢献とビジネスの関係を修得すること。
④体験内容を報告し、プレゼンテーション能力を身につけること。
＊全回出席を原則とします。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業計画等を詳しく説明します。）
第２回　婦人服業界の現状
第３回　地場産業の現状
第４回　店舗企画＜その１＞
第５回　店舗企画＜その２＞
第６回　店舗企画・実践
第７回　マーケティング調査
第８回　マーケティング調査・実践
第９回　広告企画
第10回　広告企画・実践
第11回　仕入れ＜その１＞
第12回　仕入れ＜その２＞
第13回　店舗づくり
第14回　体験報告会＜その１＞
第15回　体験報告会＜その２＞

【成績評価の方法】
全回出席を原則とします。
実践の様子、レポート及びプレゼンテーションによって総合的に評価します。

【教科書】
ありません。

【参考文献】
適宜指示します。

【備考】
大学祭の前に、少なくとも12回の講義をもてるような実施形態で行います。大学祭のあとに、残りの講義を行います。

＜準備学習の指示＞毎回、プリント配布などにより、準備学習の指示をします。
・インテグレーション科目
・02～09E生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学特講－地域ビジネス塾（テクノステージ和泉）　＜春＞	
朴　　大　栄	２単位

【講義概要】
今日の重要な社会的課題のひとつに「地域再生・地域活性化」があります。グローバル化が進む一方で、経済的自立ができるような地域システムが求められているのです。具体的には、その地域固有の価値を生み出すことが重要であり、そのための人材育成が求められています。
本講義は、このような地域を活性化できる人材の育成をねらいとし、地域で活躍されている行政・実業界の方々のご協力により地域連携の一環として開講されることとなった「テクノステージ和泉まちづくり協議会」による寄附講座です。
本講義は和泉地域を中心に活躍される社会人の方や行政の方に、地場産業や新規の地域ビジネス等について、その経営の難しさや工夫などを具体的に話していただく講義です。
本講義はインテグレーション形式をとり、ゲスト講師プラス担当教員による１回完結型の講義です。また、本講義は一般市民の方々にも開放しますので、和泉市における唯一の社会科学系総合大学のあり方を実践する講義でもあります。

【学習目標】
全国的に有名な内陸型産業団地の成功事例であるテクノステージ和泉の成功要因は何か、地域連携・産学官連携はどうあるべきか、企業経営に不可欠な経営者の素養とは何かなど、企業経営と連携の意義・重要性について具体的事例に基づく理解を目標とします。

【講義計画】
第１回　「講義概要と趣旨説明」朴 大栄（経営学部教授）
第２回　「豊かな自然と可能性あふれる　みんなで創る新時代都市　和泉」 辻 宏康（和泉市長）
第３回　「『和泉農業ヒト・モノ・カネ活用プロジェクト』の成果と課題について」木寺正次（和泉商工会議所専務理事）
第４回　「東アジアにおける水問題へのアプローチ」小谷口　繁（(株)スワトー代表取締役社長）
第５回　「地域に根差し発展する企業とは」岡室養子（(株) タイショーテクノ代表取締役）
第６回　「タイトル未定」大武健一郎（大塚ホールディングス(株)代表取締役副会長）
第７回　「地産地消ーおばちゃんビジネスー」久保充己（(有)いずみの里代表取締役）
第８回　「世界最小ステンレスロープ、９ミクロンに込められた経営哲学」加納川　快明（大阪コートロープ㈱代表取締役社長）
第９回　「地場産業と人工真珠業界」佐竹保彦（日本人造真珠硝子細貨工業組合理事長）
第10回　「農空間を生涯学習社会に活用しませんか？」飯阪　保（会員制体験農園ふぁっとりあ組合長）
第11回　「中小企業が活躍する大阪産業と中小企業経営事例」松下　隆（大阪府産業開発研究所主任研究員：中小企業診断士）
第12回　「大阪の商人（あきんど）」村井良之（和泉商店連合会会長）
第13回　「高付加価値なモノづくりで貢献できる企業づくり」坂本　進（坂本造機(株)代表取締役社長）
第14回　「地域連携・産学官連携のあり方」朴 大栄（経営学部教授）
第15回　「講義総括」朴 大栄（経営学部教授）

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
出席評価50%には、単なる出席のみならず、積極的な授業参加を勘案（20%）します。

【教科書】
特になし。

【参考文献】
講義中に適宜指示

【備考】
【準備学習の指示】
本講義は、地域連携・産学連携の一環として実施されるテクノステージ和泉まちづくり協議会からの寄附講座です。内容を理解するために、テクノステージ和泉とまちづくり協議会について前もって学習しておく必要があります。下記のホームページを参照し、地域、組織、加盟企業の内容を確認しておくこと。
テクノステージ和泉ホームページ：http://www７.ocn.ne.jp/~kibankyo/techno/techno.html
まちづくり協議会ホームページ：http://www.techno-matidukuri.org/contents/kigyou.html
・インテグレーション科目
・02～09E生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学特講－日本の文化と社会　＜秋＞	
金　本　伊津子	2単位

【講義概要】
This course presents a descriptive introduction and an overview of contemporary Japanese culture and society. Any students who would like to clear the mystique of Japanese culture are welcome to this couse, but need to understand that this course is intended for biginners.

【学習目標】
This course offers some key oncepts that will enable you to understand and communicate with Japanese people. The lectures will be given in English.

【講義計画】
第１回　Introduction (course goals and approach), Geography
第２回　Emic and etic perspectives on Japan: Discussion on the video, "The Japanese Version"
第３回　Japanese adaptation of foregin cultures: Discussion on the article, "Japanese Adaptation"
第４回　Foreginers in Japan(1): Discussion on the article, "Outside The Sumo Ring? Foreigners and A Rethinking of the National Sport"
第５回　Foreigners in Japan(2): Discussion on the video, "Struggle and Success: African American experience in Japan"
第６回　1st quiz / Group presentation (1)
第７回　Demographic and social change (1): Falling birthrate and aging society : Reading materials from the book, "Japan in the 21st Century."
第８回　Demographic and social change (2): Education, women's status, and the gap between rich and poor : Reading materials from the book, "Japan in the 21st Century."
第９回　Japanese communucation style (1): Aimai, Amae, and Chinmoku : Reading materials from the book, "Japanese Mind"
第10回　Japanese communucation style (2) : Haragei, Honne and Tatemae, and Nemawashi: Reading materials from the book, "Japanese Mind"
第11回　Male and female relationships: Discussion on the video, "Shinjuku Boys"
第12回　2nd quiz / Group Presentation (2)
第13回　Religious life in Japan (1): Shinto and Buddhism
第14回　Religious life in Japan (2): Wedding and funeral: Reading materials from the book, "Japanese Mind"
第15回　3rd quiz / Group Presentation (3)

【成績評価の方法】
There will be a take-home final essay examination and three in-class quizzes. Group presentation is also required.

The percentage of the final grade for each of the requirements will be; take-home essay examination 30 %, quizzes 30%, presentation 10%, attendance and participation 30%

【参考文献】
Reading materials for each class are given in class.

【備考】
There will be no make-up exams or quizzes except for unusual, well documented circumstances.

【準備学習の指示】Not only attendance but also participation are important for this course. You need to finish reading before class in order to participate in discussion.

・英語による講義

科目名　クラス　講義区分	
経営学特講－ビジネスと文化　＜秋＞	
三　宅　　亨	2単位

【講義概要】
With the coming of the 21st century, the world is changing more rapidly than ever. Steadily advancing IT technology is changing our society, industry and lifestyles. In addition, ongoing globalization requires better communication closer cooperation across cultures among other things.
In this class, a wide range of topics will be taken up for those who aspire to be "citizens of the world." The class wil be taught by different faculty members each week, and conducted entirely in English. Students are encouraged to paticipate in lively discussions.

【学習目標】
To understand business and culture in the world with an emphasis on Japanese customs and practices. This will give the students a good opportunity to better understand Japanese society as well as the world.

【講義計画】
第１回　1. Introduction of the course
　　2. globalization and english
第２回　Postwar Development of the Japanese Economy
第３回　Financial Industry and Information Systems in Japan (1)
第４回　Financial Industry and Information Systems in Japan (2)
第５回　Entertainment Business in Japan
第６回　Stell Industry
第７回　Management System in Japan
第８回　Interfirm relationship in Japan
第９回　Human Resources Management in Japanese Firms
第10回　Nano Technology Business
第11回　Introduction to Cost Management
第12回　Japanese Communication Style
第13回　Japanese Culture and Japanese Companies
第14回　Towards Symbiotic Multicultural Society
第15回　Review

【成績評価の方法】
レポート　75%　出席　25%
1. Strict attendance is required.
2. In place of the final examination, the students are required to submit at least three academic papers written in English on the topics presented during the course.

【教科書】
No textbooks are used in this course. Handouts will be provided in class instead.

【参考文献】
To be announced in class.

【備考】
・英語による講義
・インテグレーション科目
・02～09E生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学特別講義－国際財務会計基準　＜秋＞	
柴　　理梨亜	２単位

【講義概要】
The distributed material will be explained, and discussions will be held in each class, so that all the students can share ideas about different topics on international accounting.

【学習目標】
The objective of this course is to understand the role and importance of the International Financial Reporting Standards (IFRS)and the IASB, for the diclosure of companies in the global context.

【講義計画】
第１回　International Accounting and Harmonization Process
第２回　International Accounting Standards Committee (IASC) and International Accounting Standards
第３回　Process of restructuring IASC
第４回　International Accounting Standards Board (IASB) and International Financial Reporting Standards (IFRS)
第５回　IASB Constitution and due process
第６回　Convergence between IFRS and US GAAP
第７回　Efforts towards convergence between IASB and ASBJ
第８回　Convergence of accounting standards worldwide
第９回　IFRS and accounting standards in Japan
第10回　IASB and its conceptual framework
第11回　Presentation of financial statements
第12回　Consolidation
第13回　Statement of cash flows
第14回　Students presentation
第15回　Students presentation

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
Participation in discussions held in class will also be considered for final marks.

【教科書】
The necessary material will be printed and distributed in each class.

【参考文献】
-International Financial Reporting Standards (IFRSs), International Accounting Standards Board.

【備考】
・英語による講義

科目名　クラス　講義区分	
経営学特別講義－日本企業のグローバル戦略　＜春＞	
村　山　　博	２単位

【講義概要】
This class is especially for exchange students who are interested in Japanese firms and their business strategies in the global economy.
In recent years business environment around Japanese firms is rapidly changing, and globalization is more increasing. The aim of this course is to examine several problems that contemporary Japanese companies have been faced with in the changing business environment and the global economy.
Lectures are given by guest speakers who have respectively large experiences in big Japanese general trading companies.

【学習目標】
The aim of this course is to help students to understand several problems that contemporary Japanese companies have been faced with in the changing business environment and the global economy.

【講義計画】
第１回　World's Economy and Japan's economy
第２回　The progress and diversification of Japanese International Trade
第３回　The role and funnctions of "Sogo－Shosha"
第４回　The House of Mitsui (it's history and evolution influenced by modern European Pioneers)
第５回　Culture Diversity Management
第６回　Intellectual Property Right
第７回　The Trading Credit Management (Risk Control and Debt Collection)
第８回　Remarkable Economy in India
第９回　Management of Production line
第10回　Difference of corporate culture between Japan and USA
第11回　Marketing management
第12回　What makes up a successful businessman
第13回　Industrial Structure Reforms (A Challenge to Globalization)
第14回　Revitalization of Osaka Economy
第15回　Examination

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
遅刻は出席点をもらえません。出席点に授業態度を加味することがあります。
講義の進捗により試験ではなくレポートに変更することがあります。
なお、講義が英語で行われるだけでなく、試験（問題及び解答）、レポートもすべて英語です。英語力に自信がない人は受講しないでください。

【参考文献】
Handouts will be provided

【備考】
【準備学習】
講義、試験（問題及び解答）、レポートはすべて英語です。
英語力に自信がない人は受講しないでください。
TOEICが600点以上の英語レベルの人のための講義です。
・インテグレーション科目
・英語による講義
・02～09E生は読替一覧参照
・02～06B生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営学特別講義－日本的経営の変遷　01＜春＞ 経営学特別講義－日本的経営の変遷　02＜秋＞	
井　口　良　樹	2単位

【講義概要】
Management styles of Japanese companies, formed during the period of high economic growth since 1960s, changed a lot in the period of economic bubble of the 1 atter half of 1980s and the bubble-burst period of 1990s. We are going to study how the so-called "Japanese Style of Management" has transformed into what we see today in the 21st century.

【学習目標】
The purpose of this study is to learn how the management of major corporations in Japan has responded to the economic conditions of the times.

【講義計画】
第1回　General Outline of the Lectures on "Japanese Style of Management."
第2回　Economic Recovery of Japan after World War II.
第3回　Collapse of the Economic Bubble in 1990s.
第4回　Management Philosophy of Major Japanese Companies.
第5回　Lifetime Employment System.
第6回　Seniority-based Wage and Promotion System.
第7回　Intra-company Labor Union and the Labor-Management Relationship.
第8回　Internationalization Management.
第9回　Organization Management and the Divisional System.
第10回　Mergers and Acquisitions in Japan.
第11回　Japanese Corporate Governance I.
第12回　Japanese Corporate Governance II.
第13回　Collapse of Enron Corporation.
第14回　Lessons and Desirable Corporate Governance Derived from the Collapse of Enron Corporation.

【成績評価の方法】
Preparing a report required on certain features of "Japanese Management."

【教科書】
No Text Book.

【参考文献】
N.A.

【備考】
・英語による講義

科目名　クラス　講義区分	
経営学特別講義－日本の経営実務　＜春＞	
河　合　隆　治	2単位

【講義概要】
From the experience of accounting, auditing and tax profession, we have faced a lot of comparative Japanese business practice with western countries. In this lecture, we demonstrate some unique cases of Japanese accounting and tax practice that may be useful to understand not only Japanese accounting and tax, but also Japanese business culture.

Although there are few differences in theory between Japanese accounting and international accounting; however, in practice there are still some big differences in how to apply accounting principles. We introduce some examples of such differences with basic concepts as follows:

1 Accounting Practice
1.1 Accounting principles
1.2 Basic financial statements
1.3 Reporting
2 Auditing Practice
2.1 Auditing Principles
2.2 Responsibility
2.3 Independence

Japan is well known as having relative high corporate income tax rate on corporations. Currently the effective corporation income tax rate can be calculated at 40%-42% in the aggregate. Most of other OECD member countries in North America and in Europe set the effective tax rate in the range of 30%-35%.

The lecture touches on how the Japanese companies handle the tax compliance work and what sort of management considerations are taken to control the tax cost.

3 Tax Practice
3.1 Introduction to corporate income taxes in Japan
3.2 Tax administration by the national tax authorities
3.3 Tax planning to control tax cost by the management of taxpayer

【学習目標】
The purpose of this lecture is to cultivate your understanding of Japanese accounting and tax practice that may be useful to understand not only Japanese accounting and tax. but also Japanese business culture.

【講義計画】
第1回　Introduction to corporate income taxes in Japan
第2回　Tax administration by the national tax authorities
第3回　Tax planning to control tax cost by the management of tax payer in Japan
第4回　Current topics on international tax matters
第5回　Business practice in Japan, compared with western countries
第6回　Accounting and auditing practices in Japan
第7回　Management assessment and audit concerning internal control over financial reporting (J-SOX)
第8回　Semi annual financial statements
第9回　Consolidated financial statements
第10回　Fraud and audit failure
第11回　Accounting standards in major overseas countries and current status of Japan GAAP
第12回　Major differences between IFRS and Japan GAAP
第13回　Further movement of Japan GAAP (Convergence into IFRS)
第14回　Review

【成績評価の方法】
Grades will be based on attendance, participation in class discussions, reports submitted.

【教科書】
Handout materials will be provided at each class.

【参考文献】
References will be provided at each classes.

【備考】
Preparation before classes:
Read newspapers about current changes in Japanese accounting practices.
・インテグレーション科目
・英語による講義

科目名　クラス　講義区分	
経営管理論　01＜春集＞ 経営管理論　02＜秋集＞	
村　上　伸　一	４単位

【講義概要】

経営管理（マネジメント）論はアメリカ経営学の中心に位置し、１世紀余りの歴史をもっています。支配から、価値を創造する協働の適応的調整としてのマネジメントへの人々の意識のシフトは、自由や機会平等といった基本的人権を基盤とする近代市民社会の成立に由来すると考えられます。

経営管理の場は組織ですから、経営管理論と組織論とは一体的に発展を遂げています。現代社会は学校や病院など多様で膨大な組織から構成されていますが、本講義では、主に企業に焦点を絞ることにします。現代の日米中を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学んでいきましょう。

【学習目標】

本講義では、既述のように，企業に焦点を絞り，現代の日米中を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学習します。実態を分かりやすく捉えるために，映像資料を活用したいと考えています。

主に基盤的理論を学習しますが、学習を通して、実践的有用性のみならず、知的な面白さも実感し、自ら学ぶ意思を固めていくこと、これが当面の目標となります。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　イントロダクション
第３回　現代の経営管理の諸相
第４回　経営管理とは何か
第５回　経営管理者の階層
第６回　経営管理者の職能
第７回　経営学と経営管理論
第８回　経営管理学説の今日の意味
第９回　テイラーの科学的管理法
第10回　人間関係論と人間資源論
第11回　管理過程論
第12回　近代経営管理論（１）
第13回　近代経営管理論（２）
第14回　基礎理論としてのバーナード理論
第15回　中間試験
第16回　現代組織の諸相
第17回　経営組織のミクロ理論
第18回　経営組織のマクロ理論
第19回　経営組織論の総括的展望
第20回　現代企業戦略の諸相
第21回　戦略的経営管理とは何か
第22回　経営戦略の内容とレベル
第23回　経営多角化と投資利益率
第24回　企業ポートフォリオ分析
第25回　競争戦略論
第26回　持続的競争優位の源泉としての独自能力
第27回　グローバル戦略経営管理論
第28回　価値創造の経営管理論の展望

【成績評価の方法】

試験　100%　レポート　５%

中間・期末試験成績により評価します。映像資料や教科書利用のミニ・レポートを講義中に書いていただき、それを評価に加えることがありますので、毎回教科書を持参下さい（試験点数に最大で５%プラス）。

【教科書】

村上伸一　価値創造の経営管理論（改訂４版）創成社

【参考文献】

眞野　脩『組織経済の解明』文眞堂、1978年。
図書館で読むことができます。その他、適宜紹介します。

【備考】

予習・復習をしましょう。予習として，毎回の講義内容の教科書該当ページを予め読んで出席すること。復習として，板書書き写しのノートに教科書などを利用して書き加えていき，その内容を充実させましょう。

科目名　クラス　講義区分	
経営工学（応用）　＜秋＞	
大　松　　繁	２単位

【講義概要】

経営工学は経営諸問題に対する科学的・数学的接近法である。この講義では、製品・サービスの品質管理と、多様な企業連携が求められる、サプライチェーン管理の問題について、その基本を講義する。

春学期に開講した、経営工学(基礎）の受講していることは、経営工学(応用）の受講に必須ではないが、受講していることは望ましい。なお、この講義では、特別な数学的素養は必要がない。

【学習目標】

この講義での目標は次の通りである。
１　品質管理
２　サプライチェーン管理の基本を学ぶ
　①在庫管理問題
　②在庫管理手法　　・EOQモデル　・ABC分析
　③サプライチェーン管理
　　・サプライチェーン管理とは
　　・サプライチェーン管理の事例

【講義計画】

第１回　オリエンテーション
　　第１回の講義で、講義全体の概要を説明する。
第２回　品質管理の基本
第３回　品質保証の考え方
第４回　問題解決の進め方
第５回　品質管理の手法
第６回　統計的手法(１)
第７回　統計的手法(２)
第８回　サプライチェーン管理　その生れた背景
第９回　在庫管理問題
第10回　経済的発注モデル
第11回　在庫管理方式　ABC分類、定点、定量発注方式
第12回　安全在庫量の決定
第13回　サプライチェーン管理
第14回　サプライチェーン管理の事例
第15回　試験

【成績評価の方法】

試験　70%　レポート　20%　出席　10%
期末試験（70%）とレポート(提出状況と内容、20%）講義中に課す課題提出状況（10%）により、成績評価を行う。

【教科書】

内田　治 品質管理の考え方 日本経済新聞出版社
サプライチェーンマネージメント関連の内容はプリントで配布する。

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営工学（基礎）　＜春＞	
大　松　　繁	２単位

【講義概要】

経営工学は経営諸問題に対する科学的・数学的手法で、英国・米国での軍事研究から生れた。その後、オペレーションズ・リサーチという研究分野が生み出され、様々な経営、工学、公共分野での課題解決に寄与してきた。

本分野は、数理解析・計画手法、意思決定手法、生産管理、品質管理、ロジスティック管理等、極めて広範囲である。

本講義では、経営問題に対する意思決定のための、基本的手法について講義する。その応用展開については、秋学期に開講する経営工学(応用）を受講されたい。なお、本講義では詳細な数学的議論には立ち入らないで、手法の考え方を理解することに注力したい。

【学習目標】

意思決定のための分析・計画手法の基本、すなわち、その手法の考え方を述べる。具体的には、以下の手法を中心にこれら手法の活用法、すなわち、モデル化について述べる。

・線形計画法
・PERT手法
・ネットワーク計画

【講義計画】

第１回　オリエンテーション
　　本講義の全体を説明する。
第２回　経営工学発展の歴史
第３回　数理計画法の基本
第４回　線形計画法　（１)問題の定義・表現
第５回　線形計画法　（２)解法
第６回　線形計画法　（３)事例
第７回　動的計画法
第８回　PERT手法　　（１)プロジェクト管理
第９回　PERT手法　　（２)プロジェクトの表現
第10回　最短路問題
第11回　最大フロー問題
第12回　最小費用フロー問題
第13回　組合せ最適化手法
第14回　遺伝的アルゴリズム
第15回　試験

【成績評価の方法】

試験　70%　レポート　20%　出席　10%
期末試験（80%)、レポート（20%）及び講義内での課題提出状況（10%）により成績評価を行う。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

福島雅夫（著）　「数理計画入門」朝倉書店

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営財務論（応用）　＜秋＞	
今　木　秀　和	２単位

【講義概要】

企業は、さまざまな経営資源を必要としている。人、物、金（カネ)、情報の資源がそれである。このうち金（カネ）という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。

金（カネ）は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を証券市場や金融市場、さらには企業の内部から調達する。調達した資本は、目的や使途に合わせて資産の形態で運用される。運用の結果は、損益として把握され、配当その他として処分される。資本の調達、運用、利益処分が、この講義の主要な問題領域である。

この講義では、経営財務の基礎知識を修得していることを前提に応用的問題に関する知識を講義する。

【学習目標】

経営財務の応用的問題に関する知識の習得が、この講義の目標である。

【講義計画】

第１回　長期資本調達の制度(１)
第２回　長期資本調達の制度(２)
第３回　長期資本調達の制度(３)
第４回　エクイティ・ファイナンス(１)
第５回　エクイティ・ファイナンス(２)
第６回　負債ファイナンスと証券化(１)
第７回　負債ファイナンスと証券化(２)
第８回　負債ファイナンスと証券化(３)
第９回　配当政策と自社株買い(１)
第10回　配当政策と自社株買い(２)
第11回　M&Aの広がりと企業財務(１)
第12回　M&Aの広がりと企業財務(２)
第13回　M&Aの広がりと企業財務(３)
第14回　新しい日本的経営の構築と企業財務(１)
第15回　新しい日本的経営の構築と企業財務(２)

【成績評価の方法】

成績評価は学期末試験を基本とする。経営財務の応用的問題に関する知識の習得が、この講義の目標であるので、知識の習得がどの程度できているかを試験によって判定する。

学期の途中で学習を整理し、理解を深めるために１・２回のレポートの提出を求める。

期末テスト、レポート，出席状況を総合して成績をつける。期末テストが基本であり、その他は、成績に加点する要素と考えている。

出席を毎回とる。出席カードに質問・要望があれば書いてもらう。質問・要望には、次回の講義で答える。学生の反応を見ながら双方向の授業を心掛けて講義を進める。

【教科書】

榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄著『現代の財務管理』有斐閣

【参考文献】

高橋文郎・井出正介著『経営財務入門第４版』日本経済新聞出版社
若杉敬明著『入門ファイナンス』中央経済社
久保田啓一著『コーポレート・ファイナンス』東洋経済新報社

【備考】

【準備学習・家庭学習の指示】講義計画に従って講義を進行させるので、事前にテキストの該当箇所を準備学習としてよく読んでくること。

またテキストの章末練習問題に繰り返し取り組むことを家庭学習として奨励する。学期末試験は章末練習問題から出題する。

・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営財務論（基礎）　＜春＞	
今　木　秀　和	２単位

【講義概要】
企業は、さまざまな経営資源を必要としている。人，物、金（カネ）情報の資源がそれである。このうち金（カネ）という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。
金（カネ）は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を証券市場や金融市場、さらには企業の内部から調達する。調達した資本は、目的や使途に合わせて資産の形態で運用される。運用の結果は。損益として把握され、配当その他として処分される。資本の調達、運用、利益処分が、この講義の主要な問題領域である。
この講義では、経営財務の基礎知識を講義する。

【学習目標】
経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標である。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション・・・財務管理とは
第２回　財務的意思決定の基礎（１）
第３回　財務的意思決定の基礎（２）
第４回　レバレッジと資本コスト（１）
第５回　レバレッジと資本コスト（２）
第６回　キャッシュフローと財務分析（１）
第７回　キャッシュフローと財務分析（２）
第８回　資金繰りと財務管理・資金計画（１）
第９回　資金繰りと財務管理・資金計画（２）
第10回　投資案の評価（１）
第11回　投資案の評価（２）
第12回　投資案の評価（３）
第13回　投資価値の創造（１）
第14回　投資価値の創造（２）
第15回　投資価値の創造（３）

【成績評価の方法】
成績評価は、学期末試験を基本とする。経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標であるので、基礎知識の習得がどの程度できているかを試験によって判定する。
学期の途中で学習を整理し、理解を深めるために１・２回のレポートの提出を求める。
期末テスト，レポート，出席状況を総合して成績をつける。期末テストが基本であり、その他は成績に加点する要素と考えている。
出席を毎回とる。出席カードに要望・質問などがあれば、記入してもらう。要望・質問には次回の講義で答える。学生からの反応を見ながら双方向の授業を心掛けて講義を進める。

【教科書】
榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄編『現代の財務管理』有斐閣

【参考文献】
高橋文郎・井出正介著『経営財務入門第４版』日本経済新聞出版社
若杉啓明著『入門ファイナンス』中央経済社
久保田啓一著『コーポレート・ファイナンス』東洋経済新報社

【備考】
【準備学習・家庭学習の指示】授業計画に従って講義を進行させるので、事前にテキストの該当箇所を準備学習としてよく読んでくること。
またテキストの章末演習問題に繰り返し取り組むことを家庭学習として奨励する。学期末試験は章末練習問題から出題する。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営史　＜春集＞	
長谷川　　彰	４単位

【講義概要】
この講義は80年前にアメリカで誕生した経営史学の方法を用いて、具体的には日本の社会を対象にした講義を行なう。
日本の前近代社会から近・現代社会において、商家経営や企業経営がどのように展開したか，また、商人や企業者がどのような行動をとったのか、そしてまた、その間、商人や企業者の行動理念がどのように変遷したのか、その実態を明らかにしていきたい。そして、そのようなことを通じて、「日本的経営」とは何かと言うことに迫っていきたい。

【学習目標】
前近代および近・現代における商家経営や企業経営の実態を把握して、併せて、それらの変遷を理解することが、第一の学習目的である。そのうえに、商人や企業者の活動について理解できればと思う。

【講義計画】
第１回　はじめに
第２回　経営史学の成立と発展
第３回　企業史学の台頭
第４回　企業者活動の国際比較ーイギリス・アメリカの場合ー
第５回　企業者活動の国際比較ー日本の場合ー
第６回　近世経済社会の成立
第７回　近世の貨幣・信用制度
第８回　近世の流通制度ー株仲間ー
第９回　近世の商家経営（１）ー鴻池家の場合ー
第10回　近世の商家経営（２）－三井家の場合ー
第11回　近世の特産物ー竜野醤油の場合ー
第12回　近世の特産物ー阿波藍の場合ー
第13回　近世商家の経営理念
第14回　幕末期の商品流通
第15回　近世社会の遺産
第16回　近代社会のはじまり
第17回　殖産興業政策（１）
第18回　殖産興業政策（２）
第19回　明治期の会社制度
第20回　企業勃興
第21回　近代企業家の系譜
第22回　三井の近代化ー中上川彦次郎の改革ー
第23回　三井合名会社の成立
第24回　戦時体制下の財閥
第25回　財閥解体
第26回　企業集団の形成（１）
第27回　企業集団の形成（２）
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％
試験によって行なう。

【教科書】
特に指定はしない。

【参考文献】
適宜指示する。

科目名　クラス　講義区分	
経営情報技術論Ａ　＜春＞	
村　山　　博	２単位

【講義概要】
多機能な携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、経営情報技術に関する基礎的な学習を行う。

【学習目標】
本講義は、ICT社会（情報通信社会）で活躍するビジネスパーソンビジとして必要な情報技術の基礎の習得を目的とする。

【講義計画】
第１回　経営情報技術論の概論
第２回　インターネット、マルチメディアの活用
第３回　ユビキタス社会の特徴
第４回　アナログとデジタルの特徴
第５回　ネットワーク社会の落とし穴
第６回　企業における情報セキュリティ問題
第７回　企業活動における知的財産情報の管理
第８回　企業活動における著作権情報の管理
第９回　企業活動における個人情報の管理
第10回　企業活動における秘密情報と公開情報
第11回　企業の研究開発に関する情報管理
第12回　インターネットを活用した新たなビジネス
第13回　情報化社会の未来
第14回　２進数の基礎と計算
第15回　16進数の基礎と計算

【成績評価の方法】
試験　100％
原則的に試験により評価するが、授業態度を加味することがある。

【教科書】
教科書は講義で指示する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

【備考】
【準備学習】
講義後にしっかり復習することが大切です。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営情報技術論Ｂ　＜秋＞	
村　山　　博	２単位

【講義概要】
多機能な携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、経営情報技術に関する基礎的な学習を行う。

【学習目標】
本講義は、ICT社会（情報通信社会）で活躍するビジネスパーソンビジとして必要な情報技術の基礎の習得を目的とする。

【講義計画】
第１回　さまざまなコンピュータ
第２回　最先端コンピュータ、最先端ロボット、ナノテクノロジー
第３回　情報とは、さまざまな情報とその活用、
第４回　コンピュータの歴史
第５回　コンピュータの５大機能
第６回　入力装置、出力装置
第７回　記憶装置、制御装置、演算装置
第８回　主記憶の高速化（メモリーインターリーブ、キャッシュメモリ、命令パイプライン）
第９回　分散システム、クライアント・サーバ方式
第10回　オペレーティング・システム
第11回　インターネット、通信技術（変調・復調、多重化）
第12回　通信プロトコル、TCP／IP、OSI基本参照モデル
第13回　ネット社会における光と影
第14回　情報化社会における技術開発の変化
第15回　これからの経営情報技術

【成績評価の方法】
試験　100％
原則的に試験により評価するが、授業態度を加味することがある。

【教科書】
教科書は講義で指示する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

【備考】
【準備学習】
講義後にしっかり復習することが大切です。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営情報基礎　01＜秋＞ 経営情報基礎　02＜秋＞	
村　山　　博	２単位

【講義概要】
経営学部における経営情報関連の講義は、以下の４つである。
「経営情報技術論」、「経営情報システム論」、「情報化組織論」、「経営工学」
本講義は上記の４つの講義のイントロダクションとして位置づけられ、経営情報に関する基礎を学習するものである。

【学習目標】
本講義の目的は、最低限必要な数学の基礎、コンピュータの基礎、ネットワークの仕組み、情報化社会の企業活動の変化、企業における情報活用などを学習し、ICT社会（情報通信社会）で活躍するビジネスパーソンとして必要な経営情報の基礎を習得することである。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　さまざまな情報　情報とは？
第３回　ユビキタス社会とさまざまなコンピュータ
第４回　情報化社会の現状と未来のコンピュータ
第５回　コンピュータの仕組み
第６回　２進数の基本
第７回　２進数の計算
第８回　16進数の計算
第９回　ネットワークの仕組み
第10回　デジタル化とその活用
第11回　企業におけるコンピュータの活用事例
第12回　情報セキュリティ
第13回　インターネットを活用した新たなビジネス
第14回　ネットワークを活用した企業活動
第15回　情報化社会の未来（ロボット、ライフサイエンス、モバイル）

【成績評価の方法】
試験　100％
原則的に試験により評価するが、授業態度を加味することがある。

【教科書】
教科書は使用しない。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

【備考】
【準備学習】受講前に高校で学習した『情報Ａ』を復習することが大切です。
・10B生対象

科目名　クラス　講義区分	
経営情報基礎　03＜春＞ 経営情報基礎　04＜秋＞	
牧　野　丹奈子	２単位

【講義概要】
経営学部における経営情報関連の講義は、以下の４種類である。
「経営情報技術論A・B」、「経営情報システム論Ⅰ・Ⅱ」、「情報組織論A・B」、「経営工学（基礎・応用）」
本講義は上記の４種類の講義のイントロダクションとして位置づけられ、経営情報に関する基礎を学習するものである。
また、上記の内容に加え、講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。

【学習目標】
本講義の目的は、最低限必要な数学の基礎、コンピュータの基礎、ネットワークの仕組み、情報化社会の企業活動の変化、企業における情報活用などを学習し、ビジネスパーソンとして必要な経営情報の基礎を習得することである。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　数学の基礎＜その１＞
第３回　数学の基礎＜その２＞
第４回　ｎ進数＜その１＞
第５回　ｎ進数＜その２＞
第６回　コンピュータの仕組み
第７回　基本回路
第８回　経営情報システムの発展＜その１＞
第９回　経営情報システムの発展＜その２＞
第10回　インターネットビジネス＜その１＞
第11回　インターネットビジネス＜その２＞
第12回　情報化社会の現状
第13回　システム思考入門＜その１＞
第14回　システム思考入門＜その２＞
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　100％
原則的に試験により評価するが、授業態度等を加味することがある。

【教科書】
教科書は使用しない。

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
＜準備学習の指示＞毎回、プリント配布などにより、準備学習について指示する。
・08～10生対象（Ｂ生除く）

科目名　クラス　講義区分	
経営情報システム論Ⅰ　＜春＞	
深　谷　清　之	２単位

【講義概要】
1951年に世界最初の電子計算機が販売されて以来、コンピュータは、製造、流通、金融、行政などの多くの組織において多様な使われ方をし、経営のあり方に大きな影響を与えて来た。特に近年は、コンピュータ技術や通信技術などを駆使して、経営戦略の企画・検証，組織の再構成、意思伝達メカニズムの効率化などが戦略的に進めている。経営情報システム論Ⅱを理解する上での基礎的な内容を学習する。

【学習目標】
本講義では、まず、そのような情報システムをどのように企業経営、マネジメントへ利用したのかを概観したあと、情報システムを効果的に導入したいくつかの先進的な事例を紹介する。
次に、経営情報システムを理解するために必要な最小限の基本的な情報技術を紹介した後、組織における情報管理、業務形態と情報システムの関係、経営と情報システムの関係などを学ぶ。

【講義計画】
第１回　全体の進め方、成績評価等
　　情報システムシステムマネジメントの概要
第２回　企業における先進的情報システム事例　花王
第３回　企業における先進的情報システム事例　ヤマト運輸
第４回　企業における先進的情報システム事例　アメリカン航空
第５回　企業における先進的情報システム事例　銀行
第６回　コンピュータの歴史
第７回　基本的な情報技術
第８回　経営情報システムにおける情報管理
第９回　レポートの評価と返却、再提出について
第10回　業務形態や社会生活と情報システム
第11回　産業・経営と情報システム
第12回　企業事例での検証
第13回　本講義のまとめ
第14回　期末試験（期間外試験の予定）

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　50%
原則として成績は、期末試験と課題レポートを、それぞれ100点満点で採点し、その合計点を１／２にして、計算する。必ず、課題レポートを提出し、期末試験を受験すること。講義での質問、意見等での加点もある。

【教科書】
特に指定しない。毎回の講義でプリントを配布する予定。

【参考文献】
特に指定しないが、必要があれば、その都度指示する。

【備考】
準備学習の指示
　本講義は、次回のレジメや、場合によっては事例などを説明するので、それらを予め学習し、理解しておくことが必要である。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営情報システム論Ⅱ　＜秋＞	
深　谷　清　之	２単位

【講義概要】
1951年に世界最初の電子計算機が販売されて以来、コンピュータは、製造、流通、金融、行政などの多くの組織において多様な使われ方をし、経営のあり方に大きな影響を与えて来た。特に近年は、コンピュータ技術や通信技術などを駆使して、経営戦略の企画・検証，組織の再構成、意思伝達メカニズムの効率化などが戦略的に進めている。経営情報システム論Ⅰで学習した内容をもとに、さらに応用的な内容を学習する。

【学習目標】
本講義では経営情報システム論Ⅰで学習した内容をベースに、組織と情報システムの関係、ICタグの利用やサプライチェーンマネジメントなどを学ぶ。その上で、多くの業界における企業の事例を学習し、現在の状況や今後の課題等を学ぶ。

【講義計画】
第１回　全体の進め方、成績評価等
第２回　経営情報システム論Ⅰの振り返り
第３回　組織と情報システム
第４回　IT技術の利用　その１　ICタグについて
第５回　企業事例の学習　流通業の事例について　その１
第６回　企業事例の学習　流通業の事例について　その２
第７回　企業事例の学習　製造業の事例について　その１
第８回　企業事例の学習　製造業の事例について　その２
第９回　レポートの評価と返却、再提出について
第10回　企業事例の学習　金融業の事例について　その１
第11回　企業事例の学習　金融業の事例について　その２
第12回　企業における情報システムの役割について
第13回　本講義のまとめ
第14回　期末試験（期間外試験の予定）

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　50%
原則として成績は、期末試験と課題レポートを、それぞれ100点満点で採点し、その合計点を１／２にして、計算する。必ず、課題レポートを提出し、期末試験を受験すること。講義での質問、意見等での加点もある。

【教科書】
とくに指定しない。毎回の講義でプリントを配布する予定。

【参考文献】
特に指定しないが、必要があれば、その都度指示する。

【備考】
準備学習の指示
　本講義は、次回のレジメや、場合によっては事例などを説明するので、それらを予め学習し、理解しておくことが必要である。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営労務論Ａ　＜春＞	
正　亀　芳　造	２単位

【講義概要】

21世紀に入り、厳しい経済環境のもとで日本企業は様々な改革に取り組んでいる。中でも、人的資源管理に関わる諸制度の改革が盛んである。人的資源管理とは、経営を構成するヒト・モノ・カネの３要素のうち、ヒトに関わる管理をいう。企業経営を動かすのはヒトであり、その働き如何が経営を左右する。企業を取り巻く経済・社会環境に加え、ヒトの価値観も転換期にある今日、従来の終身雇用と年功序列を基礎とした人的資源管理もその転換が求められている。本講義では、まず人的資源管理の基本的な考え方を解説した上で、現代の日本企業が人的資源管理において直面している諸問題の中から雇用管理に焦点を当て、新しい勤労スタイルも含めて可能な限り多面的に考察し、その展望を試みたい。

【学習目標】

本講義では、人的資源管理の基本的な考え方を説明した上で、現代の日本企業が人的資源管理の中の主要領域である雇用管理において直面している諸問題を可能な限り多面的に解説します。人的資源管理の基本的な考え方と現代の日本企業が雇用管理領域において直面している主要な問題は何か、これらを理解することが当面の学習目標となります。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション：人的資源管理の現代的意義
第２回　企業経営と人的資源管理
第３回　モチベーション
第４回　リーダーシップとコミットメント
第５回　組織構造
第６回　職務設計
第７回　社員区分制度と社員格付制度
第８回　雇用管理（１）
第９回　雇用管理（２）
第10回　非正規労働者
第11回　女性労働者
第12回　高年齢労働者
第13回　海外派遣者
第14回　研究開発技術者

【成績評価の方法】

試験　70%　レポート　20%　出席　10%
①期末試験の成績、②数回実施する小テストの成績、③レポートの成績、を総合して評価します。

【教科書】

奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著　入門人的資源管理（第２版）中央経済社
本テキストは2010年３月刊行予定です。

【参考文献】

吉田和夫・大橋昭一監修『最新　基本経営学辞典』同文舘、2010年。
奥林康司・平野光俊編著『フラット型組織の人事制度』中央経済社、2004年。
その他、講義中に適宜指示します。

【備考】

準備学習の指示：第２回目以降の講義を受講するには、その準備として、予め講義で指示したテキストの章ないし該当部分を事前に読み、要点をノートにまとめておくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経営労務論Ｂ　＜秋＞	
正　亀　芳　造	２単位

【講義概要】

21世紀に入り、厳しい経済環境のもとで日本企業は様々な改革に取り組んでいる。中でも、人的資源管理に関わる諸制度の改革が盛んである。人的資源管理とは、経営を構成するヒト・モノ・カネの３要素のうち、ヒトに関わる管理をいう。企業経営を動かすのはヒトであり、その働き如何が経営を左右する。企業を取り巻く経済・社会環境に加え、ヒトの価値観も転換期にある今日、従来の終身雇用と年功序列を基礎とした人的資源管理もその転換が求められている。本講義では、現代の日本企業が人的資源管理において直面している諸問題の中から賃金や昇進などの「報酬管理」と「労使関係」の諸問題に焦点を当て、その解説と展望を試みたい。

【学習目標】

本講義では、現代の日本企業が人的資源管理を構成する３領域のうちの報酬管理と労使関係の２領域において直面している諸問題を可能な限り多面的に解説します。現代の日本企業が報酬管理および労使関係において直面している主要な問題は何か、これを理解することが当面の学習目標となります。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション：企業経営と人的資源管理の機能
第２回　人事等級制度（１．職能資格制度）
第３回　人事等級制度（２．職務等級制度）
第４回　キャリア開発
第５回　昇進制度
第６回　人事考課制度（１．年功主義と人事考課制度）
第７回　人事考課制度（２．成果主義と人事考課制度）
第８回　専門職制度
第９回　賃金制度（１．賃金とその設計原理）
第10回　賃金制度（２．賃金体系）
第11回　賃金制度（３．賃金制度の新動向）
第12回　福利厚生制度
第13回　労使関係（１．団体交渉と労使協議制）
第14回　労使関係（２．個別的労使関係）

【成績評価の方法】

試験　70%　レポート　20%　出席　10%
①期末試験の成績、②数回実施する小テストの成績、③レポートの成績、を総合して評価します。

【教科書】

奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著　入門人的資源管理（第２版）中央経済社
テキストは、2010年３月刊行予定。

【参考文献】

吉田和夫・大橋昭一監修『最新　基本経営学辞典』同文舘、2010年。
その他、講義中に適宜指示します。

【備考】

準備学習の指示：第２回目以降の講義を受講するには、その準備として、予め講義で指示したテキストの章ないし該当部分を事前に読み、要点をノートにまとめておくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
景気循環論　＜秋集＞	
滝　田　和　夫	４単位

【講義概要】
資本主義経済は好景気・不景気の交替という景気循環を通じて発展してきた。景気がよいときには企業は高利潤を謳歌し、労働者も賃金上昇による生活水準の向上を楽しむ。人々の表情は明るく、自信に満ち溢れ、社会には活気がみなぎる。しかし、好景気が永続しないのは資本主義経済の不滅の教訓である。ひとたび景気が悪くなると、企業も家計も借金返済に追われ、企業倒産が頻発し、労働者はリストラで職を失う。不景気の恐ろしさは、就職を控えた学生諸君自身が身にしみて感じていることである。
この講義では、このような景気の交替が資本主義経済で繰り返されるのはなぜかということについて考えていく。そこでは、景気循環に関する基礎的な知識と基本的・代表的な景気循環理論について解説する。なお、景気循環論はマクロ経済学の応用の側面をもつので、マクロ経済学を修得済みであるか、またはこの講義と並行して履修されることが望ましい。

【学習目標】
この講義では、景気循環に関する基礎的な知識を習得すること、およびいくつかの基本的・代表的な景気循環理論を理解することを目標とする。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　１　景気循環の定義　１
第３回　１　景気循環の定義　２
第４回　２　様々な循環とSchumpeter　１
第５回　２　様々な循環とSchumpeter　２
第６回　２　様々な循環とSchumpeter　３
第７回　２　様々な循環とSchumpeter　４
第８回　３　景気循環の測定とMitchell　１
第９回　３　景気循環の測定とMitchell　２
第10回　３　景気循環の測定とMitchell　３
第11回　４　景気動向指数と予測　１
第12回　４　景気動向指数と予測　２
第13回　５　景気循環理論の基礎　１
第14回　中間テスト
第15回　５　景気循環理論の基礎　２
第16回　５　景気循環理論の基礎　３
第17回　６　乗数・加速度理論　６．１　Harrodモデル　１
第18回　６．１　Harrodモデル　２
第19回　６．１　Harrodモデル　３
第20回　６．２　Samuelsonモデル
第21回　６．３　Hicksモデル　１
第22回　６．３　Hicksモデル　２
第23回　６．３　Hicksモデル　３
第24回　７　非線形景気循環論　１
第25回　７　非線形景気循環論　２
第26回　７　非線形景気循環論　３
第27回　８　不規則衝撃の理論　１
第28回　８　不規則衝撃の理論　２

【成績評価の方法】
試験　90%　レポート　０%　出席　10%
基本的に中間試験と期末試験によるが、出席も若干加味する。

【教科書】
教科書は指定せず随時プリントを配布する。なお、授業計画の第５章以下については参考文献１の第Ⅱ部が参考になる。

【参考文献】
１．淺利一郎著『IT時代のマクロ経済学』（実教出版社）
２．置塩信雄編著『景気循環』（青木書店）
３．Ｊ．Ｒ．ヒックス（著）古谷弘（訳）『景気循環論』（岩波書店）
４．長島誠一著『景気循環論』（青木書店）

【備考】
【準備学習の指示】テキストがないので、事前に配布するプリントに目を通しておくとよい。

科目名　クラス　講義区分	
経済開発論　＜秋集＞	
望　月　和　彦	４単位

か行

【講義概要】
現在の開発途上国はかつて「後進国」と呼ばれていた。これは先進国に対比する呼び名であったわけだが、失礼な名称であることから開発途上国と呼ばれるようになった。30～40年前は開発途上国とは言いながらほとんど発展していないような国がたくさんあった。ところが今日、経済発展は多くの国で見られるようになっており、開発途上諸国はまさに開発途上にある。本講では経済発展の要因、経済発展の現状、経済発展の将来について考える。

【学習目標】
本学の教育の目標である「世界の市民の養成」に則り、世界の市民にふさわしい知識と判断力を涵養する。

【講義計画】
第１回　導入　本講の基本的な立場　科学的な考え方とは何か
第２回　経済発展の要因　その１　お金
第３回　経済発展の要因　その２　資本
第４回　経済発展の要因　その３　技術・知識
第５回　経済発展の要因　その４　制度・思想
第６回　経済発展の要因　その５　社会秩序（１）
第７回　経済発展の要因　その６　社会秩序（２）
第８回　第一回小テスト
第９回　世界的な経済発展　その１　日本
第10回　世界的な経済発展　その２　アメリカ
第11回　世界的な経済発展　その３　ヨーロッパ
第12回　世界的な経済発展　その４　東アジア
第13回　世界的な経済発展　その５　新興工業国BRICｓ
第14回　世界的な経済発展　その６　アフリカ
第15回　第二回小テスト
第16回　環境問題総論
第17回　環境問題各論　その１　オゾン層破壊
第18回　環境問題各論　その２　地球温暖化
第19回　環境問題各論　その３　種の多様性、森林破壊、酸性雨
第20回　環境問題各論　その４　廃棄物
第21回　環境問題各論　その５　資源問題
第22回　環境問題　まとめ
第23回　第三回小テスト
第24回　人口問題　その１　人口の意義
第25回　人口問題　その２　人口の抑制因
第26回　人口問題　その３　人口爆発
第27回　人口問題　その４　少子高齢化問題
第28回　第四回小テスト

【成績評価の方法】
試験　67%　レポート　33%　出席　０%
成績は授業中に行われる４回の小テストと２回のレポートの合計点で決まる。
期間内試験は行わない。

【教科書】
猪木武徳 戦後世界経済史 中公新書

【参考文献】
最初の講義時に文献リストを配付する。

科目名　クラス　講義区分	
経済学　01＜春集＞	
荒　木　英　一	4単位

【講義概要】
テレビニュースや新聞で、経済に関することが報じられない日はありません。不況、失業、企業倒産、財政赤字、派遣規制、最低賃金、高校無償化、外国人参政権、公開会社法などなど。これらすべてが、私たちの生活に関わっています。この講義では、こうした経済に関する時事問題を解説しながら、同時に、経済学の理論を初心者向けに大まかに説明します。

【学習目標】
（1）経済ニュースを理解できるようになること
（2）経済学の基本的な考え方を身につけること
（3）経済学の眼を通して社会問題を考察してみること

【講義計画】
第1回　経済学とは
第2回　マクロの日本経済（1）
第3回　マクロの日本経済（2）
第4回　ミクロの日本経済（1）
第5回　ミクロの日本経済（2）
第6回　マクロ経済学（1）国内総生産とは
第7回　マクロ経済学（2）物価と失業
第8回　マクロ経済学（3）財政の仕組み
第9回　マクロ経済学（4）金融の仕組み
第10回　マクロ経済学（5）貨幣と債券
第11回　マクロ経済学（6）マクロ経済政策（1）
第12回　マクロ経済学（7）国際経済の仕組み
第13回　マクロ経済学（8）マクロ経済政策（2）
第14回　ミクロ経済学（1）市場経済とは
第15回　ミクロ経済学（2）需要と供給
第16回　ミクロ経済学（3）消費者の行動
第17回　ミクロ経済学（4）企業の行動
第18回　ミクロ経済学（5）市場均衡
第19回　ミクロ経済学（6）消費者余剰、生産者余剰
第20回　ミクロ経済学（7）最低賃金の経済分析
第21回　日本経済（1）「格差社会」
第22回　日本経済（2）「日本型経営」
第23回　日本経済（3）「輸出立国」
第24回　日本経済（4）「失われた20年」
第25回　日本経済（5）「景気対策」
第26回　日本経済（6）「財政破綻」
第27回　日本経済（7）「パラダイス鎖国」
第28回　日本経済（8）「創造的破壊」
第29回　試験
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　40%

科目名　クラス　講義区分	
経済学　02＜春集＞	
西　川　憲　二	4単位

【講義概要】
はじめに、日本経済の現状と問題点を検討する。そしてこれらの経済問題を考えるために必要な、経済学の基礎理論について講義する。

【学習目標】
マクロ経済学と貿易理論とミクロ経済学に関する、基礎理論の修得を学習目標とする。

【講義計画】
第1回　経済学とは何か
第2回　経済学の系統図
第3回　日本経済の現状と問題点
第4回　「失業」と非正規雇用問題
第5回　財政赤字問題
第6回　社会保障制度と少子高齢化問題
第7回　世界経済の覇権の歴史
第8回　マクロ経済学：経済力の計り方
第9回　国民総生産の決定メカニズム
第10回　所得・支出分析1
第11回　所得・支出分析2
第12回　総需要政策
第13回　銀行制度
第14回　貿易と為替レート
第15回　リカードの「比較優位の法則」
第16回　貿易で「2国2財モデル1生産要素」の場合
第17回　円ドル為替レート
第18回　個人（家計）の行動：無差別曲線
第19回　予算制約
第20回　所得の変化
第21回　価格の変化
第22回　企業の行動
第23回　総需要線
第24回　独占企業の利潤最大化行動
第25回　完全競争
第26回　パレート効率性
第27回　不完全競争
第28回　公共財
第29回　試験
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
3回の小テスト（各10点満点）および定期試験（100点満点）で合計80点以上A、70点以上B、60点以上C、60点未満D。

【参考文献】
スティグリッツ・ウォルシュ「マクロ経済学・ミクロ経済学」東洋経済新報社

科目名　クラス　講義区分	
経済学　03＜秋集＞	
桂　　昭　政	４単位

【講義概要】
本講義では経済理論を習得するというよりも現実の具体的な経済現象、およびそれに関連する経済知識をとりあげ、それらについての本格的理解をめざす。

【学習目標】
抽象的な経済理論よりも具体的な経済を対象にすることにより経済問題に積極的に関心をもってもらえるようにし、経済現象の本格的理解により経済問題に対して自分の考えをもつことができるようになればと思っている。

【講義計画】
第１回　この授業に関するガイダンス
　　なお、授業の理解度等により順序が変動することもある。
第２回　GDP(国内総生産)、GNP(国民総生産)
第３回　経済循環
第４回　GDPと付加価値
第５回　GDPと経済成長
第６回　国民所得
第７回　GDE(国内総支出)と景気(１)
第８回　GDE(国内総支出)と景気(２)
第９回　貿易収支
第10回　国際収支
第11回　対外純資産
第12回　円高・円安とその影響(１)
第13回　円高・円安とその影響(２)
第14回　財政の収支構造(１)
第15回　財政の収支構造(２)
第16回　財政赤字
第17回　国債発行とその影響(１)
第18回　国債発行とその影響(２)
第19回　直接金融と間接金融
第20回　銀行の役割
第21回　中央銀行
第22回　不良債権処理
第23回　自己資本比率規制
第24回　証券化問題(サブプライムローン問題)
第25回　大きな政府と小さな政府
第26回　市場経済と雇用
第27回　セーフティネットと社会保障
第28回　産業構造
第29回　学期末試験

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%
「出席、レポート」は、全体の授業のうち４回、出席チエックを兼ねて授業中にこれまでの学習に関するレポートを書いてもらうことを表している。「試験」は期末テストによる評価を表している。

【教科書】
教科書は使用せず、ノートをとってもらうことになる。

【参考文献】
最初の授業のときに言及する。

【備考】
【準備学習の指示】
経済の知識、理論を自分のものにするには、絶えず知識、理論を現実の経済問題にあてはめて考えることが必要であり、常日頃から経済問題、経済の動きに関心を持つこと。そのために新聞等の経済記事を読むように努めること。

科目名　クラス　講義区分	
経済学　04＜秋集＞	
厳　　善　平	４単位

【講義概要】
1990年代に入った頃、「21世紀はアジアの世紀」という言い方はマスメディア等で喧伝され始めた。近年、経済大国化しつつある中国やインドの台頭もあって、その表現は現実味のあるものになってきている。
人口が多く土地が少ない、伝統的農業社会は、どのようにして工業を主体とする近代的産業社会へ移行するか。本講義では、農業の近代化、資本の蓄積と工業化、人口移動と都市化、外資利用と国際貿易、政府と市場の役割、等など、経済開発にかかわる主なイッシュを取り上げ、それぞれに対する理論的説明をしながら、アジアニーズ、アセアン、中国などの経験を具体的に解説する。
受講者数などの状況を見て、受講生と相談の上、授業の進め方を微調整することがある。

【学習目標】
本講義の狙いは、開発経済学の視点で東アジアにおける経済開発の実態、高度成長の要因および課題について、体系的に学習し理解することである。

【講義計画】
第１回　授業の進め方、受講者の心構え、講義の概要などについて説明する。
第２回　もし地球は100人の村だったら:飽食と飢餓の併存
第３回　貧しい国はなぜ貧困から脱却できないのか:「マルサスの罠」
第４回　人口と経済の複雑な関係:人口転換
第５回　人口と経済の複雑な関係:人口ボーナス
第６回　NHKドキュメンタリー放映(途上国の人口爆発)
第７回　「緑の革命」:農業の成長メカニズム
第８回　工業発展Ⅰ:工業化はいかにして開始されるか
第９回　工業発展Ⅱ:初期条件と工業化政策[理論]
第10回　工業発展Ⅲ:初期条件と工業化政策[東アジアの経験]
第11回　NHKドキュメンタリー放映(東アジアの工業化)
第12回　都市化と人口移動①
第13回　都市化と人口移動②
第14回　前半の復習・質疑応答
第15回　中間試験
第16回　国際化:比較優位論に立脚する貿易の拡大
第17回　国際化:民間企業による直接投資の誘致
第18回　貧困、格差と所得分配①
第19回　貧困、格差と所得分配②
第20回　NHKドキュメンタリー放映(貧困と開発)
第21回　開発と環境は両立しうるか①
第22回　開発と環境は両立しうるか②
第23回　東アジアにおける成長と構造変動の連鎖的継起①
第24回　東アジアにおける成長と構造変動の連鎖的継起②
第25回　NHKドキュメンタリー(東アジア共同体への道程)
第26回　中国経済の市場化と国際化
第27回　経済成長は持続するか①:人口、食料、環境、資源
第28回　経済成長は持続するか②:人口、食料、環境、資源
第29回　総括・復習
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　20%　出席　20%
中間と期末試験はそれぞれ30点。レポートは２回の予定でそれぞれ10点。出席確認は不定期に行う。

【教科書】
渡辺利夫 開発経済学入門(第２版) 東洋経済新報社

【参考文献】
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』有斐閣。
渡辺利夫編『アジア経済読本・第４版』東洋経済新報社。

科目名　クラス　講義区分	
経済学　05＜秋集＞	
田　代　昌　孝	4単位

【講義概要】
経済のグローバル化が進むことで、財やサービスの流れが活発になり、経済が非常に複雑になってきました。それに伴う形で、経済不況による失業や物価の変動など様々な問題が家計の行動に影響を与えています。市場経済が複雑になることで、世の中にある様々な問題に対して、政府が対応しきれなくなってきました。この講義では今日議論されている様々な経済現象がなぜ生じているのかを学びます。

【学習目標】
経済の初歩的な知識を身につける。
新聞報道にある経済関連の記事を読みこなす能力を身につける。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　経済循環
第３回　市場メカニズム①
第４回　市場メカニズム②
第５回　市場の失敗①
第６回　市場の失敗②
第７回　国民所得の決定①
第８回　国民所得の決定②
第９回　所得の分配と社会保障
第10回　家計の消費と貯蓄
第11回　所得階層と失業
第12回　企業行動
第13回　投資と経済
第14回　政府の役割
第15回　税金の仕組み①
第16回　税金の仕組み②
第17回　貨幣の役割と中央銀行
第18回　金融の仕組み①
第19回　金融の仕組み②
第20回　金利の決定
第21回　国際収支
第22回　為替レートの決定
第23回　国際経済の変遷と日本経済
第24回　物価と経済
第25回　経済成長と景気変動①
第26回　経済成長と景気変動②
第27回　成長と環境
第28回　日本経済の現状と課題
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
試験は70点満点とします。出席を何回取るかは第１回のガイダンス講義で決めたいと思います。

【教科書】
山崎好裕著『目からウロコの経済学入門』ミネルバ書房
井原哲夫・牧　厚志・桜本　光・辻村和佑著『経済学入門:現実の経済を理解するために　第２版』日本評論社
賀村進一著『経済学をやさしく学ぶ』中央経済社

【参考文献】
竹中平蔵著『竹中先生、経済ってなんですか？』ナレッジフォア、2008年。(ISBN9784903441092)
佐藤雅彦・竹中平蔵著『経済ってそういうことだったのか会議』日本経済新聞社、2002年。(ISBN4532191424)

【備考】
毎回授業の初めにプリントを配布します。

科目名　クラス　講義区分	
経済学基礎理論Ａ　01＜通期＞	
麻　生　憲　一	4単位

【講義概要】
経済学には特殊な専門用語が非常に多く、そのうえ数式や統計データなども含まれているため経済学を勉強したことのない門外漢にとって、その理解は至難の業である。また日頃、新聞や雑誌などで財政・金融政策の記事は目にはするけれど、その内容を正確に理解できている人は案外と少ない。しかし、多少なりとも経済学的な考え方や専門用語を理解しているだけで経済記事の読み方や現実経済の見方が変わってくるのも事実である。その意味で、経済学は生きた学問としての醍醐味を与えてくれる。
本講義は、ミクロ経済学の基礎的な考え方、専門用語、作図の書き方などを中心に概説する。知識の習得は重要なことではあるが、ただ単に暗記に終わることのないよう配慮して授業を進めていく。

【学習目標】
ミクロ経済学の基礎概念を理解する。
（1）需要概念、供給概念
（2）経済主体の行動目的
（3）効用概念と最大化原理
（4）生産と費用
（5）利潤最大化原理
（6）市場概念と効率性

【講義計画】
第１回　講義ガイダンス
第２回　経済学概念と経済主体
第３回　市場概念（需要と供給の一致）
第４回　需要概念（需要曲線の形状とシフト）
第５回　供給概念（供給曲線の形状とシフト）
第６回　弾力性概念①（需要の価格弾力性）
第７回　弾力性概念②（供給の価格弾力性）
第８回　弾力性概念③（贅沢品と生活必需品）
第９回　余剰概念①（消費者余剰と生産者余剰）
第10回　余剰概念②（経済厚生）
第11回　家計行動（消費者の目的）
第12回　効用概念①（基数的効用と限界効用）
第13回　効用概念②（序数的効用と限界代替率）
第14回　効用概念③（効用最大化）
第15回　家計の最適行動（所得消費曲線と価格消費曲線）
第16回　需要曲線の導出
第17回　生産者行動（企業の目的）
第18回　生産関数の特性
第19回　費用関数の特性
第20回　生産者の最適行動
第21回　供給曲線の導出
第22回　完全競争市場と市場均衡①
第23回　完全競争市場と市場均衡②
第24回　不完全競争市場①（独占、寡占）
第25回　不完全競争市場②（独占的競争）
第26回　市場の失敗①（規模の経済、フリーライダー）
第27回　市場の失敗②（厚生の社会的損失）
第28回　情報の不確実性（レモンの原理、逆選択）
第29回　ゲーム理論の経済学への応用
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　20%　出席　30%
定期試験と夏期レポート、出席により評価する。毎回授業の終わりに行う「確認テスト」が出席カードとなる。

【教科書】
使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】
授業中にその都度指示する。

科目名　クラス　講義区分	
経済学基礎理論Ａ　02＜通期＞ 経済学基礎理論Ａ　03＜通期＞	
田　中　　悟	４単位

【講義概要】
近代経済学の入門的・基礎的な理論の概説を通じて、経済学の考え方を学ぶ。前期(春学期)ではミクロ経済理論を、後期(秋学期)ではマクロ経済理論を取り扱う。講義は単に理論の概説だけでなく、現実の経済現象が経済理論によってどのように捉えられるのかという点を意識しながら進められる。

【学習目標】
本講義では入門的な経済理論が講述される。講義で扱われる理論の習得を通じて、様々な経済現象に対する「経済学的な見方」を養うことが、本講義の目標となる。受講者は、現実の経済現象と講義で扱われる経済理論を比較対照しながら、「経済学的な見方」を身につけることが期待される。

【講義計画】
第１回　Introduction(経済学の対象と課題)
第２回　〃　(経済学的思考とは何か)
第３回　〃　(取引の利益)
第４回　市場メカニズムとは何か(需要と供給)
第５回　〃　(市場メカニズムの帰結)
第６回　〃　(市場メカニズムの応用例①)
第７回　〃　(市場メカニズムの応用例②)
第８回　市場メカニズムの意義(経済主体の行動)
第９回　〃　(余剰概念)
第10回　〃　(市場メカニズムの効率的帰結)
第11回　〃　(余剰概念の応用例)
第12回　市場の失敗(市場メカニズムの限界)
第13回　〃　(外部効果)
第14回　〃　(市場メカニズムと公共政策)
第15回　中間試験
第16回　国民経済計算(マクロ経済学の対象と課題)
第17回　〃　(経済循環と国民所得概念)
第18回　〃　(国民所得概念の意味と内容)
第19回　〃　(インフレーションの測定)
第20回　〃　(名目値と実質値)
第21回　長期の実物経済(生産と経済成長)
第22回　〃　(経済成長と公共政策)
第23回　〃　(金融機関と金融市場)
第24回　〃　(貯蓄・投資の決定と金融システム)
第25回　短期の経済変動(経済変動の基本モデル)
第26回　〃　(総需要曲線)
第27回　〃　(総供給曲線)
第28回　〃　(総需要・総需要分析)
第29回　定期試験

【成績評価の方法】
授業中に課す数回の宿題ないしは小テスト(30%)と定期試験(中間試験を含む：70%)の結果を総合評価する。

【教科書】
マンキュー，Ｎ．Ｇ．著／足立他訳 マンキュー入門経済学 東洋経済新報社

【参考文献】

１．スティグリッツ著・薮下/秋山/金子/木立/清野訳(2006)『入門経済学』(東洋経済新報社)
２．伊藤元重(2001)『入門経済学(第２版)』(日本評論社)
３．福岡正夫(2008)『ゼミナール経済学入門(第４版)』(日本経済新聞社)
４．マンキュー著・足立/小川/中馬/石川/地主/柳川訳『マンキュー経済学(１)ミクロ編』『マンキュー経済学(２)マクロ編』(東洋経済新報社)

【備考】
【準備学習の指示】授業前にテキストに目を通すと共に、日頃から経済現象に関する情報の収集に努めることが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
経済学基礎理論Ａ　04＜秋集＞	
中　村　勝　之	４単位

【講義概要】
2007年10月でもって、2002年１月以降戦後最長を記録していた好景気（「いざなみ景気」と仮に呼んでいる）が事実上終わりを告げた。その後の報道における不安感の煽りは、(極端だが)「この世の終わり」を叫ばんばかりである。
しかしこれまでの経験から、いわゆる（原油先物など）金融商品の価格の高騰が永続した歴史はなく、いつかは暴落する。その経験を知っているならば、われわれはそれに対する「備え」を持ち合わせていないと大変な目に遭う。つまりわれわれが今持たねばならないことは、報道に煽られて不安感を募らせることより、この事態が生起するまでに日本経済がその事態にどこまで耐えられる体力を保持していたかを冷静に見ることである。
そこでこの講義では戦後最長の好景気を記録した最近の日本経済事情を材料に、日本経済の真の体力を冷静に判断していくことにする。
なお必要に応じて数学を利用して行くので、この点を覚悟した上で受講に臨んで頂きたい。そうすれば、日本経済の現状が一定程度明瞭に見えてくるはずである。

【学習目標】
①講義の中心は政府の公式見解でもある『経済財政白書』の解説である。それを通じて「経済データの読み方」を学習する。
②『白書』の記述内容の裏には経済学の理論が横たわっている。その中から基本的な部分を「数理モデル」として提示し、その構造やメカニズムを学習する。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　経済学の色眼鏡
第３回　GDPⅠ（三面等価の原則）
第４回　GDPⅡ（いろいろな国民経済計算指標）
第５回　GDPⅢ（名目GDPと実質GDP）
第６回　第１回小テスト
第７回　日本経済事情Ⅰ（概略と雇用動向）
第８回　日本経済事情Ⅱ（企業の利益動向）
第９回　日本経済事情Ⅲ（輸出入動向）
第10回　第２回小テスト
第11回　政策事情Ⅰ（財政事情）
第12回　政策事情Ⅱ（財政改革）
第13回　政策事情Ⅲ（金融政策）
第14回　第３回小テスト
第15回　中間試験
第16回　金融危機と日本経済Ⅰ
第17回　金融危機と日本経済Ⅱ
第18回　金融危機と日本経済Ⅲ
第19回　社会保障と日本経済Ⅰ
第20回　社会保障と日本経済Ⅱ
第21回　社会保障と日本経済Ⅲ
第22回　第４回小テスト
第23回　雇用保険の経済分析Ⅰ
第24回　雇用保険の経済分析Ⅱ
第25回　雇用保険の経済分析Ⅲ
第26回　雇用保険の経済分析Ⅳ
第27回　雇用保険の経済分析Ⅴ
第28回　本講義のまとめ
第29回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　100%　出席　100%
①講義時間中に行われる「小テスト」（４回実施。場合によって５回程度実施することがある。その獲得点数合計を100点満点に換算）
②講義期間中頃に行われる「中間試験」（100点満点）
③「期末試験」（100点満点）
※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算
※（必要であれば）書く受講生の獲得点数に応じた加点措置を行い、その結果が60点以上のものが合格。
※上記加点措置で59点以下の者には「出席点」を加味する。

【教科書】
使用しない。配付する資料にしたがって講義する。

【参考文献】
内閣府編『経済財政白書』(平成15年版～21年版)
ただし最新の白書（22年版）が講義開始時点で刊行されていれば、それを使用する。

【備考】
受講生数や理解度などを勘案して、講義進行を変更することがある。

科目名　クラス　講義区分	
経済学基礎理論Ｂ　01＜通期＞	
阿　部　秀二郎	４単位

【講義概要】

経済学は専門的になりすぎて、簡単に説明することはとても難しくなりました。経済理論といってもいろいろな見方や説明があります。この授業では、難しいことを「簡単には説明できない」という前提に立ちます。それでも経済学の勉強は楽しいものです。皆さんとの双方向のやり取りを大切にしながら、時にはインターネットで経済学の勉強の仕方も説明しながら、基礎的な知識と思考を積み重ねていきましょう。

【学習目標】

経済の中心は「市場」です。ですから「市場」について、把握し思考できること。

経済用語について理解するだけではなく、自ら調べ理解できるようになること。

倫理的な考え方とは別に、経済的な考え方が存在していることをりかいすること。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション①
　　授業目的、教員の自己紹介、成績方法などについての説明
第２回　オリエンテーション②　上の①に加え、第１回目の質問や意見に、回答する形で、議論する。
第３回　市場とは①
第４回　市場とは②
第５回　市場とは③
第６回　財市場①
第７回　財市場②
第８回　経済学のレポート作成について
第９回　金融市場①
第10回　金融市場②
第11回　労働市場①
第12回　労働市場②
第13回　レポート返却と議論
第14回　市場の問題点①
第15回　市場の問題点②
第16回　前期授業の復習
第17回　マクロ経済学①
第18回　マクロ経済学②
第19回　マクロ経済学③
第20回　ミクロ経済学①
第21回　ミクロ経済学②
第22回　ミクロ経済学③
第23回　経済問題の実習と解答
第24回　国際経済と日本①
第25回　国際経済と日本②
第26回　レポート返却と議論
第27回　総復習①
第28回　総復習②
第29回　テスト
第30回　テスト解説

【成績評価の方法】

試験　60%　レポート　40%　出席　０%
この方法は未決です。初回の議論で煮詰め、第２回目に結論を提出します。

【教科書】

岩田規久男 経済学の考え方 ちくま書房

【参考文献】

適宜指示します。また上に挙げたテキストは、順序通りに進むわけではありませんが、授業内容をより理解するために必読です。

【備考】

積極的に授業に関連することを望みます。単位を修得するためではなく、能力を伸ばすことを目的に履修してください。

科目名　クラス　講義区分	
経済学基礎理論Ｂ　02＜通期＞	
大　澤　　健	４単位

【講義概要】

私たちが暮している社会は「市場経済」あるいは「資本主義社会」と呼ばれています。しかし、「市場」とは何か、「資本」とは何かと聞かれると正確に答えることは難しいものです。

この講義では、こうした経済の基本的な用語の意味を解説しながら、私たちが暮している社会の基本的な仕組みと特徴を講義していきます。経済の基本を学びながら、この社会がどういう社会であるのか学びましょう。

【学習目標】

以下の諸項目について、理解することを目標とします。
「市場経済の特性」
「貨幣の役割」
「市場経済と資本の関係」
「資本の運動と資本主義社会の性格」

【講義計画】

第１回　ガイダンス　および講義についてのアンケート調査
第２回　１．市場経済の特徴　市場とは何か
第３回　　市場経済の原則
第４回　　市場経済と社会全体
第５回　　商品の価格（価値）は何によって決まるのか
第６回　　労働価値論の系譜とその意味
第７回　　唯物史観とその意味
第８回　２．貨幣と通貨制度　貨幣とは何か
第９回　　貨幣の役割①　価値尺度と交換手段
第10回　　貨幣の役割②　交換手段と商品流通
第11回　　貨幣の役割③　貨幣としての貨幣
第12回　　通貨制度①　銀行信用と信用通貨
第13回　　通貨制度②　中央銀行と現在の銀行制度
第14回　　通貨制度③　金本位制度
第15回　　通貨制度④　国際的管理通貨制度
第16回　３．資本とその特徴　貨幣の資本への転化
第17回　　労働力商品の販売と購買
第18回　　資本の生産過程と価値増殖
第19回　　システムとしての資本主義
第20回　　資本主義社会の特徴①　利潤追求の意味
第21回　　資本主義社会の特徴②　生産の拡大
第22回　　資本主義社会の特徴③　資本主義の矛盾
第23回　　相対的剰余価値の概念と発生の仕組み
第24回　　相対的剰余価値と資本の特徴
第25回　　相対的剰余価値を生み出す生産過程の変化
第26回　４．資本の蓄積過程　資本主義的生産と蓄積
第27回　　蓄積と相対的過剰人口
第28回　５．資本主義社会の全体像　　資本の循環と３局面
第29回　　資本の循環と４つの市場
第30回　まとめ　振り返り

【成績評価の方法】

試験　80%　レポート　15%　出席　５%
前期にレポートを課す予定。このレポートを加点要素として考慮する。
つまり、レポートを提出しない場合でも、減点は行わない。

【教科書】

柴田信也編著 政治経済学の原理と展開 創風社

【備考】

経済学の最も基礎的な部分を講義しますが、その分だけ話は抽象的なものになります。抽象的な話は、具体的な経済をある程度知っていると聞きやすくなります。

そこで、新聞の経済欄、経済新聞、テレビ等の経済ニュースなどを毎日読むクセを付けてください。その中で、自分が興味を持てるないようについて、チェックしておくとさらに良いでしょう。

科目名　クラス　講義区分	
経済学基礎理論B　03<春集>	
松　尾　　純	4単位

【講義概要】

この講義は、資本主義市場経済の最も基礎的な仕組みとそれを構成する基礎的な諸概念を理解することを目的としています。資本主義経済の基礎的仕組みとその諸概念を理解するためには、社会を経済的側面だけから見るだけでは不十分です。この社会を構成している政治的・社会的・制度的な諸側面をも含めて総合的に分析しなければなりません。

この目的を果たすために、この講義では、経済学の基礎理論を学ぶだけではなく、「経済学の歴史」（重商主義、重農主義、古典派経済学、限界革命によって成立した新古典派経済学、ケインズ経済学等）と「経済の歴史」を概観します。この作業を通じて、資本主義経済を、政治的・社会的・制度的な諸側面から包括的に理解する方法を身につけることができるように配慮しつつ講義を進めていきます。

なお、本講義は、直接的には、本学カリキュラムの「経済原論」（＝マルクス経済学）の基礎を解説することを目的とします。

【学習目標】

上記の講義を通じて、絶えず歴史的に変化しつつある政治状況や経済状況を、客観的・批判的に理解しうる市民的教養を身につけることを学習目標にする。

【講義計画】

第１回　講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
第２回　経済学とは何か。経済学の目的。
第３回　経済の歴史の概観。原始共同体～奴隷制～封建制～資本主義～社会主義社会
第４回　経済学の歴史の概観①。前期重商主義。
第５回　経済学の歴史の概観②。後期重商主義。
第６回　経済学の歴史の概観③。重農主義。
第７回　経済学の歴史の概観④。アダム・スミスのLife and Works、彼の道徳哲学、法学講義。
第８回　経済学の歴史の概観⑤。アダム・スミス『国富論』解説。分業論・価値論論。分配論。
第９回　経済学の歴史の概観⑥。アダム・スミス『国富論』解説（続き）。資本蓄積論。
第10回　経済学の歴史の概観⑦。D．リカードの経済学。D．リカードのLife and Works。
第11回　経済学の歴史の概観⑧。D．リカードの経済学。『経済学及び課税の原理』解説。
第12回　経済学の歴史の概観⑨。J・S・ミルの経済学。『経済学原理』解説。
第13回　経済学の歴史の概観⑩。限界革命と新古典派経済学。
第14回　経済学の歴史の概観⑪。ケインズの経済学。
第15回　商品論。
第16回　商品論（続き）。
第17回　貨幣論。
第18回　貨幣論（続き）。
第19回　資本とは何か。
第20回　剰余価値論。
第21回　剰余価値論（続き）。賃金論。
第22回　資本蓄積論。
第23回　資本の流通過程。
第24回　利潤論。
第25回　信用論
第26回　地代論
第27回　現代の日本経済および国際経済を理論的に概観する。
第28回　講義全体の総括。

【成績評価の方法】

試験　100%　レポート　0%　出席　0%
学期末の試験は行わない。
成績評価は、授業時間内に予告なしに実施する６回の小テストによって行なう。
小テスト得点合計（各回20点満点）によって成績評価を行う。小テストの得点合計が60～69点であればC評価となり、70～79点であればB評価となり、80点以上であればAとなる。
出欠調査は行わない。

【参考文献】

市販の教科書等は使用しない。代わりに、可能なかぎり、講義要旨・参考資料等の資料を配布する。資料配付は各回の講義に必要な資料をその都度講義時間内に限って配布する。

【備考】

【準備学習の指示】
すでに配布された講義要旨・参考資料等の資料をよく読んだ上で、分からない論点や記述部分について自分で調査したり質問事項をまとめておくとともに、次回講義での議論の展開に備えておくことこと。

科目名　クラス　講義区分	
経済学史　<通期>	
熊　谷　次　郎	4単位

【講義概要】

経済学の歴史は、経済現象を理解するために人々が試みてきた知的努力の歴史である。そうした努力は、各時代の経済学者やエコノミストが、現象の理解と問題解決のために経済学特有の言語を創案し、それをもとに分析の概念や装置――これらは彼らの価値観や世界観と切り離すことはできない――をつくりあげてきた過程である。この経済学の形成と発展の歴史を、以下のように４つの段階に分けて通史的に講義する。

（１）重商主義。17世紀～18世紀末。富は主として外国貿易によって増加すると論じ、国内産業も外国貿易との関連でその意義が論じられた時代の思想と政策。貿易と外国為替、経済循環における貨幣の役割、産業と貿易の保護政策、重商主義帝国などがテーマ。
（２）科学的経済学の基礎を打ち立てた、17世紀末のペティやロックから、18世紀半ばの重商主義解体期におけるヒューム、ステュアート、タッカー、ケネーなどの思想と理論が中心。
（３）古典派経済学。18世紀末～19世紀中葉。経済学の父といわれるアダム・スミスからはじまり、産業革命期以後の自由主義的経済学が対象。富は労働の生産物であるという観点から労働価値論と資本蓄積の重要性を強調するとともに、自由貿易、完全雇用、市場の自動調整機構、セー法則などのもとにおける経済循環を論じた、リカードウやJ．S．ミルが中心。
（４）古典派経済学批判。マルクスによる資本主義批判、18世紀末にイギリスから独立したアメリカのハミルトン財務長官が唱えた産業育成策、ならびに19世紀半ばのドイツにおけるリストの幼稚産業保護論、現代ミクロ理論の先駆的存在である限界（効用）分析を展開した1870年代の経済学者たち、1930年代の大不況期におけるケインズ経済学など。

この講義ではさまざまな時代の経済学者たちがその時代の経済社会を観察し、分析し、政策提言をする際の、その思想の多様性・アイデアの豊穣さ、といったようなものを多少論争史的視点をも取り入れながら話すつもりである。それによって経済学に関する知識が広がり、ものごとを相対的に見る視点が養われることを願っている。世界史や経済史・社会史・知性史とも関連をもつ講義なので、そうした分野に関心をもつ諸君は、それを一層深めるために、またそうした分野に無知あるいは苦手な諸君は、これを機会にそれを学ぶつもりで受講してほしい。

【学習目標】

経済学は、時代の課題の仕組み（構造）を解明し、問題解決の指針を提起することを課題としている。その意味で、いかなる経済学も歴史の子であることを免れない。現代の主流的経済学（main stream economics）――何か主流的かということが問題であるが――もその例外ではない。この講義では、そうした歴史科学としての性質をもつ経済学の形成と発展をたどることで、現代経済（学）の歴史的バックグランドを理解することを目標とする。経済（学）に関する幅広い教養を会得したいと思っている諸君に適した講義となることを目指すつもりである。

【講義計画】

第１回　経済学史とは何か――この授業のガイダンスも兼ねて
第２回　大航海時代の幕開け・商業革命と経済学の形成
第３回　Ⅰ．近世における経済学――重商主義とは何か
第４回　（１）1620年不況とジェラード・マリーンズの通貨・為替論
第５回　（２）トマス・マンの貿易差額論
第６回　（３）貿易差額論から労働差額論へ
第７回　（４）キャラコ論争（17世紀末）――東インド貿易は有利か不利か
第８回　（５）改鋳論争（17世紀末）――貨幣の価値は何に依存するのか
第９回　（６）対仏ユトレヒト通商条約論争――対仏貿易は有利か不利か
第10回　（７）植民地・帝国・経済学――ダニエル・デフォーの経済論
第11回　Ⅱ．近代への移行期の経済学――重商主義解体期における経済学
第12回　（１）ウィリアム・ペティ――労働価値論の萌芽と「政治算術」
第13回　（２）デイヴィッド・ヒューム――奢侈・インダストリー・貨幣数量説
第14回　（３）ジェームズ・ステュアート――有効需要と国家の役割

か行

第15回　前期試験
第16回　(4)ジョサイア・タッカー――自由貿易帝国主義への予兆
第17回　(5)フランソワ・ケネー『経済表』における経済循環
第18回　Ⅲ．古典派経済学の成立と発展
第19回　(1)アダム・スミス――「経済学の父」のおける文学と経済学
第20回　(2)『国富論』における分業論・価値論・資本蓄積論
第21回　(3)スミスの貨幣観と重商主義批判
第22回　(4)19世紀転換期の経済論争――人口論争・通貨論争・穀物法論争
第23回　(5)デイヴィッド・リカードウの価値論と地代論
第24回　(6)リカードウの資本蓄積論と貿易論
第25回　(7)J.S.ミル――ヴィクトリア朝知識人の経済思想
第26回　Ⅳ．古典派経済学批判者群像　(1)マルクス――資本主義経済の批判的解剖
第27回　(2)後発国の工業化と保護主義――A.ハミルトンとF.リスト
第28回　(3)限界革命の経済学者たち――メンガー、ジェヴォンズ、ワルラス
第29回　(4)J.M.ケインズ――有効需要理論による不況克服策
第30回　後期試験

【成績評価の方法】
試験　100%
前期と後期の２回の試験の総合点（平均点）でもって評価。平均60点以上をもって合格とする。

【参考文献】
参考文献はその都度必要に応じて提示するが、全体を通じて参考書としては、マグヌソン著／熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義――近世ヨーロッパと経済的言語の形成』知泉書館,2009年。

【備考】
【準備学習の指示】
毎回の講義の終わりに、次の講義において重要な意味をもつ、語句・キーワード・概念などを下調べしておくように指示する。
【講義資料の配布】
毎回講義内容を書いた資料を配付する予定。この資料だけを取って出て行くというような破廉恥な行為をしない矜持だけはもとう。

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－英語で学ぶ世界の中の日本　＜秋＞	
モグベル　ザファル	２単位

【講義概要】
This is an introductory course on the Japanese economy with a focus on the status of Japan in the global economy and its basic international economic strategies and achievements in the postwar period. Lectures will focus on familiarizing economics and non-economics majors with Japan's basic policy framework for its international economic relations and on examing the course of Japan's progress from postwar reconstruction to global economic superpower.

Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and tests will also be written in English. Therefore, a high level of English comprehension is required.

【学習目標】
The purpose of this course is to gain a general knowledge of: Japan's position in the global economy; global developments affecting Japan's economic performance since the 1980s; Japan's global economic strategies; and problems and challenges facing Japan in the process of globalization.

【講義計画】
第１回　The Japanese economy in the world economy today
第２回　Statistical overview
第３回　Japan's postwar development model
第４回　Challenges of globalization
第５回　Some non-economic issues: Declining Japan
第６回　Some non-economic issues: Resurgent Japan
第７回　Japan as a member of the East Asian Community
第８回　Japan's struggles with the challenges of globalization: Cultural and human aspects
第９回　Japan's struggles with the challenges of globalization: Political and economic aspects
第10回　Japan's foreign trade: policies, strategies, achievements
第11回　Japan's international economic negotiations: 1985-1993
第12回　Recent developments in Japan's balance of payments
第13回　Foreign investment: policies, strategies, achievements
第14回　Summarization and Review
第15回　Test

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　０%　出席　20%
Grades will be based on attendance, participation in class discussions, and final test.

【参考文献】
No textbook will be assigned. Handouts will accompany each lecture and will serve as a basis for instruction and discussion.

【備考】
Instructions for class preparation:
1. Read the materials in advance and be prepared to participate in discussions.
2. Be prepared to ask questions on topic of study.
・英語による講義

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－英語で学ぶ戦後日本経済　＜春＞	
モグベル　ザファル	2単位

【講義概要】
This is an introductory course on the Japanese economy focused on the domestic aspects of postwar development. The purpose is to familiarize economics majors and non-majors with the basic framework of the present-day Japanese economy and some salient domestic economic events and developments that have determined the course of the nation's postwar economic progress. Lectures will cover key issues in each of the six postwar decades and will close with a speculative vision of Japan in the year 2020 with a focus on what role Japan can be expected to play in the global economy of the 21 st century. Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and tests will also be written in English. A high level of English comprehension is required.

【学習目標】
The purpose of this course is to gain a general knowledge of: the postwar development path of the Japanese economy; the successes and failures of Japan's growth strategy; and current economic problems and challenges.

【講義計画】
第1回　Overview of the Japanese economy today
第2回　Statistical overview
第3回　Dimensions of Japan's economic power and influence
第4回　Japan's demographic crisis
第5回　Phoenix risen from the ashes: rejoining the community of nations
第6回　Income-Doubling Plan and the era of accelerated economic growth
第7回　Limits to growth: environmental crisis and oil shocks
第8回　Japan bashing and the logic of incremental adjustment
第9回　Plaza Accord and learning to live with the strong yen
第10回　Bubble economy: policy failure and irrational exuberance
第11回　Limits of Japan's postwar economic model and the lingering post-bubble crisis
第12回　Vision for Japan in 2020
第13回　Summarization and Review
第14回　Summarization and Review
第15回　Test

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　0%　出席　20%
Grades will be based on attendance, participation in class discussions, and final test.

【参考文献】
No textbook will be assigned. Handouts will accompany each lecture and will be used as a basis for instruction and discussion.

【備考】
Instructions for class preparation:
1. Read the materials in advance and be prepared to participate in discussions.
2. Be prepared to ask questions on topic of study.
・英語による講義

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－外国為替取引概説　01＜春＞ 経済学特講－外国為替取引概説　02＜秋＞	
伊　藤　彰　一	2単位

【講義概要】
In the context of world-scale globalization, It is essential to gain knowledge of foreign currency exchange transactions, whether you are involved in cross border business or not. This is an introductory course on the foreign currency exchange business.
Some simple calcurations will be performed in the class.
You are advised to bring your culculator with you.
Guest speakers will be invited as necessary.

【学習目標】
The purpose of this course is to make students informed about the foreign currency money market, and to promote the accurate comprehension of international business.

【講義計画】
第1回　Money and money supply
第2回　Bank of Japan
第3回　Commercial bank
第4回　Exchange
第5回　Tokyo market
第6回　Spot and forward
第7回　Exchange position
第8回　Bonds
第9回　Balance of payment
第10回　Exchange rate forcast
第11回　History of exchange in Japan
第12回　After US$ domination
第13回　Econimic globalization
第14回　International trade of Japan

【成績評価の方法】
レポート　60%　出席　40%
Reports submitted 60%
Attendance　40%

【教科書】
Handouts will be provided

【備考】
・英語による講義

か行

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－外国為替取引概説　03＜秋＞	
伊　藤　彰　一	２単位

【講義概要】
グローバリゼーションが世界的規模で進行する現状を考えると、外国とのビジネスに直接携わるかどうかにかかわらず、外国為替の知識を持つことが必要となる。
これは、外国為替ビジネスの入門コースです。
講義中簡単な計算を行うので、電卓持参をお勧めする。また、専門用語に英語が多用されるので、英語に辞書を持参したほうが良いでしょう。
必要に応じてゲスト講師を招聘することがある

【学習目標】
この講座はマニーエクスチェンジの入門コースで、外国為替市場に関する知識を得ると同時に、国際ビジネスの正確な概念を習得することを目的としている。

【講義計画】
第１回　通貨とマネーサプライ
第２回　日本銀行
第３回　商業銀行
第４回　エクスチェンジ
第５回　東京市場
第６回　直物と先物
第７回　為替ポジション
第８回　債券市場
第９回　国際収支
第10回　為替相場予測
第11回　為替市場の日本史
第12回　ポスト米ドル支配
第13回　経済のグローバリゼーション
第14回　日本の貿易事情

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　40%　出席　30%
講義中、抜き打ちでテストをすることがあります。

【教科書】
適宜資料を配布します。

【備考】
これは英語で行っている講義の日本語版です。

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－経営戦略論入門　＜春＞	
辻　　洋一郎	２単位

【講義概要】
経営戦略論とは、組織が保有資源（人。モノ・カネ・情報）を有効に配分・活用し、目標を達成するために行動する指針や行動計画のことです。この考え方は、企業だけでなく、組織と名のつくもの－国家・自治体・NPO・チーム－に不可欠な考え方です。また、これはあなたがた一人一人が有意義な営為をするために有効な考え方を提示してくれます。本講義では、具体的な事例に基づいて、初心者にも判りやすく基本となる考え方を示します。

【学習目標】
基本的な知識を修得するのは当然ですが、受講生一人一人が自分の身近な事例をもとに、将来役立つ「考え方」をマスターすることに重点をおきます。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　経営戦略とは①
第３回　経営戦略とは②
第４回　戦略要素について①
第５回　戦略要素について②
第６回　経営戦略論の系譜
第７回　経営戦略の実例①
第８回　経営戦略の実例②
第９回　経営戦略の実例③
第10回　経営戦略の策定①
第11回　経営戦略の策定②
第12回　経営戦略のさまざまな考え方①
第13回　経営戦略のさまざまな考え方②
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100%
平常点も加味して評価します。

尚、本講義の予習は必要ありませんが、毎回、その日のうちに復習しておくことをお奨めします。方法は、講義中に示します。

【教科書】
適宜指示します。

【参考文献】
適宜指示します。

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－経済学検定試験対策講座Ａ　＜春＞	
三　原　裕　子	２単位

【講義概要】
本講義では、過去に経済学検定試験（特に、ミクロ経済学）において実際に出題された（またはそれに類似した）問題を解く事を通じて、経済学の知識を身につける事を目的とします。
経済学検定試験とは、大学４年間を通じて経済学の知識をどれだけ身につけたのか、という事を客観的に測る試験として利用されています。よって、就職活動において、他者と差別化を図るための手段として、経済学検定試験の結果を用いる事は十分に有益になるでしょう。その内容としては、比較的容易なものから難題なものまでさまざまです。さらに、問題の質としては公務員試験のそれと非常に類似しており、公務員試験対策としても十分に活用できるはずです。ただし、経済学検定試験にしても、公務員試験にしても、確実に言える事は、問題を解く際には理論的な思考が要求されるという事です。また、丸暗記によって対応できる問題は少なく、その意味でいかに手を動かしたか、という事が高得点を取る決め手になるといえます。
以上を踏まえて、本講義では丸暗記に頼る事なく、経済学の問題を解くための実践的な力を養います。

【学習目標】
本講義の最終目標としては、理論的な思考を養いつつ、数多くの問題を解く事を通じて、最低限、ミクロ経済学における基礎的な問題を難なく解けるようになる事を目指します。

【講義計画】
第１回　ガイダンスおよび経済学検定試験を解く上で最低限必要となる数学を学習
第２回　経済数学
第３回　消費者理論の概要［講義］
第４回　消費者理論［問題演習（１）］
第５回　消費者理論に関する［問題演習（２）］
第６回　生産者理論の概要［講義］
第７回　生産者理論［問題演習］
第８回　完全競争市場化における生産者の行動［講義］
第９回　完全競争市場化における生産者の行動［問題演習］
第10回　不完全競争市場における生産者の行動（独占）［講義］
第11回　不完全競争市場における生産者の行動（独占）［問題演習］
第12回　不完全競争市場における生産者の行動（復占、寡占）［講義］
第13回　不完全競争市場における生産者の行動（復占、寡占）［問題演習］
第14回　ゲーム理論［講義および問題演習］
第15回　ゲーム理論［講義および問題演習］

【成績評価の方法】
試験　100%　出席　０％
試験の内訳として、小テスト、中間テスト、学期末試験を予定しています。

【備考】
レジメを適宜配布します。また、受講生の理解度に応じて、講義のペースが変更される場合があります。
【準備学習の指示】
講義開始前にあらかじめ予習して頂くものはありません。ただし、授業が始まるとレジュメを配布し講義を進めていきますので、その際には前もってレジュメに目を通すなどの予習を心がけてください。
また、授業では頻繁に図を用いますので、定規は必ず持参して下さい。

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－経済学検定試験対策講座Ｂ　＜秋＞	
三　原　裕　子	２単位

【講義概要】
本講義では、マクロ経済学を中心に、過去に経済学検定試験において実際に出題された（またはそれに類似した）問題を解く事を通じて、経済学の知識を身につける事を目的とします。
マクロ経済学を学ぶ際に、ミクロ経済学以上に丸暗記に頼る人が多く見受けられます。ところが、マクロ経済学では暗記すれば事足りる「公式」は存在しません。よって、問題を解く際には、問題において想定されている世界観をきっちり整理してから、問題を解く必要があります。
そこで、本講義では問題を解くという力を養う事は当然のことながら、世界観をもきちんと整理するための力をも同時に養います。

【学習目標】
本講義の最終目標は、基本的なマクロ経済学の世界観をきちんと整理し、少なくとも経済学検定試験に出題された基本的な問題、若干の応用問題を臆することなく解けるようになる事を目標とします。

【講義計画】
第１回　ガイダンスおよび講義にあたって必要な数学を講義
第２回　経済数学
第３回　国民経済計算［講義］
第４回　国民経済計算［問題演習］
第５回　産業連関表［講義］
第６回　産業連関表［問題演習］
第７回　45度線分析［講義］
第８回　45度線分析［問題演習］
第９回　IS-LM分析［講義］
第10回　IS-LM分析［問題演習（１）］
第11回　IS-LM分析［問題演習（２）］
第12回　成長理論［講義―ハロッド　ドーマー理論―］
第13回　成長理論［講義―新古典派成長理論―］
第14回　成長理論［問題演習］
第15回　成長理論［問題演習］

【成績評価の方法】
試験　70%　出席　30%
試験のうちわけとして、小テスト、中間試験、学期末試験を予定していますが、小テストに関してはその代替として宿題を課す場合があります。
また、中間試験は行わない場合もあります。

【参考文献】
適宜紹介します。

【備考】
テキスト指定はせず、適宜レジュメを配布します。
また、受講生の理解度に応じて授業計画におけるペースが若干変更される場合もありますので、ご了承ください。
【準備学習の指示】
講義開始前にあらかじめ予習して頂くものはありません。ただし、授業が始まるとレジュメを配布し講義を進めていきますので、その際には前もってレジュメに目を通すなどの予習を心がけてください。
また、授業では頻繁に図を用いますので、定規は必ず持参して下さい。

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－経済学部で必要な中高数学　＜秋＞	
三　原　裕　子	２単位

【講義概要】
本講義では経済学を学ぶ上で、最低限理解しておく必要がある数学を学ぶことを目的とします。といっても、実は経済学を理解するために必要な数学の知識の大半は、「連立方程式」と「微分」です。特に連立方程式をきちんと解けて、さらに図示さえできれば、解ける問題は非常に多いのです。しかしながら、鶴亀算は難なく解けるにもかかわらず、経済学の問題を解くにあたり、連立方程式が解ければできる問題が解けない人が多く見受けられます。この原因の一つとして、未知数を表す記号としてx、y以外の記号が用いられると、とたんに怖くなってしまうからではないでしょうか。高校時代に慣れ親しんできたという理由からか、記号が変わること自体に抵抗を覚える人はかなりの程度存在しているように思われます。しかも、経済学で連立方程式を解く、といっても解を出せれば終わりなのではなく、求めた解を経済学的にどのように解釈するか、という力も要求されます。つまり、経済学で数式を用いる際には、単純に解を求める力＋数式を日本語に訳する力　という２つが同時に要求されるため、これが過度に経済学を難しく感じさせてしまう要因となってしまうのでしょう。
そこで本講義では、実際に高校レベルの数学を用いて解ける経済学の問題を紹介していこうと思います。

【学習目標】
本講義では、問題（またはテキスト）に記されている日本語にしたがって、数式を組み立てていけば、多くの問題は解ける（またはテキストを理解できる）という事を実感してもらい、さらに記号の恐怖心を取り除く事を目標とします。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　方程式と関数
第３回　関数とグラフ
第４回　連立方程式の復習
第５回　連立方程式を用いた経済学での応用（45度線分析）
第６回　連立方程式を用いた経済学での応用（IS-LM分析）
第７回　連立方程式を用いた経済学での応用（産業連関表）
第８回　一変数関数の微分法
第９回　一変数関数の微分[問題演習]
第10回　微分の応用
第11回　連立方程式、一変数関数の微分を用いた経済学での応用例（消費者の効用最大化問題）
第12回　企業の利潤最大化問題
第13回　行列
第14回　行列[問題演習および経済学での応用例の紹介]

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　０%　出席　０%
試験のうちわけとして、小テスト、中間試験および学期末試験を予定しています。

【参考文献】
適宜紹介します。

【備考】
テキスト指定はせず、必要なレジュメを適宜配布します。また、受講生の理解度に応じて、講義のペースが変更される場合がありますので、ご了承ください。
【準備学習の指示】
講義開始前にあらかじめ予習して頂くものはありません。ただし、授業が始まるとレジュメを配布し講義を進めていきますので、その際には前もってレジュメに目を通すなどの予習を心がけてください。
また、授業では頻繁に図を用いますので、定規は必ず持参して下さい。

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－現代日本経済の統計分析　＜秋＞	
荒　木　英　一	２単位

【講義概要】
This is an introductory course of statistical analyses with a special focus on the current Japanese economy. The first three classes will be dedicated to elementary lectures of econometrics. Then, we will choose some topics on the Japanese economy, for each of which I will give you a general explanation and you will carry out an econometric analysis according to my guidance.

【学習目標】
The purpose of this course is to cultivate your understanding of the Japanese economy and to provide you with some general analytical techniques through the practice of statistical analyses.

【講義計画】
第１回　An introduction to descriptive statistics（1）
第２回　An introduction to descriptive statistics（2）
第３回　An overview of the current Japanese economy
第４回　Analysis of GDP statistics（1）
第５回　Analysis of GDP statistics（2）
第６回　Regression Analysis（1）
第７回　Regression Analysis（2）
第８回　Trade surpluses and Japan's economy（1）
第９回　Trade surpluses and Japan's economy（2）
第10回　Characteristics of the Japanese financial system（1）
第11回　Characteristics of the Japanese financial system（2）
第12回　Structural changes in the Japanese economy（１. Employment practice）
第13回　Structural changes in the Japanese economy（2. Gap between rich and poor）
第14回　Structural changes in the Japanese economy（３. Technical progress）
第15回　Final examination

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　40%

【参考文献】
Handouts will be provided.
All the materials can be browsed in my website:
http://rio.andrew.ac.jp/araki/

【備考】
・英語による講義